

尾道市立大学授業計画

授業科目名		キャリア形成入門		開講年次		1年	開講年度学期		2026年度後期		単位数	2単位
科目コード		G-LC-111L		担当教員名		八木 力俊		担当形態				
【科目の位置付け】												
この授業の基礎となる科目						次に履修が望まれる科目		ビジネスキャリア入門 キャリア形成演習				
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) この授業の目的は、キャリアの考え方を理解することです。そして、自己分析と自己理解を通じて自らのキャリアを見つめ将来像を描きます。また、そのための基盤となる、以下のような「基礎的・汎用的能力」を身につけることです。												
(受講生の到達目標) 到達目標1. 本学から広がる将来への可能性や学生生活について説明することができる。 到達目標2. 学問的・専門的知識を活かした将来を見据えて計画を立てることができる。 到達目標3. 課題を見つけ将来に向けて学生生活を主体的、行動的に過ごすことができる。												
【授業の概要】												
本学から広がる将来展望に必要な考え方や学生生活について学びます。将来を見据えた計画を立て、必要とされる基礎的・汎用的能力や、人とのかわり方(ヒューマンスキル)を演習から習得します。その為、講義中は、自己分析を行ったり、講師に指示に従った演習を行います。クラスのメンバー間で意見交換を行い、対話から他者との交流や関わり方を学習し、自己分析や自己理解を行ってください。 なお、受講人数や状況により、自己分析や演習内容等が変わる場合があります。												
【授業計画と授業の方法】												
講 義 内 容												
(授業計画) 第1回:キャリア形成入門とは～講義の進め方、評価など(講義) (事前学修)「キャリア」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第2回:キャリアデザインの時代を生きる～人生全体のキャリアについて(講義、演習) (事前学修)「終身雇用」、「年功序列」、「人生100年時代」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第3回:大学生のゴールとは～大学を終えた後の自分について考える(講義、演習) (事前学修)事前課題の「履歴書」を作成しておくこと(約50分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第4回:大学生の生活とは～大学生活に求められることを考える(講義、演習) (事前学修)「大学生の社会的立場」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第5回:学生生活と学びの特質①～人との対話や関わりについて(講義、演習) (事前学修)「対人関係地図」を事前に作成しておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第6回:大学生生活と学びの特質②～対人関係について(講義、演習) (事前学修)「社会的スキル」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第7回:経験と学びについて①～事例による理解(講義、演習) (事前学修)「経験してきたこと」を他者に説明できるよう文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第8回:経験と学びについて②～演習による理解(講義、演習) (事前学修)「経験を見える化する」のシートを作成しておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第9回:情報の質と収集方法①～メディア別の情報の特徴とそれを活かす方法について(講義) (事前学修)「メディアの特徴」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第10回:情報の質と収集方法②～メディアによる情報収集について(講義) (事前学修)「課題映像」を視聴して、文章にまとめておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第11回:資格を活かす生き方～資格取得について(講義、演習) (事前学修)学生時代に取得したい資格についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第12回:ICT社会のキャリア形成～コンピュータ技術を用いた生活を考える(講義) (事前学修)「ICT」等の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第13回:ワークスタイルからみる働き方～自らに合った働き方について考える(講義) (事前学修)「ワークスタイル」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第14回:「計画された偶然」を引き寄せる～機会を前向きに捉える学習方法を学ぶ(講義) (事前学修)「偶然によって決まったこと」について他者に説明できるよう文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第15回:ライフプラン、キャリアプランの作成(講義、演習) (事前学修)「プランシート」を作成しておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分)												
※ 授業内容は、受講人数や状況に応じて変更することがあります。												
(授業の方法) 講義は、テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 演習は、毎回テキストの指示に従って、クラスメイト同士で問題を解決するワークを行います。 また、質問シートを使った自己分析やキャリアデザインを描くシートなども作成します。												
テキスト・参考書		必要に応じて、レジュメを配布します。										
授業時間外の学修		上記シラバスの各回の説明を参考に、事前、事後の学修を行ってください。										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間レポート(20%) 最終試験(60%) 授業中の発言や質問、参加態度(20%) (成績評価の基準) 1. 正しい形式で分かりやすいレポートが作成できる 2. 自己分析を行い、自己理解をした上で、自分の言葉で自己PR等の表現や発表ができる 3. 授業中に学んだキャリアの定義や理論を用いて、キャリアビジョンを描くことができる										
備考												
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容									

尾道市立大学授業計画

授業科目名	キャリア形成演習		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-LC-211S	担当教員名	八木 力俊			担当形態			
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目		キャリア形成入門	次に履修が望まれる科目		インターンシップ				
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) この授業の目的は、学部を超えた学生同士での演習を通じて、キャリアを形成していくための基盤となる、「基礎的・汎用的能力」を身につけることです。 (受講生の到達目標) 到達目標1. 自分の強みと弱みを理解し、将来を見据えた計画を立てることができる。 到達目標2. 対話を通じて視野を広げ、他者との協力や問題解決に取り組むことができる。 到達目標3. 働く意味を理解し、就職に向けて情報収集や行動をすることができる。									
【授業の概要】									
この授業は、自分が社会ではどのように働き、どんな人生を送りたいのかという、自律・自立した「自分らしい生き方」をデザインして実践できる知識や方法を学びます。終身雇用・年功序列・右肩上がりといった、会社がキャリアを保障する時代から、キャリアの自律を求められる時代に变化した今、大学時代から自分のキャリアをデザインすることが求められています。自己分析や演習を通じて将来への目標設定を行い、社会化への意識を高めることや、受講生同士の「対話」、「課題解決」、「プレゼンテーション」等を行い、コミュニケーションスキルの向上を目指して取り組みます。 なお、受講人数や企業との協力の状況により、演習内容等が変わる場合があります。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
(授業計画) 第1回:オリエンテーション 「講座の進め方」「キャリアについて」他(講義) (事前学修)「キャリア」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第2回:プレ演習(1) 「チーム編成」、「自己紹介」他(講義、演習) (事前学修)「自己紹介シート」を完成させておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第3回:プレ演習(2) 「ミーティング技術」「ファシリテーション」他(講義、演習) (事前学修)「ファシリテーション」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第4回:プレ演習(3) 「課題の設定と進行方法」他(講義、演習) (事前学修)「問題と課題」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第5回:プレ演習(4) 「チーム内演習」他(演習) (事前学修)演習に向けて前回の学びを再確認しておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第6回:クラス内発表会(1) プレゼンテーション (事前学修)プレゼンに向けて練習しておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第7回:プレ演習(5) 「リフレクション、ディスカッション演習」他(講義、演習) (事前学修)プレゼンの感想や改善点についてクラス内共有できるようまとめておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第8回:本演習(1) 「企業研究の方法」他(講義) (事前学修)気になる企業についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約40分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第9回:本演習(2) 「企業担当者からのプレゼンと質疑応答」他(講義) (事前学修)企業情報についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第10回:本演習(3) 課題発見の方法について(講義、演習) (事前学修)「SDGs」の意味についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約40分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第11回:本演習(4) 「プレゼンテーション概論、資料作成」他(講義、演習) (事前学修)「AIDMAの法則」についてインターネットや書籍で調べ、文章にしておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第12回:本演習(5) 「企業担当者へのヒアリング」他(演習) (事前学修)企業担当者への質問を考えておくこと(約30分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第13回:本演習(6) 「プレゼンテーション準備、資料作成」他(演習) (事前学修)プレゼンテーション資料を準備しておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第14回:クラス内発表会(2) 全体のプレゼンテーション(クラス内、プレゼンテーション) (事前学修)プレゼンテーションの発表を練習しておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) 第15回:まとめ 「発表の振り返りと今後に向けて」他(演習) (事前学修)プレゼンテーションのふりかえりをしておくこと(約60分) (事後学修)リフレクションシートへ講義の学びをまとめておくこと(約30分) ※ 授業内容は、協力先の企業の都合や社会情勢などの影響により変更することがあります。									
(授業の方法) 講義は、テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 演習は、教員が用意した課題解決のテーマや、実際に企業の方をお招きして事例を説明してもらい、クラスメイト同士で解決策を考えるなどのワークを行います。 プレゼンテーションは、クラスメイト同士で話し合った内容を発表します。グループ内で行うものと、クラス全体に向けて行うものがあります。									
テキスト・参考書	必要に応じて、レジュメを配布します。								
授業時間外の学修	上記シラバスの各回の説明を参考に、事前、事後の学修を行ってください。								
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 中間レポート(20%) 最終プレゼンテーション(60%) 授業中の発言や質問、参加態度(20%) (成績評価の基準) 1. 演習に取り組み、課題解決を通じて、将来を見据えた計画を立てることができる。 2. 企業の課題に対して、メンバーと話し合いながら解決策を導き出すことができる。 3. 働く意味や就職に関する情報収集を行い、発表を通じて学びを体現することができる。								
備考									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		ビジネスキャリア入門		開講年次		2年	開講年度学期		2026年度前期		単位数		2単位	
科目コード		G-1C-213L		担当教員名		八木 力俊				担当形態				
【科目の位置付け】														
この授業の基礎となる科目		ビジネスキャリア入門		次に履修が望まれる科目		キャリア形成演習 インターンシップ								
【授業の目的と到達目標】														
(授業の目的) 私たちは日常の中で「働いている人」を目にしますが、その多くは企業や組織の一部として役割を担い、見えにくい仕事や支え合いによって社会は成り立っています。本講義では、企業や組織の目的(バーパス)や構造に目を向け、現場だけでなく企画・管理など多様な働き方を知ること、「組織で働くとはどういうことか」を考えていきます。進路の答えを出す授業ではありませんが、自分が社会とどのように関わり、どのような役割を担いたいかを考えるための視点を育てることができます。 (受講生の到達目標) 到達目標1. 企業や組織の仕組み、社会における役割を理解し、自身の将来像と結び付けて考えることができる。 到達目標2. 企業人との対話やチームでの調査・訪問を通じて、仕事や働き方を具体的に理解することができる。 到達目標3. 学修内容を整理し、発表を通じて自らの考えや学びを他者に伝えることができる。														
【授業の概要】														
本講義は、将来の社会参加や就職活動を見据え、社会を構成する企業や組織について理解を深めることを目的とする。株式会社を中心とした企業組織の仕組みや歴史、社会的意義について、1年次科目「キャリア形成入門」と関連付けながら基礎的に学ぶ。あわせて、地域で活躍する企業人をゲスト講師として招き、組織活動の実情や働き方、仕事観に触れる。さらに少人数のグループで企業調査や訪問を行い、質疑応答にて解決する。その成果を発表することで、社会との関わり方を具体的に捉え、自身の進路やキャリアデザインを主体的に考える視点を養う。(企業訪問は、企業先の受け入れや受講生の希望により決定します。) なお、受講人数や企業との協力の状況により、演習内容等が変わる場合があります。														
【授業計画と授業の方法】 講義内容														
(授業計画) 第1回:働く種類と業界について 現代社会における「働くこと」の意味を起点に、産業構造や業界の広がり、労働市場の特徴について学ぶ。仕事が社会の中でどのような役割を果たしているのかを理解し、自身の関心と社会との接点を考える。 (事前学修)身近な仕事や業界について調べ、関心を持った点をまとめる(約30分) (事後学修)講義内容を振り返り、働くことへの印象を整理する(約30分) 第2回:企業組織の基本① 株式会社を中心に、企業組織の起源や歴史、存在意義について学ぶ。企業が社会に果たす役割やバーパス、社会的責任について理解を深める。 (事前学修)「バーパス」「CSR(社会的責任)」とは何かを調べてくる(約30分) (事後学修)企業の役割についての気づきを整理する(約30分) 第3回:企業組織の基本② 人的資本経営の考え方が手ぐかりに、企業と働く人の関係性、キャリア形成とのつながりを学ぶ。個人の成長と組織の発展の関係を考える。 (事前学修)「人的資本経営」という言葉の意味を調べる(約30分) (事後学修)講義内容をもとに企業と人の関係を整理する(約30分) 第4回:企業組織の基本③ 組織内キャリアやエンゲージメント、採用活動について学び、企業がどのように人と関わっているかを理解する。 (事前学修)気になる企業の採用情報を調べる(約30分) (事後学修)企業と働く人の関係について考察する(約30分) 第5回:リフレーミングとガイダンス 第1～4回の内容を整理し、今後の企業訪問や発表に向けた視点を確認する。調査・訪問・発表の進め方についてガイダンスを行う。 (事前学修)これまでの講義内容を振り返る(約30分) (事後学修)訪問・発表に向けた課題意識を整理する(約30分) 第6回:ゲストスピーカー(サービス業) サービス業で働く企業人から、仕事の実情ややりがい、社会との関わりについて学ぶ。 (事前学修)企業や業界について調べ、質問を考える(約30分) (事後学修)講話から得た学びを整理する(約30分) 第7回:ゲストスピーカー(IT業・地域課題解決) ITを通じた地域課題解決の事例を学び、仕事と社会貢献の関係を考える。 (事前学修)IT業界の特徴を調べる(約30分) (事後学修)社会課題との関係を整理する(約30分) 第8回:ゲストスピーカー(メーカー) 製造業における生産管理・営業・企画の役割について学び、ものづくりの現場を理解する。 (事前学修)メーカーの仕事や役割について調べ、質疑応答の準備をする(約30分) (事後学修)発表を見据えて、企業活動の流れを整理する。企業訪問などの予定を立てる(約30分) 第9回:ゲストスピーカー(金融業) 金融業におけるコンサルティング業務を通じ、企業支援や社会との関係性を学ぶ。 (事前学修)金融業の仕事や役割について調べ、質疑応答の準備をする(約30分) (事後学修)発表を見据えて、企業活動の流れを整理する。企業訪問などの予定を立てる(約30分) 第10回:ゲストスピーカー(広告・デザイン業) 広告・デザインを通じた価値創造や表現の仕事について学ぶ。 (事前学修)広告やデザインの仕事や役割について調べ、質疑応答の準備をする(約30分) (事後学修)発表を見据えて、企業活動の流れを整理する。企業訪問などの予定を立てる(約30分) 第11回:ゲストスピーカー(商社・営業職) 商社や営業職の役割を通じ、人と人、企業と企業をつなぐ仕事について学ぶ。 (事前学修)商社の役割について調べ、質疑応答の準備をする(約30分) (事後学修)発表を見据えて、企業活動の流れを整理する。企業訪問などの予定を立てる(約30分) 第12回:ゲストスピーカー(新聞社・ライター) 情報を伝える仕事の意義や責任について学び、社会との関わりを考える。 (事前学修)情報を伝える仕事の意義や役割について調べ、質疑応答の準備をする(約30分) (事後学修)発表を見据えて、企業活動の流れを整理する。企業訪問などの予定を立てる(約30分) 第13回:学生による成果発表① 第6～8回の内容をもとに、企業調査や学びを整理し発表する。 (事前学修)発表準備(約60分) (事後学修)発表の振り返り(約30分) 第14回:学生による成果発表② 第9～11回の内容をもとに成果発表を行う。 (事前学修)発表準備(約60分) (事後学修)発表の振り返り(約30分) 第15回:学生による成果発表③・まとめ 第12回の内容を含めた発表を行い、講義全体を振り返る。 (事前学修)これまでの学修を整理する(約60分) (事後学修)大学生活と今後の社会参加について考察する(約30分) ※ 授業内容は、協力先の企業の都合や社会情勢などの影響により変更することがあります。 (授業の方法) ・講義は、テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 ・チーム内の準備(質疑応答や発表)は、チーム(3名を想定)内で行います。 ・プレゼンテーションは、チームで話し合った内容を発表します。 ・企業訪問は、強制ではありません。企業が受け入れを承諾し、学生が授業に妨げの無い時間に参加できる場合に実施されます。														
テキスト・参考書		必要に応じて、レジュメを配布します。												
授業時間外の学修		上記シラバスの各回の説明を参考に、事前、事後の学修を行ってください。												
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 質疑応答への取組み(20%) プレゼンテーション(30%) 最終試験(50%) (成績評価の基準) 1. 企業や組織の目的(バーパス)や役割構造を理解し、多様な働き方を踏まえて、組織の中での個人の役割について自分の考えを整理できている。 2. 講義やゲスト講師の内容をもとに、企業や組織の価値創造を捉え、チームでの対話を通じて、組織と個人の関係について考察できている。 3. プレゼンテーションや質疑応答を通じて、学修内容を論理的にまとめ、組織との関わり方について分かりやすく他者に伝えられる。												
備考														
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容										

尾道市立大学授業計画

授業科目名	インターンシップ			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-LC-212P		担当教員名	八木 力俊				担当形態		
【科目の位置付け】										
【最終授業開講年度】2027年度										
この授業の基礎となる科目		キャリア形成入門 キャリア形成演習		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、就業体験を通じて、大学で学んだ理論や知識が実際の社会でどのように活用できるかを確認し、その成果を文章と言葉で表現できることです。同時に、これから社会で求められる、マナーやリテラシーなどを経験から学ぶことです。 (受講生の到達目標) 到達目標1. 職業観、社会観を養い、具体的な目標を設定して進路に対する考えを明確化することができる。 到達目標2. 就業体験を通して学んだこと、得たことを言語化することで、「気づき」を「経験」として定着させるとともに、他者にわかりやすく的確に伝えることができる。 到達目標3. 今後の学業や学生生活にどのように生かすかを具体的に考え、行動計画を立てることができる。										
【授業の概要】										
インターンシップ(就業体験学習)は、実社会での研修を通じて社会認識・職業意識を育成すること、適切な就業選択を推進すること、専門分野に関する深い認識を形成することなどです。事前学習では、自己目標の設定等を通じて、就業体験に対する目的意識の明確化を図り、就業体験をより充実したものとします。就業体験終了後の事後学習では、就業体験内容(自己目標の達成度、学んだこと等の自己評価・点検)についての発表を行い、今後の学習意欲・就業意識の向上や、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の形成を図ります。 なお、実習内容は状況に応じて変更することがあります。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 履修上の注意、参加目的、働くということを考える(講義) 第2回 事前学習1 自己分析と自己理解(演習) 第3回 事前学習2 就業体験先の絞り込み、申込書の作成(演習) 第4回 事前学習3 自己目標の設定、自己紹介と志望動機(演習) 第5回 事前学習4 就業体験中の留意点、ビジネスマナー、報告書・プレゼンテーション資料の作成方法(演習) 第6回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク1日目) 第7回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク2日目) 第8回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク3日目) 第9回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク4日目) 第10回 <就業体験> インターンシップ先にて就業体験(フィールドワーク5日目) 第11回 事後学習1 就業体験の振り返り、報告書、プレゼンテーション資料の作成(講義) 第12回 事後学習2 就業体験報告 ※グループAのプレゼンテーション(発表) 第13回 事後学習3 就業体験報告 ※グループBのプレゼンテーション(発表) 第14回 事後学習4 就業体験報告 ※グループCのプレゼンテーション(発表) 第15回 就業体験発表会(発表、オブザーブ) 企業の来賓を交えて、代表者による発表会 ※第12回～第14回のプレゼンテーションは、受講人数に応じて発表形式を変更する場合があります。										
(授業の方法) テキストの内容について教員が講義し、その後、受講生が実践する形で授業を進めます。基本的には教員と学生や学生同士がインタラクティブ(双方向)で対話をしながら進めていきます。 第1回～第5回の事前学習では、自己分析から自分の志向を見つけて、企業研究をしてもらいます。自己分析シートや履歴書の作成も行います。第3回ではチームを組んで演習を行います。第4回ではクラス内で自己分析を基にした自己紹介を行います。 第6回～第10回の就業体験では、夏休み期間を利用して実際に5日間～10日間程度の企業での就業体験を行っていただきます。 第11回～第15回の事後学習では、体験の振り返りと発表を行います。第11回はクラス内での振り返りとプレゼンテーションの準備を行います。第12回～第14回のプレゼンテーションは、クラス内で発表をします。第15回は企業の来賓を招いて選抜者による発表会を行います。										
テキスト・参考書		オリジナルプリントを利用します。ポータルより配布します。								
授業時間外の学修		(事前学修) 第1回～第5回では、就業前の自己分析が重要になります。授業が始まる前までにテキストをダウンロードして、自己分析シートや履歴書(要提出)などの空白部分を埋めてくるようにしてください。(所要時間約30分～60分) 第6回～第10回では、就業体験に向けたマニュアルを配布しますので、実習前までに熟読しておいてください(所要時間約60分)第7回～第10回に置いては、就業体験から得たことなどや課題を考えて翌日に参加するようにしてください。(所要時間約30分～60分) 第11回～第15回では、振り返りとプレゼンテーションを行います。毎回、体験したことや感じたことなどをクラス内で伝える時間がありますので、経験を整理したり、パワーポイントによるプレゼンテーションができるように作成をしておいてください。(所要時間約30分～180分) (事後学修) 毎回プリントの最後にリフレクションシートや課題の指示を出します。この授業で学んだことや次回に使用するものなどを言語化しておいてください。(所要時間約30分～60分)								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 事前学習への出席と履歴書の提出は、必修です。授業にすべて参加できない場合や履歴書が提出されない場合、単位は付与しません。 ※理由があり、事前または翌週までにキャリア研究室に届け出があった場合は考慮する。 受け入れ先評価(30%)、就業体験報告書(30%)、事後学習プレゼンテーション(30%)授業への参画度(10%)を総合的に評価する。 (成績評価基準) 1. 就業体験に参加する意味や体験中に必要なことを理解することができる。 2. 就業体験中に事前学習で学んだことを活かして積極的に参加できる。 3. 就業体験で学習したことを、文章や発表を通じて伝えることができる。								
備考		学期初めにインターンシップ説明会を開催し、受講の要件(エントリーシートの提出等)について詳しく説明するので必ず参加してください。 事前学習は、全ての回の出席が必須となります。他の講義とのスケジュールを確認して受講するようにしてください。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		尾道学入門		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		G-LC-101L		担当教員名	岡本 隼輔			担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 本講義は、尾道市立大学に入学した学生が尾道の歴史・経済・文化活動等をめぐる様々なテーマから地域への関心を深めるとともに、学生生活における探究的な学びを目指すオムニバス授業である。 (受講生の到達目標) 到達目標1:尾道の経済の歴史や現在の財政的特徴について理解できるようになる。 到達目標2:尾道の文化・芸術の特徴について理解できるようになる。 到達目標3:現在の尾道の課題について理解できるようになる。										
【授業の概要】										
尾道の歴史・文化・経済的特徴、まちづくりの課題等に関するオムニバス授業で、地域の特徴を多面的な角度から学ぶ。また、尾道の事例を手掛かりとして、出身地や身近な地域社会が抱えている普遍的な課題についても学ぶ機会とする。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
第1回 ガイダンス(藤井佐美)										
第2回 子どもたちに音楽を！～フランスと尾道の未来をつなぐ文化振興活動～(小島燎)										
第3回 尾道市の人の流れを見てみよう(岡本隼輔)										
第4回 愛しき尾道と備後の向後を想う(小川長)										
第5回 尾道空き家再生プロジェクト(豊田雅子)										
第6回 和を作る達人・小林和作(梅林信二)										
第7回 「平山郁夫」を伝えるということ ―平山郁夫美術館の役割―(吉田守)										
第8回 デザイン×私のまち ―学生の生み出した地域への提案―(林宏／黒田教裕)										
第9回 負の地域資源と美術活動(小野環)										
第10回 尾道と近代文学(原卓史)										
第11回 尾道市とウクライナ侵攻非難決議(吉良悟)										
第12回 尾道市の観光施策(尾道市観光課職員)										
第13回 尾道地方の方言(灰谷謙二)										
第14回 EcONOMICsで考える尾道(堀江進也)										
第15回 地域学の発掘 ―「尾道学」構築と実践のあらまし―(林良司)										
(授業の方法) この講義は対面型授業であるが、第13回のみリアルタイムのオンライン型授業である。 全15回すべての講義終了後に各講義担当者が課題を出題する。課題内容と提出方法・提出期限等については、各授業中の指示に従って対応すること。										
テキスト・参考書		(授業資料) 毎回、teamsに資料を提示する。資料を配布する場合もある。								
授業時間外の学修		授業によっては、講義時に適宜紹介する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 15回にわたって毎回出題されるレポート課題等の提出物により成績評価を行う(100%)。各講義内容と無関係な内容や、課題の指示とは異なる内容であると判断された場合には採点不可となる。また、ガイダンスとteamsで説明し伝達する注意事項を遂行できていない場合は、受講姿勢不十分とみなし減点対象となる。 (成績評価の基準) 到達目標1:各回の課題に応じた適切な取り組みと文章表現ができている。 到達目標2:課題内容を踏まえ、地域の課題について理解できている。 到達目標3:尾道の地域的特質について、様々な角度から理解できている。								
備考		①授業に関する情報伝達と諸連絡は地域総合センターからteamsを通して行うため、随時の配信に注意して受講すること。 ②第1回授業(ガイダンス)で注意事項の説明をおこなうため、履修登録者(履修登録予定者を含む)は必ず出席すること。 ③毎回の課題(forms出題への取り組み)は、第1回授業から全回実施する。 ④出席登録は指定時間帯におけるスマホ登録により行う。この登録において疑義があると判断された場合には学則に基づき対応する。 ⑤遅刻・欠席等の取り扱いについては学生便覧等を確認の上で適切に受講すること。 ⑥公欠届は地域総合センターへ適切に提出すること。 ⑦履修登録が確定した後の授業からは座席指定制度を導入するため、teamsに公開する座席指定表を確認の上で指示に従って着席し受講すること。 ⑧適切な学修環境の維持と円滑な授業進行に向けて、講師と授業観察教職員によって必要と判断される注意と指示をおこなう場合がある。 ⑨学外(一般)の方が参加可能な公開授業の回もある。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	地域の伝統文化(囲碁)			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード	G-LC-102S		担当教員名	山本 賢太郎				担当形態	
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】									
(1) 囲碁のルールを習得し19路盤で対局できるようになること (2) 囲碁の世界、歴史全般及び囲碁と尾道市との歴史的関係を知ること 2項を柱に、日本の伝統文化である囲碁を体験し、教養として身につけることにある。									
到達目標1;19路盤での対局が自力のできる事によりルール説明ができる。 到達目標2;囲碁の知識を得て競技の魅力を説明できる。									
【授業の概要】									
江戸時代の囲碁の巨人「本因坊秀策」が因島生まれであることに由来し、囲碁は尾道市の市技である。 本講義では、この日本の伝統文化を身につけ、囲碁の持つ力※を修得することはもちろんのこと、尾道のより一層の理解に役立てる。(※囲碁の持つ力とは…(1)大局観を養える、(2)答えのない局面で考える力を身につけられる、(3)論理的な思考・集中力・認識力を養える、(4)日本の伝統文化を学び、国際交流のコミュニケーション力を身につけられる、(5)負ける経験をして、克服する力を鍛えられる、(6)能動的に考えることに慣れる)									
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容									
第1回 ガイダンス 第2回 ルールの解説 第3回 ルールの復習 第4回 終局の説明 第5回 対局の流れと初歩技術の解説 第6回 授業内テスト(1) 第7回 模範碁の解説と対局(1)(19路盤での終局の判断と、整地の仕方) 第8回 模範碁の解説と対局(2)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第9回 囲碁の世界(映写資料を使用予定) 第10回 模範碁の解説と対局(3)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第11回 9子局の解説と連碁 第12回 模範碁の解説と対局(4)(ペア碁) 第13回 授業内テスト(2) 第14回 模範碁の解説と対局(5)(19路模範碁の解説と、実践対局) 第15回 代表者対局 まとめ									
授業方法 前半は9路盤の大盤を使用しルール説明等を中心におこない実技(実戦対局)で感覚を養う 中盤から19路盤の大盤を使用し打ち方等の説明をおこない実技で19路盤での打ち方を習得 後半では引き続き19路盤の大盤解説をおこない目標である終局ができるよう実戦で学んでいく。									
テキスト・参考書		東大教養囲碁講座(光文社新書)2007年発行、著者:石倉昇、梅沢由香里、黒瀧正憲、兵頭俊夫							
授業時間外の学修		(事前学習) (世界でいちばんやさしい囲碁問題集) 競技の基礎となるルール説明・棋力向上に関する問題集などができるアプリとなっています 授業前の予備知識をつけるため取り組んでください。 (事後学修) (囲碁であそぼ・囲碁クエスト) 実戦等ができるアプリです、授業で得た知識を実戦でどれくらい活かせるか取り組んでください。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業態度30%実技の習得度70%で総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1、19路盤で終局を自力で行う事が出来、基礎のルール説明を行う事ができる。 到達目標2、実戦での経験に基づき協議の魅力を伝える事ができる。							
備考		予習として(授業時間外の学修)記載のアプリを練習しておくこと。							
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	文化財学		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-HU-221L		担当教員名	藤井 佐美			担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 文化財の種々相を学び、歴史的役割と現状を把握し広く社会に活用していくこと、また次世代にその意義を伝えていくための力をつけることを目指す。 (受講生の到達目標) 到達目標1:文化財の最新情報を理解した上で、継続的に実施されてきた調査や取り組み等の歴史について説明することができる。 到達目標2:後世に向けての保護と活用の意義について具体的に論じることができる。 到達目標3:協働的な学びの場においても積極的に参加し、多様な取り組みについても具体的に説明することができる。									
【授業の概要】									
文化財は伝統的建造物群、文化的景観、現実には人の生活や生業が行われている地域も含められ、その対象は広範囲におよぶ。授業では、文化財の現状や社会とのかわりについて学び、フィールドワーク(実地踏査)を通じて地域の事例とともに文化財とは何かを学ぶ。									
【授業計画と授業の方法】									
講義内容									
(授業の計画) 第 1回 講義:文化財学入門 (坂本) 第 2回 講義:文化財保護の歴史 (坂本) 第 3回 講義:文化財の保存 (坂本) 第 4回 講義:文化財の調査・修理 (坂本) 第 5回 講義:文化財の活用 (坂本) 第 6回 講義:尾道の古建築 (坂本) 第 7回 講義:尾道の茶の湯文化 (坂本) 第 8回 講義:尾道市の文化財 (西井) 第 9回 講義:尾道市の文化財と歴史まちづくり (西井) 第10回 講義:尾道の美術工芸品Ⅰ (宇根元) 第11回 フィールドワーク (宇根元) 第12回 フィールドワーク (柿本) 第13回 講義:尾道の美術工芸品Ⅱ (宇根元) 第14回 講義:尾道市の日本遺産Ⅰ (柿本) 第15回 講義:尾道市の日本遺産Ⅱ (柿本)									
(授業の方法) ※学外講師4名によるオムニバス授業。第1回～第7回(坂本直子)、第8回～第9回(西井亨)、第10回・第11回・第13回(宇根元了)、第12回・第14回・第15回(柿本真琴) ※フィールドワーク:授業2回分(第11回、第12回)について 詳細は講師による日程調整がおこなわれ次第周知する。例年11月下旬～12月下旬までの土曜日に実施されているが、実施日は補講日でない場合もあるため上記周知内容については注意すること。社会情勢等の理由により実施できない場や適切な申請書類が提出された欠席については代替授業で対応する。 ※フィールドワーク:内容 第11回 尾道旧市街地にあるおのみち歴史博物館、爽籟軒庭園など尾道市重要文化財を観覧し、文化財の活用について現地で研修する。 第12回 日本遺産箱庭の都市尾道の対象エリアである尾道旧市街地を歩き、町の移り変わりや様々な文化財をみて、現在の課題などを把握する。 オムニバスの責任者(学内連絡係):藤井									
テキスト・参考書		資料を配付する。							
授業時間外の学修		(事前学修) 各回のテーマに関するリサーチを、担当講師の指示に基づく適切な方法で進めておくこと。 (事後学修) 各回の課題に取り組み、指示に従い適切に提出すること。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 毎回の課題提出内容の積み重ね(80%)と、授業連絡への回答等を含む受講姿勢(20%)により総合評価をおこなう。 (成績評価の基準) 到達目標1:文化財の基礎知識を踏まえ、各回の授業内容を正しく理解し文章化している。 到達目標2:文化財の保護と活用の意義について、自分の考えを適切に伝えることができる。 到達目標3:実地踏査の意義を理解し、社会的な取り組みについても具体的に説明することができる。							
備考		学外講師4名(坂本直子、宇根元了、西井亨、柿本真琴)によるオムニバス授業である。各講師の指示に従い受講し、課題は当日の授業担当講師へ直接提出すること。 随時必要が生じた場合の授業伝達はポータルサイト(必要に応じてteamsを併用する場合もある)を通じて連絡係(藤井)より配信する。なお、連絡に対して回答を求める場合があるため注意すること。公欠届は連絡係(藤井)へ適切に提出すること。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		美術表現入門		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード		G-HU-121L	担当教員名	小野 環				担当形態	
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 美術表現のみならず、広い視野に立って「表現」の意味を主体的かつ意識的に捉えられることを目標とします。									
(受講生の到達目標) ・到達目標1;豊かな人間性をもとに美について思考・判断することができる。 ・到達目標2;幅広い教養を身につけることができる。 ・到達目標3;自己表現に取り組むことができる。									
【授業の概要】									
講義・実習などを通して多様な美術表現に触れてもらいながら、さまざまな手法による「表現」を知り、自己表現も試みます。									
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容									
第 1回 ガイダンス「講義」 第 2回 日本絵画 鑑賞の楽しみ(市川)「講義」 第 3回 油彩技法とその変遷(西村)「講義」 第 4回 古典模写(山梨)「講義」「演習」 第 5回 宗教画解説からはじめる西洋美術史入門(西嶋)「講義」 第 6回 箔、砂子の話(鈴木)「講義」「演習」 第 7回 水彩を知る(橋野)「講義」 第 8回 映像は万能か?ーWeb CMから考えるー(黒田)「講義」 第 9回 日本のグラフィックデザイン史(伊藤)「講義」 第10回 眼を 観て 描く(小野)「講義」「演習」 第11回 尾道をモチーフとした絵画作品をスライドを使って鑑賞(中村)「講義」 第12回 彫刻の素材と技法及び尾道の街中の彫刻について(桜田)「講義」 第13回 工芸とデザイン(林)「講義」 第14回 アーティスト・キュレーター(稲川)「講義」 第15回 アニメーションの世界(西原)「講義」 (授業方法) 美術学科教員によるオムニバス形式の授業です。講義形式の回は主にコメントシート、演習形式の回は主に作品の提出を求めます。									
テキスト・参考書		使用しません。							
授業時間外の学修		ありません。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への積極的な参加や課題への真摯な取り組み(60%)授業後に提出するコメントシートへの記述や提出作品の内容(40%)を基準として総合的に評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1;豊かな人間性をもとに美について思考・判断することができている。 到達目標2;幅広い教養を身につけることができている。 到達目標3;自己表現に取り組むことができている。							
備考		普段の生活において、身の回りにあるさまざまな物事を意識的に観察してみてください。							
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	思考とデザイン			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-HU-123L		担当教員名	黒田 教裕				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		美術表現入門		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 与えられたテーマから、ものごとに対する自身の視点を発見し、他者とのコミュニケーションを通してより良いアイデアを構築していく力を身につけることがこの授業の目的です。										
(受講生の到達目標) 到達目標1: 与えられたテーマと自身のアイデアを結びつけ、リアクションツールに記述することができる。 到達目標2: 他者とのディスカッションを通して、より良いアイデアにし、リアクションツールやコメントで提起することができる。 到達目標3: 自身でテーマを設定したレポートを作成することができる。										
【授業の概要】										
この授業は概念的なテーマからアイデアを発想し、そのアイデアとテーマの関係を見つけ、次のアイデアを発想することを『アイデアシート』というワークシートを用いて進めていきます。 講義の中で、テーマに関するアイデアを発想し、テーマとアイデアを結びつけるコンテキスト(文脈)を記述していくことで、発想と思考を繰り返しながらトレーニングしていく授業形態になります。 与えられるテーマについて積極的な参加を望みます。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 第1回(講義)オリエンテーション、授業の目的・到達目標・各回授業の内容と方法 第2回(講義)『見ると見る』人は何を見ているのか 第3回(学生発表)『見ると見る』グループディスカッションでアイデアをより良いかたちにしていく 第4回(講義)『誇張と省略』誇張の裏には省略がある 第5回(講義)『誇張と省略』対談回 第6回(学生発表)『誇張と省略』ディスカッションからより良いアイデアを作っていく 第7回(講義)『アナログとデジタル』映画『サイド・バイ・サイド:フィルムからデジタルシネマへ』鑑賞 第8回(講義)『アナログとデジタル』対談回 第9回(学生発表)『アナログとデジタル』ディスカッションからより良いアイデアを作っていく 第10回(講義)『都市と田舎』何が都市で、何が田舎か 第11回(講義)『都市と田舎』対談回 第12回(学生発表)『都市と田舎』ディスカッションからより良いアイデアを作っていく 第13回(講義)『つくとと生きる / 生きるとつくる』ものつくることだけが、つくることなのか 第14回(講義)『つくとと生きる / 生きるとつくる』対談回 第15回(学生発表)『つくとと生きる / 生きるとつくる』ディスカッションからより良いアイデアを作っていく ※上記のテーマは2025年度のもので、テーマを変更する場合があります。										
(授業の方法) この授業は、一つのテーマにつき、講義2回および学生発表1回の計3回で構成し、これを5テーマ行う全15回の授業です。 各テーマの講義2回は、担当教員による前提講義を1回、本学教員を招いた対談形式の講義を1回実施する予定です。 学生発表の回では、3〜4名程度のグループに分かれ、ディスカッションおよび発表を行います。発表は各テーマの最終回(第3回、第6回、第9回、第12回、第15回)に実施します。										
(授業内課題) 授業内課題は、「ひとことコメント」「アイデアシート」「まとめフォーム」の3種類です。 「ひとことコメント」は、講義回の授業時間前半の内容について、質問や意見を提出するものです。授業時間後半では、提出されたコメントをもとに進めていきます。 「アイデアシート」は、各テーマに関する「アイデア」および、テーマとアイデアを結ぶ「コンテキスト(文脈)」を記述するワークシートを用いた課題です。さらにグループディスカッションを通して、より発展的なアイデアシートを作成することを目指します。 「まとめフォーム」は、各テーマの最終回において、そのテーマを通して考えたことや、今後さらに考えていきたいことをテキストで記述するものです。										
(期末レポート) 授業の総括として、期末レポートの提出を求めます。 具体的な内容については授業内で説明しますが、この授業で取り扱ったテーマをもとに考察を行う形式とします。										
テキスト・参考書		(テキスト・参考書)授業内で紹介します。								
授業時間外の学修		(事前学修) 必要に応じてテーマに関する事柄についての情報収集を行ってください。 (事後学修) 期末レポート作成の題材を探したり、テーマについてより深めた資料を探してみてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義内課題(リアクションツールへの記述等) 全15回: 60% 期末レポート: 40% (成績評価の基準) 到達目標1: 与えられたテーマと自身のアイデアを結びつけ、リアクションツールに記述できているか。 到達目標2: 他者とのディスカッションを通して、より良いアイデアにし、リアクションツールやコメントで提起できているか。 到達目標3: テーマを自身で設定し、そのテーマについて自身の考えとその根拠を示したレポートを作成できているか。								
備考		履修定員は70名です。受講者が多い場合は抽選になります。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	Topics in Language, Culture, and Society			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-HU-202L	担当教員名	高垣 俊之、平山 直樹、Dawn Kobayashi					担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		総合英語I,II		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 本授業の目的は、言語・文化・社会について、英語を通して幅広い教養を身につけることを目的としています。										
(授業の到達目標) 到達目標1: 多言語社会について、基礎的知識を英語で説明することができる。 到達目標2: 英語の歴史について、基礎的知識を英語で説明することができる。 到達目標3: 英文学について、基礎的知識を英語で説明することができる。										
【授業の概要】										
言語・文化・社会について、英語で講義を行う。コミュニケーション、言語の歴史、文学などのテーマを設定し、それぞれの分野における基礎的知識を教授し、講義を軸に様々な授業活動を通じて、言語・文化・社会に関わる諸問題を幅広く理解をしてもらう。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 1. Course introduction (講義) <Language & Communication> 2. Bilingualism(1) overview (講義) 3. Bilingualism(2) social level (講義) 4. Bilingualism(3) individual level (講義) 5. Bilingualism(4) language learning (講義) 6. Review & Project/Test (講義) <History of Language> 7. History of English(1) overview (講義) 8. History of English(2) early modern English (講義) 9. History of English(3) modern English (講義) 10. Review & Project/Test (講義) <Literature> 11. English Literature(1) overview (講義) 12. English Literature(2) novels (講義) 13. English Literature(3) poems (講義) 14. English Literature(4) dramas (講義) 15. Review & Project/Test (講義)										
(授業の方法) 第2回～第5回、第7回～第9回、第11回～第14回では、スライドと配布資料にそって講義を行う。 第6回、第10回、第15回は、各テーマのレビュー及び小テストを行う。										
テキスト・参考書		なし								
授業時間外の学修		(事前学修) 配布資料を予習してください。 (事後学修) 配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業参加30%、試験/課題70% ※「授業参加」は、出席状況に加え、授業中の発言、課題等への取り組み状況、授業への積極的な参加態度などを総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1: 多言語社会について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。 到達目標2: 英語の歴史について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。 到達目標3: 英文学について、小テスト・課題で基礎的知識を英語で適切に記述・説明している。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	建築環境論		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-NS-132L		担当教員名	渡邊 義孝			担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】									
日ごろ意識していない住まいや環境、まちなみに目を向け、生活やアートの根本にある建築空間への理解を深める。そして持続可能な社会、環境共生の具体的手法について、自分の意見を持ち実践できる主体となることを目標とする。									
(受講生の到達目標)									
・到達目標1:建物を目視して、その建築構法や意匠的な特徴について説明できる。									
・到達目標2:地球環境問題と建築の課題の連関を理解し、望ましい建築のあり方について自身の意見を表明できる。									
・到達目標3:尾道市内の特徴的な建築遺構やまちなみについて他者に説明できる。									
【授業の概要】									
主に住宅建築の計画と生活空間としての都市景観、建築や町を媒体とした環境共生のあり方について学ぶ。 教室での学習の他に、空き家再生に取り組むNPO等と連携しながら、尾道のまちなみや再生民家を巡るフィールドワークを取り入れ、斜面地の特異なまちなみの歴史と構成を理解し、歴史的建造物を維持、活用する方法と理論を学ぶ。 スクラップアンドビルドではない持続的な住まい観を、日本の伝統的な民家の姿に求めながら、実際に講師が関わった住宅再生の現場と、ユーラシアをはじめとした異文化圏での調査を元にして、展開する。									
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容									
第 1回 尾道の都市景観(坐学講義とフィードバック)									
第 2回 近代住宅建築の成立と変遷 ～洋館の誕生と尾道(坐学講義とフィードバック)									
第 3回 民家から何を学ぶか(坐学講義とフィードバック)									
第 4回 長江通りに見る街の形成史【まちあるきフィールドワーク1】									
第 5回 アジアの住宅に見るエコロジー(坐学講義とフィードバック)									
第 6回 セルフビルド住宅 ～家をつくる自由(坐学講義とフィードバック)									
第 7回 海と山に刻まれた歴史を辿る【まちあるきフィールドワーク2】									
第 8回 健康と建築空間 ～シックハウス問題から見えるもの(坐学講義とフィードバック)									
第 9回 山手の住まいとかわるまち ～空き家再生・環境負荷と自然エネルギー(坐学講義とフィードバック)									
第10回 斜面地に見る尾道の建築の多様性【まちあるきフィールドワーク3】									
第11回 民家再生と耐震補強(坐学講義とフィードバック)									
第12回 環境共生と持続可能性(坐学講義とフィードバック)									
第13回 空き家はいかに再生されたか【まちあるきフィールドワーク4】									
第14回 温熱環境と光を学ぶ(坐学講義とフィードバック)									
第15回 人が生きるまちの再生へ～空き家再生と定住化をめざして(坐学講義とフィードバック)									
(授業の方法)									
坐学では、プロジェクトを使用した授業とともに適宜実験や実演を行なう。フィードバックとしてリアクションペーパーに「質問・意見」等を記入し提出。 必要に応じて次回授業にて講師より補足説明などを行なう。 フィールドワークでは、講師とともに実地でまちあるきを行なう。									
各回授業の事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題を課す場合は指示された宛先に指定期日までに?に提出すること。									
テキスト・参考書		テキスト:なし 参考書:蔵前仁一・矢津田義則・渡邊義孝『セルフビルド 家をつくる自由』(旅行人／2007年) 大西一也『すまいのかたち』(日本教育訓練センター／2011年) 渡邊義孝『台湾日式建築紀行』(KADOKAWA／2022年)							
授業時間外の学修		(事前学習)特になし (事後学習)新しい専門用語などについて自身で検索等を行なって理解を深め、学んだ内容が自分の住居や生活空間において、実際にどのように機能しているかを検証する。60分程度。							
成績評価の方法と基準		試験成績(50%)、毎回提出させるリアクションペーパーの内容(40%)、授業への意欲・姿勢(10%)の積み重ねによる総合評価。 (成績評価の基準) ・到達目標1:授業内容を理解するだけでなく、自身の経験をふまえて主体的に検証・応用する姿勢を持っている。 ・到達目標2:地球環境問題の解決に向けて、自分の言葉で建築のあり方を提案できる。 ・到達目標3: 尾道市内の特徴的な建築遺構やまちなみについて他者に説明できる。							
備考		計4回のまちあるきフィールドワークは、尾道市中心部で実施する。朝8時または10時に指定場所に集合する。 フィールドワークの訪問先の都合、天候などにより、カリキュラムの順番を入れ替えて実施する場合がある。 状況に応じて、一部または全部をオンライン(オンデマンド)形式とする場合がある。その場合は、TeamsとYouTubeを併用し、視聴後にアンケートを提出させてフィードバックを行なう。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語1			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-101L		担当教員名	KLOEPFER THOMAS				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目		総合英語II			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題 について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3:やさしい英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 'Friends & Family'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 'Friends & Family'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第4回 'Hobbies & Interests'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 'Hobbies & Interests'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第6回 'Food & Restaurant'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 'Food & Restaurant'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第8回 'Music & Movies'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。ブックレポートの提出。 第9回 'Music & Movies'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第10回 'Money & Shopping'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。第11回 'Money & Shopping'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第12回 'Travel Plans'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 'Travel Plans'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。										
(授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。第2回~第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。第14回:学生によるプレゼンテーション。第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書		なし。資料を配信します。								
授業時間外の学修		(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績 =30%、ブックレポート=20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 3 0% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第3回,第5回,第7回,第9回,第11回,第13回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語1			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-101L		担当教員名	Dawn Kobayashi				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			総合英語II		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3:やさしい英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 'Friends & Family'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 'Friends & Family'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第4回 'Hobbies & Interests'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 'Hobbies & Interests'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第6回 'Food & Restaurant'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 'Food & Restaurant'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第8回 'Music & Movies'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 ブックレポートの提出。 第9回 'Music & Movies'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第10回 'Money & Shopping'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 'Money & Shopping'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第12回 'Travel Plans'のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 'Travel Plans'のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備:授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。										
(授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:学生によるプレゼンテーション。 第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書	なし。資料を配信します。									
授業時間外の学修	(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 = 30%, ブックレポート= 20%、文章作成課題 = 20%, スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第5回,第11回,の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。									
備考	資料の配信は授業で行います。 この授業ではスマートフォンの使用は禁止されています。そのため、授業には辞書(紙辞書または電子辞書のいずれか)を持参する必要があります。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語1			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-101L		担当教員名	三上 ジュディス				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションでできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。Self introduction, interests and hobbies.										
第2回 Describe your hometownのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のParagraphを書く。										
第3回 University Lifeのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第4回 University Lifeのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。										
第5回 Food Cultureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第6回 Food Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のParagraphを書く。										
第7回 Travel and geographyのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第8回 Travel and geographyのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。										
第9回 What do you think about the Olympics? のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第10回 What do you think about the Olympics? のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のParagraphを書く。										
第11回 Global Culturesのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第12回 Global Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。										
第13回 How do you declare love in other cultures? のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。										
第14回 How do you declare love in other cultures? のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のParagraphを書く。										
第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。										
(授業の方法)										
第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。										
第2回～第13回: グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。										
第14回: パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。										
第15回: 学生によるプレゼンテーション。										
テキスト・参考書	Open Voice Basic by Dr. K. Chida & Dr M. Matsuda, KGC Publishing, Published 2020 Extra Listening Workbook, KGC Publishing, Published 2022									
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート = 20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1: 試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標2: 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標3: プレゼンテーションの評価基準とします。									
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語2			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-102L		担当教員名	KLOEPFER THOMAS				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		総合英語1		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。 日常的な話題 について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。 異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、 日常的な話題について詳しく英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3:シンプルな英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 ‘Fashion & Appearance’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 ‘Fashion & Appearance’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第4回 ‘Directions & Getting Around’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 ‘Directions & Getting Around’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第6回 ‘Health & The Doctors’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 ‘Health & The Doctors’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第8回 ‘Careers & Future Plans’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。ブックレポートの提出。 第9回 ‘Careers & Future Plans’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第10回 ‘Past Experiences’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 ‘Past Experiences’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第12回 ‘Role Models’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 ‘Role Models’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回~第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:学生によるプレゼンテーション。 第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書		なし。資料を配信します。								
授業時間外の学修		事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績 =30%、ブックレポート=20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第3回,第5回,第7回,第9回,第11回,第13回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語2			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-102L		担当教員名	Dawn Kobayashi				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		総合英語1		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:適切な文法と語彙を用いて、日常的な話題について詳しく英語で会話することができる。 到達目標2: 出来事を説明したり、意見を述べたりするパラグラフを書くことができる。 到達目標3: シンプルな英語の本を読むことができる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 ‘Fashion & Appearance’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第3回 ‘Fashion & Appearance’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第4回 ‘Directions & Getting Around’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第5回 ‘Directions & Getting Around’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第6回 ‘Health & The Doctors’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第7回 ‘Health & The Doctors’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 第8回 ‘Careers & Future Plans’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 ブックレポートの提出。 第9回 ‘Careers & Future Plans’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第10回 ‘Past Experiences’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。スピーキングテスト練習。 第11回 ‘Past Experiences’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習 宿題:テーマについて150語のパラグラフを書く。 第12回 ‘Role Models’ のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 スピーキングテスト練習。 第13回 ‘Role Models’ のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 スピーキングテスト練習。 第14回 スピーキングテスト:学生によるプレゼンテーション。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。										
(授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:学生によるプレゼンテーション。 第15回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。										
テキスト・参考書		なし。資料を配信します。								
授業時間外の学修		(事前学習) 配布資料を予習すること。 (事後学習) 配布資料を復習すること。 新しい語彙の意味を理解し、例文とともにノートに記録する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績 = 30%, ブックレポート= 20%, 文章作成課題 = 20%, スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストを評価基準とします。 到達目標2:第5回,第11回の文章作成課題を評価基準とします。 到達目標3:ブックレポートを評価基準とします。								
備考		資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。 この授業ではスマートフォンの使用は禁止されています。そのため、授業には辞書(紙辞書または電子辞書のいずれか)を持参する必要があります。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合英語2			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-102L		担当教員名	三上 ジュディス				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 話す、聞く、読む、書く能力を伸ばすことで、英語での総合的なコミュニケーション能力を向上させる。 日常的な話題について意見を述べる能力と自信を身につけることに重点を置く。 異文化コミュニケーションと理解のための言語としての英語の役割を理解する。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションでできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。										
【授業の概要】										
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身につけ、異文化理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。									
第2回	Explain about Holidays: Summer Vacationsのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。									
第3回	If you were a animal...のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第4回	If you were a animal...のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。									
第5回	If you lived in the past: Technology and the futureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第6回	If you lived in the past: Technology and the futureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。									
第7回	Explain about a person who made a difference: Music and Moviesのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第8回	Explain about a person who made a difference: Music and Moviesのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。									
第9回	If you lived in a foreign country...のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第10回	If you lived in a foreign country...のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。									
第11回	Explain about Pop Culture: Art and Fashionのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第12回	Explain about Pop Culture: Art and Fashionのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて学生によるプレゼンテーション。									
第13回	What are the pros and cons of apps and social media?のテーマで使用するフレーズと文法の紹介。									
第14回	What are the pros and cons of apps and social media?のテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題: テーマについて100語のバラグラフを書く。									
第15回	復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法)									
第1回:	パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。									
第2回～第13回:	グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。									
第14回:	パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。									
第15回:	学生によるプレゼンテーション。									
テキスト・参考書	Open Voice Intermediate by Dr. K. Chida & Dr M. Matsuda, KGC Publishing, Published 2020									
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績 = 30%、ブックレポート= 20%、文章作成課題 = 20%、スピーキングテスト = 30% (成績評価の基準) 到達目標 1: 試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標 2: 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標 3: プレゼンテーションの評価基準とします。									
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名		TOEIC1		開講年次		2年		開講年度学期		2026年度前期		単位数		2単位	
科目コード		G-FL-201L		担当教員名		池森 典子						担当形態			
【科目の位置付け】															
この授業の基礎となる科目		総合英語1, 2				次に履修が望まれる科目				TOEIC 2					
【授業の目的と到達目標】															
(授業の目的) この授業ではTOEICの実践に則したテキストの問題演習やe-Learningでの学習を通して、TOEICに対応するための英語の語彙力や文法力、リスニング能力を高め、英文を正確かつスピーディーに読む読解力を身につけることを目的としています。また、テキストの各ユニットに沿って取り上げられる様々な表現や文化的背景への理解を深め、英語コミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1: TOEICの頻出語句や表現を習得し、基本的な英語を聞いたり読んだり内容を理解できる 到達目標2: ある程度まとまった内容の英語を聞いて理解し、また複数の文書を読み、関連性と内容が理解できる 到達目標3: TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得し、実際の問題形式に対応できる															
【授業の概要】															
TOEIC (TOEIC® LISTENING AND READING TEST) は、現在日本でも多くの企業や大学で英語力判定の材料として使われています。この授業では、TOEIC新形式でよく出題される様々なパターンの問題を実際の日常生活やビジネスの場などの各テーマに沿っておこない、基本的な英語力の向上から実践力を伸ばし、TOEIC のスコア向上につなげていきます。TOEICの頻出単語、文法項目を頻度順に学ぶことができます。また、聞き取りにくい発音や体系的なリスニング問題をディクテーションと合わせて各回継続して取り組んでいくことにより、音声や問題形式に慣れ、実際のTOEIC試験に備えスコアアップする力を養うことができます。リーディング問題については、英文を読むうえで注意すべき点を確認しながら英文を正確かつスピーディーに読む方法を実践問題を通して学んでいきます。また各ユニットのテーマ背景にある文化的な違いや表現についても説明をしていきますので、英語圏の文化的な理解を深めることができます。 TOEICの実践問題で使われる表現を積極的に使って、発音・音読練習などを行うことによりコミュニケーション能力や表現能力を高めることができます。授業外学習では、自分のペースで効率的に進めていけるよう、テキストに連動したオンライン学習システムのTESTUDYを利用していきます。															
【授業計画と授業の方法】															
講 義 内 容															
(授業計画) 第1回 ガイダンス: & Unit 1: Restaurant / 人称代名詞 (演習を含む講義) 第2回 Unit 2: Entertainment / 再帰代名詞 (演習を含む講義) 第3回 Unit 3: Business / 現在・過去の時制 (演習を含む講義) 第4回 Unit 4: Office / 現在完了 (演習を含む講義) 第5回 Unit 5: Telephone / 前置詞(時・期間) (演習を含む講義) 第6回 Unit 6: Letter & E-mails / 前置詞(位置、場所) (演習を含む講義) 第7回 Unit 7: Health / 数量形容詞 (演習を含む講義) 第8回 まとめと中間試験 (講義と演習、試験) 第9回 Unit 8: The Bank & The Post Office / 自動詞と他動詞 (演習を含む講義) 第10回 Unit 9: New Products / 接尾辞と品詞-形容詞 (演習を含む講義) 第11回 Unit 10: Travel / 接尾辞と品詞-副詞 (演習を含む講義) 第12回 Unit 11: Daily Life / 分詞構文 (演習を含む講義) 第13回 Unit 12: Job Applications / 比較 (演習を含む講義) 第14回 Unit 13: Shopping / 受動態 (演習を含む講義) 第15回 Unit 14: Education / 関係代名詞 (演習を含む講義) (授業の方法) テキストは1回で1ユニット進みます。1ユニットはTOEICの実際の問題形式と同じようにリスニング問題とリーディング問題で構成されています。各実践問題を解きながら解答と解説を行っていきます。 第1回目 ガイダンスでは授業の内容や進め方、TOEICについて説明をします。また内容に沿って問題演習を行っていきます。 第2-7回目、9-14回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題はディクテーションも行っていきます。次回のリーディング問題は予習課題として授業の前日までに解いておいてください。(解答はMS Teamsから提出してください。)問題の解答と解説は授業内で行います。 第8回目 まとめと中間試験を行います。第1-7回の内容を復習しておいてください。 第15回目 全体のまとめをしながらテキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題は音声聞きながらディクテーションも行っていきます。問題の解答と解説を授業内で行います。															
テキスト・参考書		テキスト: 『BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST -Intermediate』 (TOEIC® L&R TESTへの総合アプローチ -Intermediate) 2022年 ISBN 9784791972531 (吉塚 弘, Graham Skerritt, Michael Schaurte 成美堂) TESTUDY対応 参考書: 公式TOEIC Listening & Reading 500 + (liBC) 公式TOEIC Listening & Reading 問題集 (liBC)													
授業時間外の学修		各回授業の事前学習に必要な時間は約30分、事後学習に必要な時間は約60分です。 <事前学修> ・テキストの各ユニットのリーディング問題を事前に解いておきます。 回答はMS Formsへ入力してください。また、分からない単語や表現があれば調べておきます。 <事後学修> 1. テキスト内容の復習 間違えたところを中心に復習をします。音声はスクリプトを見ながら聞き直します。 2. Teams内で配信される復習のための小テストを解く。 3. TESTUDYの問題を解く。(使い方については第1回目の授業で説明をします。)													
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間試験(30%)、期末試験(40%)、 予習課題・各回小テスト(20%)、TESTUDY及び授業への取り組み(10%) (成績評価の基準) 到達目標1: 各回小テストとSTUDY問題において8割以上正答している。 到達目標2: 予習課題で8割以上解答している。中間・期末試験において8割以上正答している。 到達目標3: TESTUDY問題と中間・期末試験において8割以上正答している。													
備考		・資料の配信、予習課題・各回小テストの提出はMS-Teamsから行います。 ・テキストと連動したe-learningシステムのTESTUDYを活用していきます。 ・MS-teamsがインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。 ・テキストのリスニング問題の復習はテキストの自習用音声を活用してください。 ・TOEIC公開テスト、および学内でのTOEIC-IPテストの受験を推奨します。													
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容											

尾道市立大学授業計画

授業科目名	TOEIC2			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-202L		担当教員名	笠本 晃代				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		TOEIC1		次に履修が望まれる科目		上級英語1				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 確かな読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目指します。 また、各 Lesson のリスニングに出てくる単語・熟語と構文の練習を通して、理解を深め、その内容を説明できるようになることも目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:コミュニケーションの基礎レベルの文法が理解でき、英文を読解することができる。 到達目標2:リスニングの内容を説明できる。										
【授業の概要】										
テキストに沿って、1回に1レッスンずつ進めていきます。 リスニング問題に答え、読解問題を解きながら、素早く内容把握ができるようになるためのテクニックについて説明します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 講義:English Studies, オリエンテーション、授業の内容・到達目標・各回授業の内容と方法 第 2回 講義:Scheduling and Planning 第 3回 講義:Dating, Relationships, and Advice 第 4回 講義:Music and Style 第 5回 講義:Jobs and Employment 第 6回 講義:Health and Fitness 第 7回 講義:Finding Purpose and Setting Life Goals 第 8回 講義:Money and Happiness 第 9回 講義:Travel and Adventure 第10回 講義:Movies and Preferences 第11回 講義:Museums and Culture 第12回 講義:Disabilities and Access 第13回 講義:Alternative Transportation for Students and Employees 第14回 講義:Recycling, Conversation, and Industry 第15回 講義:まとめ (授業の方法) 第1回は、授業の目的・到達目標・各回授業の内容と方法を説明します。 第2回～第15回は、テキストに沿って、1回に1レッスンずつ進めていきます。										
テキスト・参考書		(テキスト) 寺西雅之・Patrick T. Dougherty 『TOEIC Test Success』南雲堂 (参考書) TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編 (IIBC)								
授業時間外の学修		(事前学修) 辞書を引き、付属のCDで聞き取り練習をしておいてください。 (事後学修) 授業後に、必ず1時間の復習をしてください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 試験成績70%、授業中の発表内容30% (成績評価の基準) 到達目標1:期末試験における語彙・文法に関する問題、および授業中の発表により評価します。 到達目標2:期末試験におけるリスニングに関する問題、および授業中の発表により評価します。								
備考		辞書を引き、付属のCDで聞き取り練習をしておくこと。授業後に、必ず1時間の復習をすること。 ※オンライン授業に移行した場合はMS Teamsを用いたリアルタイム授業を行います。								
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	TOEIC2		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-202L		担当教員名	池森 典子			担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目		TOEIC 1		次に履修が望まれる科目		上級英語1			
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) この授業ではTOEIC 1 に引き続き、TOEIC新形式問題の演習を通してTOEICに対応するための実践的な英語力を身につけることを目的としています。TOEIC 1 で習得した英語運用能力とTOEICのための攻略法を学び、より発展した実践的演習を通してTOEICの更なるスコアアップを図ることを目的とします。また、テキストの各ユニットの沿って取り上げられる様々な表現や文化的背景への理解を深め、英語コミュニケーション能力・表現能力の向上を目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1: TOEICの頻出語句や表現を習得し、基本的な英語を聞いたり読んだり内容を理解できる 到達目標2: ある程度まとまった内容の英語を聞いて理解し、複数の文書を読み、関連性と内容が理解できる 到達目標3: TOEICの問題を解くためのストラテジーを習得し、実際の問題形式に対応できる									
【授業の概要】									
TOEIC (TOEIC® LISTENING AND READING TEST) は、現在日本でも多くの企業や大学で英語力判定の材料として使われています。試験はリスニング100問、リーディング100問、計200問を2時間で解答します。この授業では、TOEIC 1 に引き続き、TOEIC新形式でよく出題される様々なパターンの問題を実際の日常生活やビジネスの場などの各テーマに沿っておこないます。 TOEICの実践問題を体系的に解くことによって、語彙、文法、リスニングなどの基本的な英語力を強化し、TOEIC新形式のリスニング問題、リーディング問題に対応できる実践的な英語力を身につけていくことができます。また、本番のTOEICテストと同様の流れの問題形式に慣れ、徐々に解答のコツを身につけることができます。 授業での音読練習を通して、英語特有の発音やリズムに慣れ、リスニングやスピーキング能力といったコミュニケーション能力を同時に効果的に高めていくことができます。テキストの内容はTOEIC1よりも若干難易度は上がるかもしれませんが、基本的な語彙や表現を確認しながら進めていきますのでTOEIC1を履修していない人でも受講できます。									
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容									
(授業計画) 第 1回 ガイダンス & Unit 1: Entertainment (演習を含む講義) 第 2回 Unit 2: Eating Out (演習を含む講義) 第 3回 Unit 3: Office Supplies (演習を含む講義) 第 4回 Unit 4: Hospital (演習を含む講義) 第 5回 Unit 5: Transportation (演習を含む講義) 第 6回 Unit 6: Technology (演習を含む講義) 第 7回 Unit 7: Personnel (演習を含む講義) 第 8回 まとめと中間試験 第 9回 Unit 8: Purchases (演習を含む講義) 第10回 Unit 9: Architecture (演習を含む講義) 第11回 Unit 10: Service (演習を含む講義) 第12回 Unit 11: Travel (演習を含む講義) 第13回 Unit 12: Climate (演習を含む講義) 第14回 Unit 13: Employment (演習を含む講義) 第15回 Unit 14: Sports / Art (演習を含む講義)									
(授業の方法) テキストは1回で1ユニット進みます。1ユニットはTOEICの実際の問題形式と同じようにリスニング問題とリーディング問題で構成されています。各実践問題を解きながら解答と解説を行っていきます。 第1回目 ガイダンスでは授業の内容や進め方、TOEICについて説明をします。また内容に沿って問題演習を行っていきます。 第2-7回目、9-14回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題はディクテーションも行っていきます。今回のリーディング問題は予習課題として授業の前日までに解いておいてください。(解答はMS Teamsから提出してください。)問題の解答と解説を授業内で行います。 第8回目 まとめと中間試験を行います。第1-7回の内容を復習しておいてください。 第15回目 テキストの内容に沿って問題演習を行っていきます。リスニング問題は音声聞きながらディクテーションも行っていきます。問題の解答と解説を授業内で行います。									
テキスト・参考書	テキスト; Getting the Edge For The TOEIC® L&R Test [2026年新刊] (語彙で高めるTOEIC® L&R TESTスコアアップ600点) (松本 恵美子、浜田 英夫、Sam Little、菰 寛美、福井 美奈子 共著 成美堂) ISBN: 978-4-7919-7341-5 参考書: 公式TOEIC Listening & Reading 500 + (iIBC) 公式TOEIC Listening & Reading 問題集 (iIBC)								
授業時間外の学修	各回授業の事前学習に必要な時間は約30分、事後学習に必要な時間は約60分です。 <事前学修> ・テキストの各ユニットのリーディング問題を事前に解いておきます。 回答はMS Formsへ入力してください。また、分からない単語や表現があれば調べておきます。 <事後学修> 1. テキスト内容の復習 間違えたところを中心に復習をします。新出語句をくり返し確実に覚えていきましょう。音声はスクリプトを見ながら聞き直します。 2. Teams内で配信される復習小テストを解く。								
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 中間試験 (30%)、期末試験 (40%)、 予習課題、各回復習小テスト (20%)、授業への取り組み (10%) (成績評価の基準) 到達目標1: 中間・期末試験において8割以上正答している。発話練習等でアウトプットが正しく出来ている。 到達目標2: 予習課題、各回小テスト、中間・期末試験において8割以上正答している。 到達目標3: 中間・期末試験において8割以上正答している。								
備考	・資料の配信、予習課題・各回復習小テストの提出はMS-Teamsから行います。 ・単語の確認ミニテストをおこないます。 ・MS-teamsがインストールされた大学ネットワークに接続可能なパソコンを用意してください。 ・テキストのリスニング問題の復習はテキストの自習用音声を活用してください。 ・テキストに連動したオンライン学習システム「リンガボルト」を積極的に活用してください。 ・TOEIC公開テスト、および学内でのTOEIC-IPテストの受験を推奨します。								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	中国語1			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-131L		担当教員名	張 治清				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目			中国語2		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、初めて中国語を学習するのに必要な正しい発音、基本語彙、簡単な文法、日常会話を学ぶことです。一年間の勉強でそれぞれの基礎を身につけていただくことです。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:ピンイン、声調、子音、母音を聞き分けることができ、ピンインを見ながら正しく発音できるようになる。また、挨拶用語や基本的な短文を聞き分け、話す・読む・書くことができ、簡単な通訳・翻訳ができるようになる。さらに、中国語で自己紹介ができるようになる。 到達目標2:「中国語検定試験」(準4級または4級)、「漢語水平考試(HSK)」(1級または2級)のいずれかに挑戦し、資格取得を目指す。										
【授業の概要】										
中国語を学習するうえで、正しい発音を身につけることは非常に重要である。また、中国語の基本的な文法を理解し、文の構成を把握したうえで、自分の言いたいことを中国語で表現できるようになることを目標とする。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業の計画) 第1回 (1) 中国語に関するオリエンテーション (2) 授業中に使う挨拶用語の学習 (3) 履修学生全員の名前の中国語読みの練習 第2回 (1) 中国語のピンインに関する基礎知識の学習 (2) 中国語の短母音(6個)の学習 (3) 中国語で互いに名前について会話する 第3回 (1) 中国語子音(23個)の学習 (2) 子音と短母音を組み合わせた音節の練習 第4回 (1) 中国語の複母音(9個)・鼻母音(9個)・介母音を伴う母音(11個)の学習 (2) 子音と複母音・鼻母音・介母音を伴う母音を組み合わせた音節の練習 (3) 日常挨拶の練習 (4) 中国語の歌「小星星」の練習 第5回 (1) 第1課の語彙学習1 (2) 「動詞＋目的語」による語句作り1 (3) 肯定文・否定文の文型による短文作り 第6回 (1) 第1課の語彙学習2 (2) 「動詞＋目的語」による語句作り2 (3) 一般疑問文の文型による短文作り 第7回 (1) 第1課の総合練習 (2) 第2課の語彙学習1 (3) 「有＋目的語」による語句作り1 (4) 肯定文・否定文の文型による短文作り 第8回 (1) 第2課の語彙学習2 (2) 一般疑問文の文型による短文作り (3) 第2課の総合練習 第9回 (1) 第3課の語彙学習1 (2) 「是＋名詞」の肯定文・否定文の文型による短文作り 第10回 (1) 第3課の語彙学習2 (2) 一般疑問文の文型による短文作り (3) 第3課の総合練習 第11回 (1) 第4課の語彙学習1 (2) 疑問詞「什么」「いくつ＋量詞」による短文作り 第12回 (1) 第4課の語彙学習2 (2) 「この＋量詞」「その＋量詞」「どの＋量詞」による短文作り (3) 第4課の総合練習 第13回 (1) 第5課の語彙学習1 (2) 形容詞述語文の肯定文・否定文の文型による短文作り 第14回 (1) 第5課の語彙学習2 (2) 形容詞述語文の一般疑問文の文型による短文作り (3) 第5課の総合練習 第15回 期末試験の準備 期末試験										
(授業の方法) 各回の授業では板書を用いてポイントを詳しく説明する。各課に出てくる練習問題を用いて、「聴く、話す、読む、書く、通訳・翻訳」の各形式で練習を行う。										
テキスト・参考書		劉鄧英・嘉瀬達男・豊後宏記著『中国語精選サラダ』朝日出版社。 補充資料も適宜配布する。								
授業時間外の学修		(事前学修) テキストの該当語彙を予習してください。 (事後学修) 授業後に、学習したものを必ず復習してください。分からない箇所については、次回の授業で積極的に質問してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験100% (成績評価の基準) 到達目標1:ピンイン、声調、子音、母音を聞き分けることができ、ピンインを見ながら正しく発音できるようになる。また、挨拶用語や基本的な短文を聞き分け、話す・読む・書くことができ、簡単な通訳・翻訳ができるようになる。さらに、中国語で自己紹介ができている。 到達目標2:「中国語検定試験」(4級または準4級)、「漢語水平考試(HSK)」(1級または2級)のいずれかを取得できる力、またはそれと同等の中国語能力が身に付いている。								
備考		各回の授業後には、できるだけ中国語を話す環境を作ること。 一人でも声に出して練習し、授業で学んだ会話表現を積極的に使うようにすること。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	中国語2			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位			
科目コード	G-FL-132L		担当教員名	張 治清				担当形態					
【科目の位置付け】													
この授業の基礎となる科目											中国語1	次に履修が望まれる科目	
【授業の目的と到達目標】													
(授業の目的) この授業の目的は、中国語1を履修して、引き続き中国語を学習するのに必要な正しい発音、基本語彙、簡単な文法、日常会話を学ぶことです。一年間の勉強でそれぞれの基礎を身につけていただくことです。													
(受講生の到達目標) 到達目標1: 日常会話ができるようになり、中国語の「聴く・話す・読む・書く」および簡単な通訳・翻訳ができるようになる。 到達目標2: 「中国語検定試験」(4級)または「漢語水平考試(HSK)」(2級)のいずれかに挑戦し、資格取得を目指す。													
【授業の概要】													
引き続き、中国語の学習に必要な基本語彙と文法を理解し、運用できるようにする。また、発音や文法の学習に加えて、日本人と中国人の会話習慣の違いについても、会話練習を通して紹介する。													
【授業計画と授業の方法】													
講 義 内 容													
(授業の計画) 第1回 (1) 前期内容のまとめ (2) 第6課の語彙学習1 (3) 「名詞＋的＋名詞」による短文作り 第2回 (1) 第6課の語彙学習2 (2) 「形容詞＋的＋名詞」による短文作り (3) 「動詞句＋名詞」による短文作り 第3回 (1) 第6課の総合練習 (2) 第7課の語彙学習1 (3) 「主語＋在＋場所」による肯定文・否定文の短文作り 第4回 (1) 第7課の語彙学習2 (2) 「主語＋在＋場所」による一般疑問文の短文作り 第5回 (1) 第7課の総合練習 (2) 第8課の語彙学習1 (3) 「場所＋有＋目的語」による肯定文・否定文の短文作り 第6回 (1) 第8課の語彙学習2 (2) 「場所＋有＋目的語」による一般疑問文の短文作り 第7回 (1) 第8課の総合練習 (2) 第9課の語彙学習1 (3) 時間表現①の学習 第8回 (1) 第9課の語彙学習2 (2) 時間表現②の学習 第9回 (1) 第9課の総合練習 (2) 第10課の語彙学習1 (3) 「動詞＋過＋目的語」による肯定文・否定文の短文作り 第10回 (1) 第10課の語彙学習2 (2) 「動詞＋過＋目的語」による一般疑問文の短文作り 第11回 (1) 第10課の総合練習 (2) 第11課の語彙学習1 (3) 「動詞＋了」による肯定文・否定文の短文作り 第12回 (1) 第11課の語彙学習2 (2) 「動詞＋了」による一般疑問文の短文作り 第13回 (1) 第11課の総合練習 (2) 第12課の語彙学習1 (3) 助動詞の学習1 第14回 (1) 第12課の語彙学習2 (2) 助動詞の学習2 (3) 第12課の総合練習 第15回 (1) 期末試験の準備 期末試験													
(授業の方法) 各回の授業では板書を用いてポイントを詳しく説明する。また、各課の練習問題を用いて、学生が順番に朗読や発表を行いながら練習する。													
テキスト・参考書	劉郷英・嘉瀬達男・豊後宏記著『中国語精選サラダ』朝日出版社。 補充資料を適宜配布する。												
授業時間外の学修	(事前学修) テキストの該当内容を予習してください。 (事後学修) 授業後、学習した内容を必ず復習してください。分からない箇所については、次回の授業で積極的に質問してください。												
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 期末試験100% (成績評価の基準) 到達目標1: 日常会話ができ、中国語の「聴く・話す・読む・書く」および簡単な通訳・翻訳ができている。 到達目標2: 「中国語検定試験」(4級)、「漢語水平考試(HSK)」(2級)のいずれかを取得できる力、またはそれと同等の中国語能力が身に付いている。												
備考	各回の授業後には、できるだけ中国語を話す環境を作ること。一人でも声に出して練習し、授業で学んだ会話表現を積極的に使うようにすること。												
担当教員の実務経験の有無	○		実務経験の具体的内容										

尾道市立大学授業計画

授業科目名	海外語学実践			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期	単位数	2単位
科目コード		担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之				担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値や文化に対する理解を深めることを目的とします。併せて、主体的に異文化の中で生じる日常的問題に取り組むことができることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:外国語で日常の会話をすることができる。 到達目標2:多様な価値や文化について説明することができる。 到達目標3:異文化の中で適切な行動をとることができる。									
【授業の概要】									
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。									
【授業計画と授業の方法】									
講 義 内 容									
(授業計画) * 大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導: (5回～10回) 渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修: (2週間～4週間) 事後指導: 現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会 (授業の方法) 事前指導: 資料を用いて説明します。 現地研修: 現地のプログラムの中で学習します。 事後指導: 現地研修での学びや体験を振り返ります。 報告会を開催します。 * 個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。									
テキスト・参考書	プリント								
授業時間外の学修	(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 現地教育機関の成績(60%)と事前・事後指導(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2:多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3:異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物や発表などを評価基準とします。								
備考									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	海外語学実践			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード		担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之					担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。										
【授業の概要】										
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画)＊大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導:(5回～10回) 渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修:(2週間～4週間) 事後指導: 現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会 (授業の方法) 事前指導:資料を用いて説明します。 現地研修:現地のプログラムの中で学習します。 事後指導:現地研修での学びや体験を振り返ります。 ＊個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。										
テキスト・参考書		プリント								
授業時間外の学修		(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		成績評価の方法) 現地教育機関の成績(60%)と事前・事後指導(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2:多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3:異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物を評価基準とします。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	海外語学実践1	開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期	単位数	2単位
科目コード	G-FL-151L	担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之			担当形態	
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目			
【授業の目的と到達目標】							
(授業の目的) 外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値や文化に対する理解を深めることを目的とします。併せて、主体的に異文化の中で生じる日常的問題に取り組むことができることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 外国語で日常の会話をすることができる。 到達目標2: 多様な価値や文化について説明することができる。 到達目標3: 異文化の中で適切な行動をとることができる。							
【授業の概要】							
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。							
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容							
(授業計画) * 大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導: (5回～10回) 渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修: (2週間～4週間) 事後指導: 現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会 (授業の方法) 事前指導: 資料を用いて説明します。 現地研修: 現地のプログラムの中で学習します。 事後指導: 現地研修での学びや体験を振り返ります。 * 個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。							
テキスト・参考書	プリント						
授業時間外の学修	(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。						
成績評価の方法と基準	成績評価の方法) 現地教育機関の成績 (60%) と事前・事後指導 (40%) (成績評価の基準) 到達目標1: 外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2: 多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3: 異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物を評価基準とします。						
備考							
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	海外語学実践2			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	G-FL-251L		担当教員名	Dawn Kobayashi、高垣 俊之				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		海外語学実践1		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値や文化に対する理解を深めることを目的とします。併せて、主体的に異文化の中で生じる日常的問題に取り組むことができることを目指します。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:外国語で日常の会話をすることができる。 到達目標2:多様な価値や文化について説明することができる。 到達目標3:異文化の中で適切な行動をとることができる。										
【授業の概要】										
外国語のコミュニケーション能力を実践を通して伸ばすとともに、異文化理解を深めます。事前指導では研修の心構えや現地の文化や生活習慣などについて学びます。現地では集中プログラムの中で目標言語や文化を体験ベースで学習します。事後研修では、現地での学びを定着する活動を行います。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画)*大学が実施する語学研修に参加する場合 事前指導:(5回～10回)渡航情報・注意、現地の習慣・文化、現地プログラムの説明、ホームステイの心構え、渡航手続き、etc. 現地研修:(2週間～4週間) 事後指導:現地での学習・体験の振り返り、報告書の作成、etc. 報告会										
(授業の方法) 事前指導:資料を用いて説明します。 現地研修:現地のプログラムの中で学習します。 事後指導:現地研修での学びや体験を振り返ります。										
*個人で海外語学研修を行う場合は学生便覧をご参照ください。										
テキスト・参考書		プリント								
授業時間外の学修		(事前学修) プリント等の配布資料を読んでください。 (事後学修) プリント等の配布資料を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 現地教育機関の成績(60%)と事前・事後指導(40%) (成績評価の基準) 到達目標1:外国語の会話能力については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標2:多様な価値や文化については、研修プログラムの成績を評価基準とします。 到達目標3:異文化における適切な行動については、事前・事後研修の提出物を評価基準とします。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	行政法			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	E-MN-311L		担当教員名	檜垣 宏太				担当形態		
【科目の位置付け】										
行政法は、法律学の中では、(民法や商法の私法と異なり)憲法や刑法などと同様に公法に分類される科目である。公務員、とりわけ一般行政職を目指す学生にとっては、必須の科目といえることができる。また、公務員を目指さないとしても、日常生活の中で行政法に関わる場面は多くある。ともすれば抽象的で日常生活からは離れたところにあると思われがちな行政法を、具体的な事件(判例)をベースに理解していくことは、事実の把握、物事を多面的に見ること、議論の応酬を適切に切り分け理解すること等、様々な面で役に立つと考えられる。										
この授業の基礎となる科目			日本国憲法		次に履修が望まれる科目			民法		
【授業の目的と到達目標】										
特に初見の個別法及び判決文を読み解くことができ、行政法における法的事案処理の仕方がわかるようになること。										
【授業の概要】										
法律学科目の中でも行政法は難しいと言われるが、全くそんなことはない。むしろ、複数の個別法を横断的に考察して一般原則を導出する必要上、もっとも常識的判断が用いられる科目であって、その意味ではとっつきやすい科目である。そして、基本書の抽象的な理論体系が最初の躓きの石になっていると考えられるため、講義は基本的に具体的な判例をベースに質疑応答の形で行う予定である。事前に配布される判例を読んで来ることが望ましい。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
第1回 イントロダクション 第2回 裁量がないパターン①(ストロングライフ事件①) 第3回 裁量がないパターン②(ストロングライフ事件②) 第4回 裁量があるパターン(呉市教研集会事件) 第5回 公共空間の物的規律①(浦安ヨット事件) 第6回 公共空間の物的規律②(松山駅前事件・越谷駅前事件) 第7回 公共空間の物的規律③(韮公園事件) 第8回 都市論①(山本理顕、丹下健三、柳田国男、フーコーほか) 第9回 都市論②(山本理顕、丹下健三、柳田国男、フーコーほか) 第10回 都市論③(広尾総合設計許可事件①) 第11回 都市論④(広尾総合設計許可事件②) 第12回 直接的領域規律①(オウム真理教解散命令事件) 第13回 直接的領域規律②(もんじゅ事件) 第14回 領域上の擬制的公共空間(温泉津温泉事件) 第15回 デモクラシーの審級(東京都管理職選考事件)										
※なお、進度により内容を調整する場合がある。										
テキスト・参考書			【テキスト】森田宏樹=小泉直樹=石川健治編集代表『ポケット六法 令和8年版』(有斐閣、2025年)【参考書】興津征雄『行政法Ⅰ』(新世社、2024)、木庭顕『笑うケースメソッドⅡ 現代日本公法の基礎を問う』(勁草書房、2017)、斎藤誠=山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第8版〕』(有斐閣、2022)							
授業時間外の学修			事前の予習で判例を読むこと:1時間程度 事後の復習:必要に応じて							
成績評価の方法と基準			期末試験100%(講義で扱った事項についておおむね理解できているかを問う)							
備考										
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	ビジネス英語			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード	E-CS-207L		担当教員名	三上 ジュディス				担当形態	
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目		TOEIC1		次に履修が望まれる科目		TOEIC2			
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) グローバルおよび国内のビジネストピックについて話し合う際に、英語でのコミュニケーションの自信を養うこと。新しい世界秩序の異文化理解を得る。 (受講生の到達目標) 1. 一般的な話題について英語でコミュニケーションでできること。 2. 話す・聞く・読む・書く四つのスキルを駆使して、英語で効果的に議論できるようになる。									
【授業の概要】									
授業中に英会話スキルを学習する。英語のコミュニケーション能力を養うとともに、英語を話す自信を身に付け、異文化理解を深める。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明。簡単な自己紹介、授業で使える英語。 第2回 New business order post-pandemicのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第3回 Entrepreneurial Cultureのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第4回 Entrepreneurial Cultureのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて学生によるプレゼンテーション。 第5回 Business Start-upsのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第6回 Business Start-upsのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第7回 Developing a strategic planのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第8回 Developing a strategic planのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて学生によるプレゼンテーション。 第9回 Marketing and financeのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第10回 Profiles of 21st century companiesのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第11回 Innovation and technologyのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第12回 Innovation and technologyのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて学生によるプレゼンテーション。 第13回 Writing a deckのテーマで使用するフレーズと文法の紹介。 第14回 Skills for Doing a pitchのテーマに基づいたグループディスカッション、ロールプレイ、アクティビティを行う。 宿題:テーマについて100語のパラグラフを書く。 第15回 復習とテスト準備: 授業内容の復習、期末試験対策のサポートとフィードバック。 (授業の方法) 第1回: パワーポイントを使った授業進行の説明。授業目的についてグループディスカッション。 第2回～第13回:グループ、ペア、個人の課題を通して、英語を学び、使う実践的な授業。 第14回:パワーポイントを使った復習、期末テスト対策のサポートとフィードバック。学生によるプレゼンテーション。 第15回:学生によるプレゼンテーション。									
テキスト・参考書	Fundamentals of Digital Transformation for Discussion, Kaigai Connection, Published 2022								
授業時間外の学修									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 試験成績＝30％、ブックレポート＝20％、文章作成課題＝20％、スピーキングテスト＝30％ (成績評価の基準) 到達目標1:試験成績とスピーキングテストの評価基準とします。 到達目標2:第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回、第14回の文章作成課題の評価基準とします。 到達目標3:プレゼンテーションの評価基準とします。								
備考	資料の配信、課題の提出はTEAMSで行います。								
担当教員の実務経験の有無	○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	租税論	開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード	E-MN-210L	担当教員名	北野 富士和			担当形態	
【科目の位置付け】							
この授業の基礎となる科目	簿記入門	次に履修が望まれる科目	税務会計論				
【授業の目的と到達目標】							
(授業の目的) この授業の目的は、所得税法の問題を中心に租税法の基本的な考え方を理解することで、現代国家の財政を賄う税金の仕組みを理解をすることになります。ただ、現行税制の理解だけではなく現在の問題点も把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることも目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:租税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標2:所得税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標3:所得税法の基本的な問題点について論じることができる。							
【授業の概要】							
最も身近な所得税法の問題を中心に、現行租税制度や所得税法の仕組みを体系的に理解します。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきます。租税法の入門ですので、あまり法律の条文にこだわらず内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的です。							
【授業計画と授業の方法】 講義内容							
(授業計画) 第1回 日本の財政と税制の概略 第2回 税法の基本概念と年末調整 第3回 現行所得税の仕組み 第4回 所得の概念 第5回 課税単位 第6回 所得税額算出手順の概観と利子・配当所得 第7回 譲渡所得(趣旨・課税範囲) 第8回 譲渡所得(計算方法・課税方法) 第9回 給与所得と退職所得 第10回 事業所得(意義と範囲)と不動産所得 第11回 事業所得(計算方法・課税方法)と一時所得と雑所得 第12回 所得計算の通則 第13回 収入金額と必要経費 第14回 所得の人的帰属 第15回 所得税額の計算 (授業の方法) 各回授業は、事前に配付したレジュメに基づいて行います。講義において、説明時に「なぜでしょう」というようにできるだけ問いを投げかけますので、一緒に考えてください。また、各レジュメの最後に練習問題があります。次回の講義では復習を兼ねて前回の練習問題の解答を解説してから、次の講義を進めていきます。							
テキスト・参考書	(テキスト) テキストとしては、谷口勢津夫ほか『基礎から学べる租税法(第4版)』(弘文堂、2025)を指定しますので、講義の予習復習に主に利用してください。講義自体は配付したレジュメで行います(teamsを通じて事前に配付)。 なお、所得税法の条文など参考資料が入手できるホームページは講義の中で紹介します。 (参考書) 税務大学校講本(所得税(基礎編)令和7年度版 (https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/syotoku/pdf/all.pdf))は無料で入手できます。その他法律の条文集として、中里実ほか『租税法判例六法(第7版)』(有斐閣、2025)があり、より深く理解するには佐藤英明『スタンダード所得税法(第4版)』(弘文堂、2024)も参考になります。						
授業時間外の学修	(事前学修) 事前に配付している講義資料と参考図書を読むことにより予習をしてください。 (事後学修) 講義資料を参考にして、講義資料にある練習問題に取り組んでください。また、次回講義時の復習や練習問題の解説で誤った箇所に対する理解に努め、再度復習してください。						
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 期末試験の成績(100%)で評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1:租税法の基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 達成目標2:所得税法に関する基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標3:所得税法(租税法全般を含む)の問題点について、論述でき自分の意見を説明することができる。						
備考	講義内容については、若干の変更もあり得ます。 所得税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。						
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	経営管理論			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	E-MN-302L		担当教員名	瀬戸 正則				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		経営学入門 経営学総論		次に履修が望まれる科目		経営組織論 日本企業論				
【授業の目的と到達目標】										
今日の企業社会における経営管理(マネジメント)の構造とプロセスについての知識を体系的に修得することを、本講義の目的としています。 受講生の到達目標は、以下の通りです。 (1)現実の企業社会で生起している諸問題・課題を抽出し、経営管理論から得られる知見等を用いて分析・考察し、結論が導出できること。 (2)経営管理論をはじめ、関係性のある周辺理論から学際的に得られた成果を自らの表現で他者に説明し、理解・受容・応用化が図れること。										
【授業の概要】										
経営管理論は、20世紀初頭のアメリカにおける科学的管理に端を発した後、大規模化・高度化・複雑化・国際化が加速している企業活動を統括する、総合管理論として展開されています。 そして経営管理論の主たる課題は、現実的な企業活動を研究対象として、企業の経営行動において生起する多様な問題・課題を理論的・実証的に解明し、解決策を考察することにあります。 そこで、今日の企業社会における経営管理(マネジメント)の構造や展開プロセスについての知識を体系的に修得することを本講義の目的としています。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
第 1回 オープニング・セッションー講義の目的・進め方・学修方法、経営管理論とは 第 2回 企業とはー企業組織の成立・特性・形態、社会的器官としての株式会社の特徴と実際 第 3回 マネジメントに関する基本的思考の変遷ー科学的管理法、人間関係論、条件適合理論 第 4回 経営管理の発展ー経営管理の系統図、経営管理の諸理論 第 5回 モティベーションと組織マネジメントー組織の活性化要件、個人と組織の意思決定、組織マネジメントの価値 第 6回 経営のリーダーシップーリーダーの資質と役割行動、影響力とリーダーシップ論、各職位階層のリーダーシップ 第 7回 経営者の職能①ー所有と経営の分離、経営者支配 第 8回 経営者の職能②ー経営管理と意思決定、コーポレート・ガバナンス 第 9回 組織文化の創造と変革ー組織文化の概念定義と機能、組織文化と経営理念 第10回 企業環境ー環境適応と環境創造、企業の社会的責任、経営のグローバル化、サステナビリティ 第11回 企業戦略・競争戦略のマネジメントー経営戦略とは、経営理念と経営戦略、多角化、競争優位とは 第12回 イノベーションのマネジメントーイノベーションとは、イノベーション・メカニズム 第13回 日本の経営管理ー日本的経営の特殊性、日本企業における人のマネジメント、理念経営 第14回 経営管理論の今日的課題 第15回 フィードバック・セッションー全体の振り返り・まとめー										
※企業における経営行動の現状や課題等の実相について、教員が半構造化面接調査活動等を展開中の大企業や中堅・中小企業を中心に実例として取り上げながら、適宜解説します。										
テキスト・参考書		【指定テキスト】 瀬戸正則(2017)『戦略的経営理念論ー人と組織を活かす理念の浸透プロセス』中央経済社 ISBN:978-4-502-22611-3 【参考書】 上野恭裕・馬場大治(2016)『経営管理論』中央経済社 ISBN:978-4-502-19061-2								
授業時間外の学修		指定テキストは事前に読んで予習し、講義での配布資料と共に事後に復習してください。 講義内容を深いレベルで理解するためには、受講者自身で日頃から人間社会や組織現象に対する関心を持ち、自学自習の継続的な努力が求められます。 とくに、日常生活上の身近な存在でもある企業に対し日頃から積極的に関心を持ち、企業経営に関連した文献・新聞記事等に目配りして下さい。 講義毎に30分以上は予習・復習して下さい。とくに復習では、講義メモの再確認・加筆修正等に心掛けて下さい。								
成績評価の方法と基準		○定期試験(授業全体の理解度確認):70% ○小テスト(2回程度実施し、授業の前半と後半における理解度について確認):25% ○授業参加度評価(質疑応答等での積極的な履修姿勢等):5% 上記の方法と基準に基づき、総合的に評価します。小テストについては、毎回実施後に採点結果を概説し、学習上のポイント等をフィードバックします。								
備考		授業計画については、受講生の理解度や講義の進捗等を考慮し、一部変更する場合があります。								
担当教員の実務経験の有無		民間企業における実務経験あり		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	税務会計論		開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	E-MN-306L	担当教員名	北野 富士和				担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目		簿記入門、商業簿記、企業法、財務諸表論、租税論	次に履修が望まれる科目		特になし				
【授業の目的と到達目標】									
この授業の目的は、法人税法の問題(国際税務を含む)を中心に、法人税法の基本的な仕組みを理解することで、現在経済活動の中心である法人の活動原理を法人税法の観点から理解することになります。ただ、現行税制の理解だけではなく、現在の問題点を把握し、それに対して自分の考えを持てるようになることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:法人税法の基本的な仕組みを説明できる。 到達目標2:国際課税に関する税法の仕組みを説明できる。 到達目標3:法人税法(国際課税を含む)の基本的な問題点について論じることができる。									
【授業の概要】									
会計や会社法の知識をベースに、法人税法の仕組みを体系的に理解します。今後の経済の更なる国際化も考慮して、国際課税の仕組みも講義内容に含めます。出来るだけ、具体的な事例から理論的な理解へと講義を展開していきますので、あまり法律の条文にこだわらず、内容の理解や問題点を考えることを重視します。授業の予習として、参考書の税務大学校講本などの該当部分を読むことが効果的です。									
【授業計画と授業の方法】									
講 義 内 容									
(授業計画)									
第 1回 租税法基礎理論									
第 2回 法人税法の特徴									
第 3回 納税義務者と課税範囲									
第 4回 所得計算の通則									
第 5回 益金									
第 6回 損金									
第 7回 資本等取引等									
第 8回 寄附金課税等									
第 9回 欠損金控除									
第10回 組織再編税制									
第11回 連結納税とグループ税制									
第12回 国際課税の仕組み									
第13回 外国法人課税									
第14回 租税条約									
第15回 国際的租税回避事例									
(授業の方法)									
各回授業は、事前に配付したレジュメに基づいて行います。講義において、説明時に「なぜでしょう」というようにできるだけ問いを投げかけますので、一緒に考えてください。また、各レジュメの最後に練習問題があります。次回の講義では復習を兼ねて前回の練習問題の解答を解説してから、次の講義を進めていきます。									
テキスト・参考書		(テキスト) テキストとしては、谷口勢津夫ほか『基礎から学べる租税法(第4版)』(弘文堂、2025)を指定しますので、講義の予習復習に主に利用してください。講義自体は配付したレジュメで行います(teamsを通じて事前に配付)。 なお、法人税法や租税条約の条文など参考資料が入手できるホームページは講義の中で紹介します。 (参考書) 税務大学校講本(法人税法(基礎編)令和7年度版(https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/houjin/pdf/all.pdf))は無料で入手できます。その他法律の条文集として、中里実ほか『租税法判例六法(第7版)』(有斐閣、2025)があり、より深く理解するには渡辺徹也『スタンダード法人税法(第3版)』(弘文堂、2023)も参考になります。							
授業時間外の学修		(事前学修) 事前に配付している講義資料と参考図書を読むことにより予習をしてください。 (事後学修) 講義資料を参考にして、講義資料にある練習問題に取り組んでください。また、次回講義時の復習や練習問題の解説で誤った箇所に対する理解に努め、再度復習してください。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 期末試験の成績(100%)で評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1:法人税法の基本的な仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標2:国際課税に関する税法の仕組みを問う問題について正しく答えることができる。 到達目標3:法人税法(国際課税を含む)の問題点について論述でき自分の意見を説明することができる。							
備考		講義内容については、若干の変更もあり得ます。 法人税法の細部にこだわらず、全体的な考え方を理解してください。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	プログラミング1			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	E-IN-104L		担当教員名	木村 文則				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理(実習を含む。)										
この授業の基礎となる科目										
情報活用基礎 I			次に履修が望まれる科目			プログラミング2				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 簡単なプログラムを読んで理解し、説明できるようになる。プログラミングの基本事項を理解し、簡単な説明ができるようになる。										
(受講生の到達目標) 到達目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などのプログラムの流れを説明できるようになる。 到達目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を説明できるようになる。 到達目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化について説明できるようになる。 到達目標4: プログラムの流れを箇条書きやフローチャート等で設計できるようになる。 到達目標5: 簡単なプログラムを作成できるようになる。										
【授業の概要】										
現在、ほとんどのソフトウェアはCやJavaなどの手続き型という種類のプログラミング言語で作成されています。この授業では、Python言語により、手続き型言語によるプログラム作成のための基本事項や方法等について学びます。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第1回 プログラミング入門(講義、演習) 第2回 フローチャート(講義、演習) 第3回 条件と分岐1: if文の基本(講義、演習) 第4回 条件と分岐2: if文の実践 --条件の設定(講義、演習) 第5回 条件と分岐3: 複雑な選択(講義、演習) 第6回 繰り返し1: while文(講義、演習) 第7回 繰り返し2: for文(講義、演習) 第8回 繰り返し3: 複雑な繰り返し(講義、演習) 第9回 配列(講義、演習) 第10回 プログラムの部品化、メソッド1: 呼出しと引数(講義、演習) 第11回 プログラムの部品化、メソッド2: 戻り値(講義、演習) 第12回 ファイル入出力(講義、演習) 第13回 辞書型(講義、演習) 第14回 データ構造とアルゴリズムの基礎1: スワップ、最大値(講義、演習) 第15回 データ構造とアルゴリズムの基礎2: 最大公約数(講義、演習) (授業の方法) 授業は15回全て、講義動画の視聴によるオンデマンド方式で行う。各自で講義動画を視聴し、毎回の課題を行い提出する。講義資料は事前にTeams等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立てること。										
テキスト・参考書			資料(スライド)を配布します。 (参考書) 『Python ゼロからはじめるプログラミング』三谷 純 翔泳社							
授業時間外の学修			(事前学修) 授業資料を確認し、学習内容意を把握しておく。 (事後学修) 授業で取り上げた練習課題を完成させ、期限までに指定の場所に提出する。							
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 平常点: 毎授業の提出課題 約40%程度 期末試験: 約60%程度 (成績評価の基準) 目標1: 授業で提出した、入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などのプログラムの流れを説明できる。 目標2: 授業で提示した、変数や型、配列や辞書型などの基本的なデータ構造を説明できる。 目標3: 授業で提示した、関数などによるプログラムの部品化について説明できる。 目標4: 授業で行った練習問題のプログラムが自力で作成できる。							
備考			原則、プログラミング I 実習と同時受講すること。 プログラミング I 実習でしっかり復習をすること。							
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	プログラミング1実習			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	1単位
科目コード	E-IN-105P	担当教員名	有吉 勇介				担当形態		
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・コンピュータ・情報処理(実習を含む。)									
この授業の基礎となる科目		情報活用基礎 I	次に履修が望まれる科目		プログラミングⅡ実習、ゲームプログラミングⅠ				
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 手続き型言語で簡単なプログラムを作成できるようになる。									
(受講生の到達目標) 簡単なプログラムを作成できるようになるために、 到達目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などを適切に組み合わせることができるようになる。 到達目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を適切に用いることができるようになる。 到達目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化を適切にできるようになる。 到達目標4: プログラムの流れを箇条書きやフローチャート等で設計できるようになる。									
【授業の概要】									
プログラムによってコンピュータに意図した作業を行わせるために、処理の流れを考え、それに基づきプログラムを作成できるようになることを目指します。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
(授業計画) 第 1回 プログラム作成・プログラム実行の基本(講義、演習) 第 2回 変数と型(講義、演習) 第 3回 式と代入、計算と演算子(講義、演習) 第 4回 条件と分岐1: if文の基本(講義、演習) 第 5回 条件と分岐2: 複雑な選択(講義、演習) 第 6回 繰り返し1: while文(講義、演習) 第 7回 繰り返し2: for文(講義、演習) 第 8回 フローチャート(講義、演習) 第 9回 配列(講義、演習) 第10回 プログラムの部品化: メソッド呼出し・引数・戻り値(講義、演習) 第11回 ファイルの入出力(講義、演習) 第12回 ライブラリの読み込みと利用(講義、演習) 第13回 ライブラリを利用したアプリケーションの作成(演習) 第14回 最終課題作成(演習) 第15回 最終課題の口頭発表(演習)									
(授業の方法) 基本的に各回の授業は、簡単な講義・説明のあと、演習課題に取り組みます。 授業資料は事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立てて下さい。									
テキスト・参考書	資料(スライド)をポータル・Moodle等で配布します。 (参考書) 『Python ゼロからはじめるプログラミング』三谷 純 翔泳社								
授業時間外の学修	(事前学修) プログラミングⅠの授業内容をしっかり把握しておいて下さい。 講義資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。 (事後学修) 課題等がある場合は、期限までに完成させて指定の場所に提出して下さい。								
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) - 平常点: 毎授業の提出課題: 約50%程度 - 期末課題: 約50%程度 (成績評価の基準) 目標1: 入出力や基本的な制御構造(順次、分岐、繰り返し)などを適切に組み合わせることができる。 目標2: 変数や型、配列などの基本的なデータ構造を適切に用いることができる。 目標3: メソッドなどによるプログラムの部品化が適切にできる。 目標4: プログラムの流れを箇条書きやフローチャート等で設計できる。								
備考	原則、プログラミング1と同時受講して下さい。 プログラミングⅠでしっかり予習して下さい。								
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		情報システム設計実習		開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2026年度前期		単位数	1単位
科目コード		E-IN-304P		担当教員名	有吉 勇介			担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		プログラミングⅡ 実習 情報活用基礎Ⅱ		次に履修が望まれる科目			データベース			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 情報システムの分析設計プロセスを理解し、UML図の作成と説明ができるようになる。										
(受講生の到達目標) 小規模な情報システムの設計仕様書を作成するために、 到達目標1: UMLの各図を作成できるようになる。 到達目標2: 情報システムの分析設計プロセスを理解し、それに沿って情報システムの設計ができるようになる。										
【授業の概要】										
この実習では1つの簡単な情報システムを題材として、その設計仕様書を半期を通して作成します。毎回の実習では情報システム設計論で説明した分析設計のステップを題材のシステムに対して行います。具体的には、ソフトウェアの設計図であるUML図をPC上のUMLソフトで作成します。最終レポートでは題材としているシステムの設計仕様書を作成します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 ユースケース図(講義、演習) 第 2回 イベントフローとシナリオ(講義、演習) 第 3回 アクティビティ図(講義、演習) 第 4回 画面スケッチ、画面遷移図(講義、演習) 第 5回 オブジェクト図(講義、演習) 第 6回 ロバストネス図、シーケンス図(講義、演習) 第 7回 コミュニケーション図(講義、演習) 第 8回 統合クラス図、ライフサイクル分析図(講義、演習) 第 9回 配置図(講義、演習) 第10回 設計シーケンス図、設計コミュニケーション図(講義、演習) 第11回 設計VOPC、設計クラス図(講義、演習) 第12回 設計コミュニケーション図Ver.2、設計VOPC Ver.2(講義、演習) 第13回 要求図(講義、演習) 第14回 設計仕様書作成1:クラス設計(演習) 第15回 設計仕様書作成2:相互作用設計(演習)										
(授業の方法) 基本的には、各回の授業は、簡単な講義・説明のあと、演習課題に取り組みます。 授業資料は、事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立ててください。										
テキスト・参考書		(テキスト) テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社 (参考書) 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社 河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社								
授業時間外の学修										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 姿勢点(毎週の課題の提出状況等)×(毎週の課題の点数+最終レポートの評価) (成績評価の基準) 目標1: UMLの各図を作成できる。 目標2: 情報システムの分析設計プロセスを理解し、それに沿って情報システムの設計ができる。								
備考		原則、情報システム設計論と同時受講して下さい 情報システム設計論でしっかり予習をして下さい								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	情報システム設計論			開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	E-IN-303L		担当教員名	有 吉 勇 介				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		プログラミングⅡ・Ⅱ実習		次に履修が望まれる科目			データベース			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目標) 情報システムの分析設計プロセスを理解し、簡単な説明ができるようになる。ソフトウェアの設計図であるUML図を読み取れるようになる。										
(受講生の到達目標) 1: 情報システムの分析設計プロセスの基本事項について、簡単な説明ができるようになる。 2: UMLの各図について、簡単な説明ができるようになる。 3: UMLの各図を読み取れるようになる。										
【授業の概要】										
情報システム設計とは、「こんな情報システムを作してほしい」という要望を分析整理し、ソフトウェアの設計図である仕様書にまとめるまでの一連の作業です。この科目では、このソフトウェアの設計図の表記法であるUML(Unified Modeling Language)について学習します。この科目で学ぶオブジェクト指向分析設計とUMLの考え方は、業務分析・改善に応用されてビジネスプロセス管理に発展しており、情報系だけでなく経営系の学生にも役立つと思います。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第1回 分析設計の概要とユースケース分析：UMLの概要とユースケース図(講義、演習) 第2回 ユースケース定義：イベントフローとシナリオ(講義、演習) 第3回 ユースケースの流れ：アクティビティ図(講義、演習) 第4回 画面設計：画面イメージ、画面遷移図(講義、演習) 第5回 ドメイン分析：オブジェクト指向とオブジェクト図(講義、演習) 第6回 ロバストネス分析：BCEモデルとロバストネス図(講義、演習) 第7回 相互作用分析：シーケンス図とコミュニケーション図(講義、演習) 第8回 ライフサイクル分析・アーキテクチャ設計：ライフサイクル分析図・プラットフォームへの展開(講義、演習) 第9回 オブジェクト指向設計：クラス設計、属性設計(講義、演習) 第10回 関連設計：誘導可能性・多重度(講義、演習) 第11回 操作設計：可視性、シグネチャ設計(講義、演習) 第12回 SysML1：構造分析(講義、演習) 第13回 SysML2：振る舞い分析・パラメトリック分析(講義、演習) 第14回 ソフトウェア・テスト：レビュー、単体テスト、結合テスト(講義、演習) 第15回 開発アプローチ・情報システムのライフサイクル(講義、演習)										
(授業の方法) 各回の授業では、分析設計プロセスを1ステップずつ取りあげ、そこで作成するUML図等について学習します。 授業は15回全て、講義動画の視聴によるオンデマンド方式で行います。各自で講義動画を視聴し、毎回の課題を行って提出します。講義資料は事前にMoodle等で配るので、テキストと合わせて事前学習に役立ててください。										
テキスト・参考書		(テキスト) テクノロジックアート他『基礎からはじめるUML 2.4』ソーテック社								
		(参考書) 井上樹著『ダイアグラム別UML徹底活用 第2版』翔泳社 河合昭男著『最新UMLがわかる』技術評論社								
授業時間外の学修		(事前学修) 授業資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。								
		(事後学修) 課題等がある場合は、期限までに完成させて指定の場所に提出して下さい。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 平常点(毎週の課題の提出状況等) × (毎週の課題の点数 + 期末試験の点数)								
		(成績評価の基準) 1: 情報システムの分析設計プロセスの基本事項について、簡単な説明ができる。 2: UMLの各図について、簡単な説明ができる。 3: UMLの各図を読み取ることができる。								
備考		原則、情報システム設計実習と同時受講すること 情報システム設計実習でしっかり復習すること								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		情報基礎理論		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード		E-IN-208L	担当教員名	有吉 勇介、本田 治、秋川 元宏				担当形態		
【科目の位置付け】										
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 情報科学・情報技術の基本的事項を説明できるようになる。また、情報科学・情報技術の基礎的な計算ができるようになる。										
(受講生の到達目標) ハードウェア、オペレーティングシステム、情報セキュリティ管理、プログラムの4分野について 到達目標1: 基本的事項を説明できるようになる 到達目標2: 基礎的な計算ができるようになる										
【授業の概要】										
この科目は「情報とコンピュータ」等で学んだ情報科学・情報技術の知識をより深めるための科目です。これらの知識は、情報技術者はもちろん、情報を使いこなすことを求められる現代の社会人にとって必要不可欠なものです。この科目では、CPU・メモリ等のコンピュータハードウェアの基本的な仕組み、オペレーティングシステムの基礎、情報セキュリティ管理の基本、データ構造とアルゴリズムなどプログラムの基礎理論等について学習します。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 ハードウェア基礎1 コンピュータの構成要素、CPUの仕組み(講義) 第2回 ハードウェア基礎2 メインメモリの管理、キャッシュメモリの管理(講義) 第3回 ハードウェア基礎3 入出力装置の仕組み、補助記憶装置の仕組み(講義) 第4回 基本ソフトウェア1 OSの概要、プロセスの3状態(講義) 第5回 基本ソフトウェア2 プロセス・スケジューリング方式、排他制御(講義) 第6回 基本ソフトウェア3 実記憶管理、仮想記憶管理(講義) 第7回 (前半)ハードウェア基礎の復習と確認 (後半)基本ソフトウェア4 仮想記憶管理(講義) 第8回 基本ソフトウェア5 入出力管理(講義) 情報セキュリティ管理1 情報セキュリティ管理の基本(講義) 第9回 情報セキュリティ管理2 ISMS(講義) 第10回 (前半)基本ソフトウェアの復習と確認 (後半)情報セキュリティ管理3 リスク管理とインシデント対応(講義) 第11回 プログラム基礎1 配列、リスト、キュー、スタック(講義) 第12回 プログラム基礎2 木構造と二分探索(講義) 第13回 プログラム基礎3 AVL木による二分探索(講義) 第14回 プログラム基礎4 バブルソート、クイックソート、チェイン法(講義) 第15回 プログラム基礎5 マージソートとヒープソート(講義)										
(授業の方法) 講義資料は、ポータル・Moodle等で配るので、事前学習に役立てて下さい										
テキスト・参考書		ポータル・Moodle等に講義資料をアップロードするので、各自でダウンロードして下さい。								
授業時間外の学修		(事前学修) 講義資料を確認し、学習内容を把握しておいて下さい。 (事後学修) 課題等がある場合は、期限までに完成させて指定の場所に提出して下さい。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 平常移転:毎授業の課題提出等:約33%程度 期末試験:約67%程度 (成績評価の基準) ハードウェア、オペレーティングシステム、情報セキュリティ管理、プログラムの4分野について 目標1: 基本的事項を説明できる 目標2: 基礎的な計算ができる								
備考		本田(ハードウェア基礎、プログラム基礎)と、有吉(オペレーティングシステム)、秋川(情報セキュリティ管理)とによるオムニバス授業の予定です。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名			システム監査			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		E-IN-309L		担当教員名	佐藤 達男				担当形態			
【科目の位置付け】												
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報通信ネットワーク(実習を含む。)												
この授業の基礎となる科目						次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) この授業の目的は、情報システム監査とその対象となるITシステムのマネジメントの基本を学ぶことです。ITシステムのマネジメントはプロジェクトマネジメントとサービスマネジメントについて学びます。 (受講生の到達目標) 到達目標1:情報システム監査の基本を説明できる。 到達目標2:情報システムに関するマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の基本を説明できる。												
【授業の概要】												
企業や組織にとって情報システムは、作業の効率化やコストダウンなどにとどまらず、ビジネスの根幹にかかわる重要な位置づけとなっており、情報システムのトラブルは組織内外に大きな影響を及ぼします。 本授業では、企業や組織が情報システムに関わる業務を適切に実施し、安全性や信頼性を保っているかを評価して、経営者や関係者に改善を提案する「システム監査」の意義と役割について学習します。また、その対象となるITマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の概要について学習します。 ※授業計画は、履修者の人数および理解度などによって、内容を一部変更する場合があります。												
【授業計画と授業の方法】 講義内容												
(授業計画) 第1回 システム監査とITマネジメント(イントロダクション) システム監査と関連するプロジェクトマネジメント、サービスマネジメントを概観する。 第2回 プロジェクトマネジメント(1) プロジェクトマネジメントとは プロジェクトマネジメントを概観・学修する。 第3回 プロジェクトマネジメント(2) プロジェクトの企画・計画 プロジェクトスコープマネジメントを中心に企画・計画を学修する。 第4回 プロジェクトマネジメント(3) スケジュール・コスト・品質マネジメント スケジュールリング、コスト、品質マネジメントを学修する。 第5回 プロジェクトマネジメント(4) 組織・コミュニケーションマネジメント プロジェクトチームの組織とコミュニケーションについて学修する。 第6回 プロジェクトマネジメント(5) リスクマネジメント プロジェクトのリスクとクライシスマネジメントについて学修する。 第7回 プロジェクトマネジメント(6) アジャイルプロジェクトマネジメント アジャイル開発を中心に反復・漸進型の手法とマネジメントを学修する。 第8回 ITシステム開発のマネジメント これまで学習した知識を元にシステム開発のマネジメント事例を紹介する。 第9回 システム監査(1) システム監査とは 監査全般およびシステム監査を概観する。 第10回 システム監査(2) システム監査計画 システム監査計画について学修する。 第11回 システム監査(3) システム監査の実施とフォローアップ① システム監査の実施およびフォローアップのプロセスを学修する(前半) 第12回 システム監査(4) システム監査の実施とフォローアップ② システム監査の実施およびフォローアップのプロセスを学修する(後半) 第13回 システム監査(5) 情報セキュリティ監査、内部統制 情報セキュリティ監査と内部統制を概観する。 第14回 サービスマネジメント(1) サービスマネジメントを概観・学修する(前半) 第15回 サービスマネジメント(2) サービスマネジメントを概観・学修する(前半) (授業の方法) 授業は15回全て、スライドを用いて教員が講義する形で行います。 第8回講義の中で、第7回までの範囲に関する中間テストを行います。												
テキスト・参考書		テキストは使用しません。講義資料(プリント)を配布します。										
授業時間外の学修		各回の授業内容は連動して知識として積み重なっていくので、授業内容で理解が足りないと感じた場合は、配布した講義資料(プリント)を復習してください。										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間テスト(40%) 期末テスト(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:情報システム監査の基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。 到達目標2:プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。										
備考												
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	システム監査とITマネジメント			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		担当教員名	佐藤 達男				担当形態			
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 情報) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・情報通信ネットワーク(実習を含む。)										
この授業の基礎となる科目						次に履修が望まれる科目				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) この授業の目的は、情報システム監査とその対象となるITシステムのマネジメントの基本を学ぶことです。ITシステムのマネジメントはプロジェクトマネジメントとサービスマネジメントについて学びます。 (受講生の到達目標) 到達目標1:情報システム監査の基本を説明できる。 到達目標2:情報システムに関するマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の基本を説明できる。										
【授業の概要】										
企業や組織にとって情報システムは、作業の効率化やコストダウンなどにとどまらず、ビジネスの根幹にかかわる重要な位置づけとなっており、情報システムのトラブルは組織内外に大きな影響を及ぼします。 本授業では、企業や組織が情報システムに関わる業務を適切に実施し、安全性や信頼性を保っているかを評価して、経営者や関係者に改善を提案する「システム監査」の意義と役割について学習します。また、その対象となるITマネジメント(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント)の概要について学習します。 ※授業計画は、履修者の人数および理解度などによって、内容を一部変更する場合があります。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容 (授業計画) 第1回 システム監査とITマネジメント(イントロダクション) システム監査と関連するプロジェクトマネジメント、サービスマネジメントを概観する。 第2回 プロジェクトマネジメント(1) プロジェクトマネジメントとは プロジェクトマネジメントを概観・学修する。 第3回 プロジェクトマネジメント(2) プロジェクトの企画・計画 プロジェクトスコープマネジメントを中心に企画・計画を学修する。 第4回 プロジェクトマネジメント(3) スケジュール・コスト・品質マネジメント スケジュールリング、コスト、品質マネジメントを学修する。 第5回 プロジェクトマネジメント(4) 組織・コミュニケーションマネジメント プロジェクトチームの組織とコミュニケーションについて学修する。 第6回 プロジェクトマネジメント(5) リスクマネジメント プロジェクトのリスクとクライシスマネジメントについて学修する。 第7回 プロジェクトマネジメント(6) アジャイルプロジェクトマネジメント アジャイル開発を中心に反復・漸進型の手法とマネジメントを学修する。 第8回 ITシステム開発のマネジメント これまで学習した知識を元にシステム開発のマネジメント事例を紹介する。 第9回 システム監査(1) システム監査とは 監査全般およびシステム監査を概観する。 第10回 システム監査(2) システム監査計画 システム監査計画について学修する。 第11回 システム監査(3) システム監査の実施とフォローアップ① システム監査の実施およびフォローアップのプロセスを学修する(前半) 第12回 システム監査(4) システム監査の実施とフォローアップ② システム監査の実施およびフォローアップのプロセスを学修する(後半) 第13回 システム監査(5) 情報セキュリティ監査、内部統制 情報セキュリティ監査と内部統制を概観する。 第14回 サービスマネジメント(1) サービスマネジメントを概観・学修する(前半) 第15回 サービスマネジメント(2) サービスマネジメントを概観・学修する(前半) (授業の方法) 授業は15回全て、スライドを用いて教員が講義する形で行います。 第8回講義の中で、第7回までの範囲に関する中間テストを行います。										
テキスト・参考書		テキストは使用しません。講義資料(プリント)を配布します。								
授業時間外の学修		各回の授業内容は連動して知識として積み重なっていくので、授業内容で理解が足りないと感じた場合は、配布した講義資料(プリント)を復習してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 中間テスト(40%) 期末テスト(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:情報システム監査の基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。 到達目標2:プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの基本知識を問う問題について正しく答えることが出来ている。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本文化史			開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	J-IC-211L/A-IC-231L		担当教員名	米倉 広晃				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本列島における文化について、特に「名のり・名づけ」「装い」「交通」「映像作品」の四つを採り上げ、外国文化の移入・消化の過程などから日本文化がもつ特質を考え、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1: 日本における「名のり・名づけ」「装い」「交通」「映像作品」の各文化について、歴史的展開を説明できる。 到達目標2: 外国文化の移入背景としての政治性的要求を説明できる。 到達目標3: 伝統的・日本的とみなされている文化に対し、継続性・固有性の両面から客観的に論じることができる。										
【授業の概要】										
日本文化の特質を「名のり・名づけ」「装い」「交通」「映像作品」の四つの要素を通じ、対外的な政治情勢や国内の慣習の実態などの背景もふまえながら、理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 ガイダンス・基礎学習(講義) 第 2回 名のり・名づけの文化史 (1) 集団名と個人名(講義) 第 3回 " (2) " (講義) 第 4回 " (3) 生前と死後の名(講義) 第 5回 装いの文化史 (1) 前近代の髪型(講義) 第 6回 " (2) 前近代の女性の服装(講義) 第 7回 第1回小試験 / 予備時間(授業のふり回りなど) 第 8回 装いの文化史 (3) 飛鳥時代までの服装 第 9回 " (4) 朝廷の服制と公家装束 第10回 " (5) " 第11回 " (6) 武家と民衆の服装 第12回 " (7) 近現代の服制 第13回 第2回小試験 / 予備時間(授業のふり回りなど) 第14回 長距離・夜行交通の文化史(講義) 第15回 SF映像作品の文化史(講義)										
(授業の方法) 授業テキスト用のレジュメに対し、口頭や板書で説明を加える講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、2回の小試験を課す。小試験に先立ち、授業に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜し、小試験後のふり回り時に可能な範囲で回答する。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書		(テキスト)特になし。授業時に適宜レジュメを配布する。 (参考書)特になし。								
授業時間外の学修		(事前学修)授業で扱う日本の各文化について、その現状を大まかに把握しておく。 (事後学修)授業内容の復習、授業内容と関連する書籍・資料などの閲覧。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 2回の小試験(40%)および期末試験(60%)で総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1: 日本における「名のり・名づけ」「装い」「交通」「映像作品」の各文化について、その大まかな歴史的展開を理解できている。 到達目標2: 外国文化の移入背景としての、国内外の政治的要求について論じることができている。 到達目標3: 日本的・伝統的とみなされている文化について、継続性・固有性の両面から客観的に分析できている。								
備考										
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本歴史概説1			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-201L		担当教員名	米倉 広晃				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本古代の歴史を、時代ごとの天皇・皇族の在り方を通じて考察し、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:奈良時代までの天皇統治の形成を、近隣諸国との対外関係とも併せて説明できる。 到達目標2:日本の天皇制にみる、諸外国の君主制とは異なる特質を説明できる。 到達目標3:近現代の皇室観にとらわれず、各時代に応じた皇族の範囲・身分的性格を説明できる。										
【授業の概要】										
古墳時代から平安時代中期までの日本の歴史について、時代ごとの天皇や皇族の在り方に焦点をあて、その背景にある国内外の社会情勢や政治動向などをおさえながら理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 ガイダンス・基礎学習(講義) 第 2回 ワカタケル大王の時代への道(講義) 第 3回 オオド王の登場と「天皇家」の成立(講義) 第 4回 天皇中心の集権体制構築への模索(講義) 第 5回 天皇中心の集権体制構築への模索(講義) 第 6回 第1回小試験 / 予備時間(授業のふり返りなど) 第 7回 「天皇」の称号と皇族身分の成立(講義) 第 8回 「天皇」の称号と皇族身分の成立(講義) 第 9回 賜姓皇族とその系譜(講義) 第10回 日本の女性君主(講義) 第11回 桓武天皇の即位と奈良時代の終焉(講義) 第12回 桓武天皇の即位と奈良時代の終焉(講義) 第13回 第2回小試験 / 予備時間(授業のふり返りなど) 第14回 桓武天皇とその子たちの時代(講義) 第15回 象徴的天皇像の萌芽(講義)										
(授業の方法) 授業テキスト用のレジュメに対し、口頭や板書で説明を加える講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、2回の小試験を課す。小試験に先立ち、授業に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜し、小試験後のふり返り時に可能な範囲で回答する。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書			(テキスト)特になし。適宜テキスト用のレジュメを配布する。 (参考書)特になし。							
授業時間外の学修			(事前学修)歴代天皇について、その在位時期を大まかに把握しておく。 (事後学修)授業内容の復習、授業内容と関連する書籍・資料などの閲覧。							
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 2回の小試験(40%)および期末試験(60%)で総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1:奈良時代までの天皇統治の形成を、近隣諸国との関係性とも併せて説明できる。 到達目標2:日本の天皇制にみる、諸外国の君主制とは異なる特質を説明できる。 到達目標3:現代的な皇室観にとらわれず、時代ごとの皇族の範囲・身分的性格を説明できる。							
備考										
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本歴史概説2			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-202L		担当教員名	米倉 広晃				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古代末から現代までの日本の歴史を、時代ごとの天皇・皇族の在り方を通じて考察し、理解する。 (受講生の到達目標) 到達目標1:現代の象徴天皇制にもつながる、武家政権下での天皇制の様相を説明できる。 到達目標2:前近代と近現代とで、天皇家の宗教観・祖先観などに大きな断絶があることを説明できる。 到達目標3:近現代的皇室観にとらわれず、前近代的背景もふまえて現在の皇位継承問題を論じることができる。										
【授業の概要】										
平安時代後期から現代にかけての日本の歴史について、各時代における天皇・皇族の在り方を中心に検討し、その背景としての国内外の社会情勢や政治体制なども考えながら理解を深めていく。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
第 1回 ガイダンス・基礎学習(講義) 第 2回 平安時代後期の政治と社会集団の再編(講義) 第 3回 武家の興隆と皇統の分裂(講義) 第 4回 武家の興隆と皇統の分裂(講義) 第 5回 南北朝の動乱と皇統の収斂(講義) 第 6回 南北朝の動乱と皇統の収斂(講義) 第 7回 第1回小試験／予備時間(授業のふり返りなど) 第 8回 前近代の皇族の制度と構成(講義) 第 9回 中近世の公家社会(講義) 第10回 中近世の公家社会(講義) 第11回 江戸時代の朝幕関係と天皇(講義) 第12回 江戸時代の朝幕関係と天皇(講義) 第13回 第2回小試験／予備時間(授業のふり返りなど) 第14回 天皇の近代化と「伝統」の創出(講義) 第15回 天皇の近代化と「伝統」の創出(講義)										
(授業の方法) 授業テキスト用のレジュメに対し、口頭や板書で説明を加える講義形式で行う。 授業内容の定着度確認のため、2回の小試験を課す。小試験に先立ち、授業に関する質問・感想などを配布の用紙に記入してもらう。記入された質問は選抜し、小試験後のふり返り時に可能な範囲で回答する。また感想についても、授業の質的向上に資したい。										
テキスト・参考書			(テキスト)特になし。授業時に適宜レジュメを配布する。 (参考書)特になし。							
授業時間外の学修			(事前学修)歴代天皇について、その在位時期を大まかに把握しておく。 (事後学修)授業内容の復習、授業中に紹介した書籍・資料等の閲覧。							
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 2回の小試験(40%)および期末試験(60%)で総合的に評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1:武家政権下での天皇制の様相から、現代の象徴天皇制との共通性を論じることができている。 到達目標2:前近代と近現代とで異なる、天皇家の宗教観・祖先観について論じることができている。 到達目標3:前近代までの歴史・文化的背景もふまえ、現在の皇位継承問題を論じることができている。							
備考										
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本美術史Ⅰ			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-112L/A-SF-102L		担当教員名	市川 彰				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの表現を含む）										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目			日本美術史Ⅱ				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本美術史のおおよその流れをつかむと同時に、実際の美術作品を「見る」きっかけとしてもらいたいと思います。さらに、作品の「良さ」を自身の言葉で語れるようになることを目的としています。										
(受講生の到達目標) 到達目標1；日本美術に関する基礎的な知識や情報を得ることができる。 到達目標2；作品を観察し、その結果を言語化することができる。 到達目標3；幅広い視野、多様な視点を持ち、自身が考えたことを文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
日本美術史の流れを概観します。彫刻、絵画、書跡、工芸などの分野の別を問わず、それぞれの時代を代表する名品を、鑑賞するポイント、作品にまつわるエピソードなどを交えながら紹介していきます。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 第 1回 ガイダンス…[講義] 第 2回 「用途」を表現に見る…[講義] 第 3回 「目的」から表現を見る…[講義] 第 4回 「共通点と差異」から表現を見る…[講義] 第 5回 「物語」から表現を見る…[講義] 第 6回 「色と形」から表現を見る…[講義] 第 7回 「数と量」から表現を見る…[講義] 第 8回 「組・セット」を表現に見る…[講義] 第 9回 「手法」から表現を見る…[講義] 第10回 「捧げること」と表現の連関を見る…[講義] 第11回 「量感」から表現を見る…[講義] 第12回 「想像力」を表現に見る…[講義] 第13回 「思想・物語」を表現に見る…[講義] 第14回 「作者の個性」を表現に見る…[講義] 第15回 「優美であること」と表現の連関を見る…[講義]										
(授業方法) プロジェクターとスクリーンを使用して作品の画像を示しながら講義をおこないます。また、各回の内容に即した課題に取り組んで提出してもらいます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		たとえば衣・食・住に関わることなど、身の回りのさまざまな事柄を観察してみてください。その際に感じたこと、思ったことについて、どうして自身がそのように感じ、思ったのか、その理由を探ってみてください。 (事前学修) 各回のテーマ、キーワードについて、関連しそうな身近な事柄を探してみてください。 (事後学修) 各回の講義内容に即した課題に取り組んで提出してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義後に提出する課題シートの記述内容(60%)、期末試験(40%) (成績評価の基準) 到達目標1；基礎的な知識や情報についての設問に適切に答えることができる。 到達目標2；作品の観察を言語化することを求める設問に適切に答えることができる。 到達目標3；自身が持つ視点、自身が考えたことなどを的確な文章で表現することができる。								
備考		寺院や神社、博物館や美術館などを訪れて、作品の「実物」に接することを心がけてみてください。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本美術史2			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	J-RE-113L/A-SF-103L		担当教員名	市川 彰				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		日本美術史Ⅰ		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 日本美術史のおおよその流れをつかむと同時に、実際の美術作品を「見る」きっかけとしてもらいたいと思います。さらに、作品の「良さ」を自身の言葉で語れるようになることを目的としています。										
(受講生の到達目標) 到達目標1;日本美術に関する基礎的な知識や情報を得ることができる。 到達目標2;作品を観察し、その結果を言語化することができる。 到達目標3;幅広い視野、多様な視点を持ち、自身が考えたことを文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
日本美術史の流れを概観します。彫刻、絵画、書跡、工芸などの分野の別を問わず、それぞれの時代を代表する名品を、鑑賞するポイント、作品にまつわるエピソードなどを交えながら紹介していきます。										
【授業計画と授業の方法】										
講 義 内 容										
(授業計画) 第 1回 ガイダンス…[講義] 第 2回 「物語」と表現の連関を見る…[講義] 第 3回 「形式」と表現の連関を見る…[講義] 第 4回 「恐れ」と表現の連関を見る…[講義] 第 5回 「現実」と表現の連関を見る…[講義] 第 6回 「空間」と表現の連関を見る…[講義] 第 7回 「観者」と表現の連関を見る…[講義] 第 8回 「顔貌」と表現の連関を見る…[講義] 第 9回 「魅力」と表現の連関を見る…[講義] 第10回 「作者」と表現の連関を見る…[講義] 第11回 「本場」と表現の連関を見る…[講義] 第12回 「新味」と表現の連関を見る…[講義] 第13回 「色彩」と表現の連関を見る…[講義] 第14回 「流派」と表現の連関を見る…[講義] 第15回 「個性」と表現の連関を見る…[講義]										
(授業方法) プロジェクターとスクリーンを使用して作品の画像を示しながら講義をおこないます。また、各回の内容に即した課題に取り組んで提出してもらいます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		たとえば衣・食・住に関わることなど、身の回りのさまざまな事柄を観察してみてください。その際に感じたこと、思ったことについて、どうして自身がそうに感じ、思ったのか、その理由を探してみてください。 (事前学修) 各回のテーマ、キーワードについて、関連しそうな身近な事柄を探してみてください。 ((事後学修) 各回の講義内容に即した課題に取り組んで提出してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 講義後に提出する課題シートの記述内容(60%)、期末試験(40%) (成績評価の基準) 到達目標1;基礎的な知識や情報についての設問に適切に答えることができる。 到達目標2;作品の観察を言語化することを求める設問に適切に答えることができる。 到達目標3;自身が持つ視点、自身が考えたことなどを的確な文章で表現することができる。								
備考		寺院や神社、博物館や美術館などを訪れて、作品の「実物」に接することを心がけてみてください。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		国語教育学専門演習a		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期	単位数	2単位
科目コード		J-SG-361S/C-TL-323S	担当教員名	山田 和大			担当形態		
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)									
この授業の基礎となる科目		教職に関する科目		次に履修が望まれる科目		国語科教育法1・2			
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 国語科における教育目標及び育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:具体的な教材に即して適切な教材分析を行い、「読むこと」に関する単元の学習目標や学習活動を学習指導要領に示された国語科の目標や内容をもとに設定することができる。 到達目標2:具体的な教材に即して適切な教材分析を行い、基礎的な学習指導理論をふまえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。									
【授業の概要】									
国語教育に関わる諸理論・概念、資料の収集方法と使い方、分析と考察の方法、思考方法(思想)の捉え方、正確な記述の方法について学びます。各自、任意の教材を取り上げて表現と構造の分析・考察を行い、学習指導要領を踏まえた単元計画案を作成します。演習の回では、これを順次発表し、内容について議論します。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
(授業計画) 第1回:教材の表現と構造の分析方法 (講義) 第2回:国語科学習指導の現在と教材研究 文学教材の場合 (講義) 第3回:国語科学習指導の現在と教材研究 評論文教材の場合 (講義) 第4回:中学校文学教材の研究①教材の表現および構造についての分析・考察 (演習) 第5回:中学校文学教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) 第6回:中学校説明文教材の研究①教材の分析・考察 (演習) 第7回:中学校説明文教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) 第8回:中学校言語文化教材の研究①教材の分析・考察 (演習) 第9回:中学校言語文化教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) 第10回:高等学校文学教材の研究①教材の分析・考察 (演習) 第11回:高等学校文学教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) 第12回:高等学校評論文教材の研究①教材の分析・考察 (演習) 第13回:高等学校評論文教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) 第14回:高等学校古典教材の研究①教材の分析・考察 (演習) 第15回:高等学校古典教材の研究②主体的・協働的に深い学びを創出していく単元計画案 (演習) (授業の方法) 15回の授業の中で、国語教育に関わる諸理論・概念の理解、資料の収集方法と使い方、表現と構造の分析・考察の方法、正確な記述について、具体的に即して指導します。 履修者の人数によって、演習の回を増減します。 また、授業時間以外にも、発表準備及び完成資料作成のための相談に応じます。									
テキスト・参考書		文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 国語科編』(東洋館出版社)、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)解説国語編』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〈高等学校国語〉』(東洋館出版社)、(※上記テキストは、国語科教育法1・2、国語教育学専門演習a・bで共通して使用。文部科学省ホームページや国立教育政策研究所ホームページにあるデジタル版でもよい)							
授業時間外の学修		(事前学修)次回取り上げる教材を読解して、表現や構造についての気づきを記録しておいてください。 次回発表担当者は、初回の授業で示された項目について、分析・考察して、発表資料を作成してください。 (事後学習)テキストの関連した章を読んでください。発表者は、授業で議論になったことを踏まえて、さらに分析・考察を深めて、資料を完成してください。 各回の事後学習として、1時間程度の復習を必要とします。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 課題研究の発表(20%)、授業での質問・意見等の参加状況(20%)、完成資料(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:課題研究の資料において、適切な教材分析を記述しており、学習目標や学習活動について学習指導要領に示された国語科の目標や内容を踏まえ適切に記述している。 到達目標2:課題研究の資料において、適切な教材分析を記述しており、基礎的な学習指導理論をふまえて、具体的な授業場面を想定した単元計画案を作成している。また、演習発表での質疑応答において教材分析や発表者の単元計画案について、適切な意見を述べている。							
備考		Teamsを授業情報や資料の共有に活用します。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	国語教育学専門演習b			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	J-SG-362S/C-TL-324S		担当教員名	山田 和大				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)										
この授業の基礎となる科目		教職に関する科目		次に履修が望まれる科目		国語科教育法1・2				
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 国語科における教育目標及び育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指します。 (受講生の到達目標) 到達目標1:国語科学習指導の実践事例について、その学習目標や学習活動を学習指導要領に示された国語科の目標や内容に照らして説明することができる。 到達目標2:国語科学習指導の実践事例を取り上げて、その学習指導理論・授業設計について考察・評価して記述することができ、そこで得られた知見を基に具体的な授業場면을想定した授業設計を行うことができる。										
【授業の概要】										
国語科の教育実践が基盤としている諸理論・概念について学びます。 各自、任意の優れた授業実践を取り上げて、学習目標・単元の展開・評価の方法・授業の工夫と学びの実際の各観点から分析・考察を行い、現行の学習指導要領を踏まえた単元計画案を作成します。 演習の回では、これを順次発表し、内容について議論します。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画) 第1回:国語教育の現代的課題―「主体的対話的で深い学び」の実現 (講義) 第2回:国語教育の現代的課題―習得・活用・探究の学び (講義) 第3回:国語科の単元学習①大村はまの「書くこと」の実践に学ぶ (講義) 第4回:国語科の単元学習②大村はまの「聞くこと・話すこと」の実践に学ぶ (講義) 第5回:中学校における文学の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第6回:高等学校における文学の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第7回:中学校における伝統的言語文化の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第8回:高等学校における伝統的言語文化の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第9回:中学校における論理的文章の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第10回:高等学校における論理的文章の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第11回:中学校における「書くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第12回:高等学校における「書くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第13回:中学校における「話すこと／聞くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第14回:高等学校における「話すこと／聞くこと」の授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) 第15回:国語科におけるアクティブ・ラーニングの授業実践の分析・考察と単元計画案 (演習) (授業の方法) 15回の授業の中で、国語教育に関わる諸理論・概念の理解、ICT活用を含む学習活動の工夫、学習者の学びの実態について、具体的に即して指導します。 履修者の人数によって、演習の回を増減します。 また、授業時間以外にも、発表準備及び完成資料作成のための相談に応じます。										
テキスト・参考書		文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年3月公示)解説 国語科編』(東洋館出版社)、文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年3月公示)解説国語編』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校国語』(東洋館出版社)、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〈高等学校国語〉』(東洋館出版社)、(※上記テキストは、国語科教育法1・2、国語教育学専門演習a・bで共通して使用。文部科学省ホームページや国立教育政策研究所ホームページにあるデジタル版でもよい)								
授業時間外の学修		(事前学修)次回取り上げる教材と対象論文(実践報告)を読解して、気づきを記録しておいてください。次回発表担当者は、初回の授業で示された項目について、分析・考察して、発表資料を作成してください。 (事後学習)授業で取り上げた理論や概念について、授業で紹介する参考文献を読むなどして、理解を深めてください。発表者は、授業で議論になったことを踏まえて、さらに分析・考察を深めて、資料を完成してください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 課題研究の発表(20%)、授業での質問・意見等の参加状況(20%)、課題研究の完成資料(60%) (成績評価の基準) 到達目標1:課題研究の資料において、国語教育の実践事例について、学習指導要領で該当するものを適切に取り上げて記述している。 到達目標2:課題研究の資料において、国語科学習指導の実践事例について、その学習指導理論・授業設計について適切な考察・評価を記述しており、そこで得られた知見を基に具体的な授業場면을想定した単元計画案を作成している。また、演習発表での質疑応答において、実践事例の考察・評価や発表者の単元計画案について、適切な意見を述べている。								
備考		Teamsを授業情報や資料の共有に活用します。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	フィールドワーク			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期	単位数	2単位
科目コード	J-RE-342S		担当教員名	山田 和大、小畑 拓也				担当形態	
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 日本文学研究と創作に結びつく実地踏査をおこない、資料収集や調査研究能力を身につける。また、事前学修と事後学修では企画立案から成果報告までに必要な知識と技能を修得し、隣接する日本語学・歴史学・民俗学・地域学からも広く日本文化について学修する。 (受講生の到達目標) 到達目標1: フィールドワークの意義をふまえて実施可能なテーマを設定し、一定の仮説を立てて適切な技能を活用することができる。 到達目標2: 事前学修とフィールドワークで得た情報を正確に分析し、公開可能な成果報告物を作成することができる。									
【授業の概要】									
教員引率型フィールドワークと、履修者個人実施型フィールドワークの両方をおとして、計画・実施・報告までの手順を段階的に学び、実際に取り組む授業。教員引率型フィールドワークは高知・松山エリアにおいて、日本文学科の研究分野に関連する施設や伝承地を2泊3日で探訪する予定。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
(授業計画) 第 1回 講義:ガイダンス 第 2回 演習:フィールドワークの報告書等を読む 第 3回 演習:実地踏査に関する事前学修 第4回 演習:実地踏査に関する事前学修2 第5回 発表:個別計画書の最終確認 第6回～12回 フィールドワーク:2泊3日の実地踏査 第13回 演習:実地踏査に関する事後学修1 第14回 演習:実地踏査に関する事後学修2 第15回 発表:成果報告(研究レポート、または創作) (授業の方法) 第1回では年間スケジュールを説明する。 第2回～第5回ではフィールドワークを行うにあたっての必要な手順や心得を学びながら、自身が設定したテーマにふさわしい調査方法を検討し、実施に向けての準備を進める。 第6回～第12回では2泊3日のフィールドワークを実施する。なお、2025年度は高知県高知市、愛媛県松山市近辺を踏査対象地域とする予定。 第13回～第14回ではフィールドワーク実施後の情報整理と分析を行う。 第15回では個人の学修成果を他者と共有できる形に整えて報告する。 (※ 上記の進行は日程調整の関係から随時変更する可能性もある。) 主な訪問先(※ 履修者数などの関係で変更することがある。) 1日目:高知県高知市(高知県立文学館、高知城歴史博物館など) 2日目:高知県高知市(高知市内散策) 3日目:愛媛県松山市(子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアムなど)									
テキスト・参考書		資料を配布する。							
授業時間外の学修		(事前学修) 事前の配布資料を確認し、研究テーマとの関連づけを想定した課題を授業専用ノートに記録しておくこと。 (事後学修) 各回の演習における成果を授業専用ノートに記録し、改善点と課題に関する情報整理をしておくこと。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への取り組み(50%) 調査研究の事前準備(20%) 調査研究の成果報告物(30%) (成績評価の基準) 到達目標1:実施可能な計画に基づき一定の仮説・技能によるフィールドワークをおこない、その経過を適切に報告できている。 到達目標2:事前学修とフィールドワークで得た情報を分かりやすく分析し、事後学修をふまえた上で他者と共有できる成果報告物を作成している。							
備考		新年度のオリエンテーション期間に実施する事前の説明会に出席しておくこと。授業はポータルサイトとteamsも活用し、演習・実施報告にふさわしい授業形態で実施する。この授業専用ノート(フィールドワーク実施中も利用可能な形態のもの)を準備しておくこと。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン論		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-111L		担当教員名	林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝目 祥二、井村 和寛				担当形態	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目		構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目				デザイン実習1 情報機能論 編集とデザイン		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン分野の幅広さと内容について理解し、自らが行うデザインについて論理的な支柱を獲得することを目的とします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;美術に関連する知識や情報を得ることで、幅広い視野で物事を捉え、論理的に考えをまとめることができる。 ・到達目標2;自分の考えをまとめたことを、言語化し発表することができる。 ・到達目標3;芸術表現と社会との関わりを理解し、自らの適性をもとにした具体的な将来像を文章で表現することができる。										
【授業の概要】										
オムニバス形式の授業を通して、様々な視点からデザインを捉え、仮定、考察、発想、展開などといったデザインの思考の活性を図ります。全授業の最後に「私のデザイン論」のテーマでレポートを提出してもらいます。										
林:暮らしとデザイン 勝目: 井村: 伊藤:自己作品とグラフィックデザインの解説 黒田:映像と時間 西原: 白木:デザインの思考から学ぶこと										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 第1回:オリエンテーション(全教員)、オムニバス各教員の紹介「講義」 第2回:パッケージデザインの仕事の話(伊藤)「講義」「発表」 第3回:地域のブランディングデザインについて(伊藤)「講義」「発表」 第4回:自然素材とデザイン(林)「講義」「発表」 第5回:暮らしとデザイン(林)「講義」「発表」 第6回:(勝目)「講義」「発表」 第7回:(勝目)「講義」「発表」 第8回:(井村)「講義」「発表」 第9回:(井村)「講義」「発表」 第10回:映像と時間(黒田)「講義」「発表」 第11回:映像とはなんだろうか?(黒田)「講義」「発表」 第12回:短編アニメーションの世界(西原)「講義」「発表」 第13回:短編アニメーションと表現展開(西原)「講義」「発表」 第14回:漢字デザインから学ぶ 1「基本について考える」(白木)「講義」 第15回:漢字デザインから学ぶ 2「発想と哲学」(白木)「講義」 (授業の方法) デザインの教員6名と非常勤講師1名を合わせて7名の教員によるオムニバス形式の授業です。また第2回目の講義から「私のデザイン論」のテーマで各自2,3分のスピーチをしてもらいます。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		オリエンテーション時、各教員の専門領域を伝えるので、担当教員の業務領域を調べ、質問事項を持って出席してください。授業後は、毎回自分のデザイン論としてまとめておくこと。 (事前学修)授業に関するリサーチ (事後学修)毎回の授業後にコメントシート作成								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業後に提出するコメントシートへの記述内容(60%)、期末レポート(40%) (成績評価の基準) 到達目標1;毎回授業後に提出するコメントシートで授業を受けた感想と気づきについて記述できている。 到達目標2;「私のデザイン論」のスピーチが自分の言葉で言語化できている。 到達目標3;期末レポートで自らの適性をもとにした将来像をデザインの視点で論述できている。								
備考		講義中に参照すべき資料を適宜紹介します。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	空間造形論		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-211L		担当教員名	小野 環			担当形態		
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)									
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 創作活動を継続していくための糧として、過去から現代までの多彩な空間表現に触れることで視野を広げ、知見を深めることを目的としています。									
(受講生の到達目標) ・到達目標1; 空間表現についての考え方や歴史に関する知識を修得している。 ・到達目標2; 多様な芸術表現に触れ、感受性を養うことができる。 ・到達目標3; 幅広い視野で美術表現を捉え、表現の可能性を探索することができる。									
【授業の概要】									
美術家やデザイナーにとって、表現を展開する空間や場所との関係についての考察は重要な課題です。オムニバス形式の授業を通して、現代における空間表現の多様性や豊かさに触れ、その可能性を考察していきます。									
小野:美術家の視点で、多彩な空間表現を紹介し、場所と作品の関係を考察。フィールドワーク・ワークショップも行う。(美術家) 渡邊:フィールドノートの実践を通じ、どのように空間をとらえ、記録するのかを考察。(建築家) 稲川:自身の表現上の実践を通じ、表現と文化的バックグラウンドの関係を考察。(美術家) 松岡:美術館学芸員の視点で、「美術」や「美術館制度」について紹介、考察。(広島市現代美術館学芸員) 山本:美術家の視点で、自身の表現活動や、インスタレーションの持つ可能性について考察。(美術家)									
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容							
(授業計画) 第1回(小野)ガイダンス～空間認知の多様性について「講義」 第2回(小野)自身の制作活動や場所をめぐる実践について紹介「講義」 第3回(小野)個人史と美術史の交わる場所～現代美術における空間表現の展開「講義」 第4回(小野)場所と空間～サイトスペシフィックとホワイトキューブ「講義」 第5回(渡邊)建築家の視点 フィールドワークとフィールドノート～その意義と方法について「講義」 第6回(稲川)美術家の視点 自身の実践について紹介「講義」 第7回(小野)瀬戸内国際芸術祭ができるまで～フィールドワークガイダンスとして「講義」 第8回フィールドワーク(1) 午前 豊島 豊島美術館 島内作品「フィールドワーク」 第9回フィールドワーク(2) 午後 豊島 心臓音のアーカイブ 豊島横尾館 島内作品「フィールドワーク」 第10回(小野)「空間との呼吸」フィールドワークの振り返りとミニワークショップ「講義」「演習」 第11回(松岡)学芸員の視点「路上と観察をめぐる表現史」「講義」 第12回(松岡)学芸員の視点 美術館という空間～広島市現代美術館における試み「講義」 第13回(山本)美術家の視点 自作を語る「講義」 第14回(山本)美術家の視点 表現における強さと深さ～表現とアイデンティティ「講義」「演習」 第15回(小野)空間の記録と表現～ドキュメントの方法と役割「講義」									
(授業の方法) 多彩な現場で活動する美術家や学芸員の視点でさまざまな空間表現を紹介するオムニバス授業です。フィールドワークを行う他、授業内で随時ワークショップも行います。									
テキスト・参考書		各講義時に資料配布や参考資料の提示を行います。							
授業時間外の学修		(事前学修)担当教員の情報を授業前にリサーチしてください。 (事後学修)授業で出たキーワードや、作家、作品についてのリサーチしてください。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業への積極的な取り組み(50%)、フィールドワークレポート(20%)、最終レポート(30%)により評価します。							
		(受講生の到達目標) ・到達目標1; 各授業後に提出するコメントシートで授業の感想と新たに得た知識についてまとめ、記述できている。 ・到達目標2; フィールドワーク触れた多様な作品についての感想を自分の言葉で言語化できている。 ・到達目標3; 幅広い講師による授業内容を踏まえ、授業内のワークショップで、自身の視点を自覚した空間表現を探究することができている。							
備考		※講師の日程調整の都合で、授業の順番は変更になる場合があります。 ※フィールドワークは休日に実施し、午前、午後の終日となります。アクセス可能な港までバスでの移動となりますが、それ以降の交通費および観覧料として5000円程度がかかります。 ※講師の日程調整の都合で、授業の順番は変更になる場合があります。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	図法及び製図			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-121S			担当教員名	渡邊 義孝			担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 演習により基礎製図、三面図、透視図等の技法技術を習得し、静物デッサン、風景画及び漫画・アニメーションの背景における遠近法の理論習得を目標とする。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:製図板・T定規・コンパス等の製図用具の正しい使用法を身に付けて基礎的な図形表現ができる。 ・到達目標2:三面図(第三角法)に習熟し、立体の投影図を短時間で作成できるようになる。 ・到達目標3:一点パース、二点パースの理論を体得し、実際の三次元空間を正確にスケッチできる。										
【授業の概要】										
美術家及びデザイナー、漫画家に必要な図法・製図の基礎知識を修得し、今後の創作活動に生かすことを目的とする。 構想した立体及び空間を図面化し、透視図法を習得し他者に伝達する技法を学ぶ。 授業では、解説資料と作図用紙を配布し、実習を通して技法と理論を身に付ける。教室内だけでなく、廊下・階段・校庭などさまざまな場所に移動しながら、視点の移動とそれによる空間の見え方を実践的に学ぶ。作図中に随時講師が巡回し指導する。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 オリエンテーション(空間の透視図)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第2回 製図用具の使い方1(線の練習1)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第3回 製図用具の使い方2(線の練習2)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第4回 空間の製図演習1(三面図)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第5回 空間の製図演習2(三面図から1点透視図)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第6回 空間の製図演習3(三面図から2点透視図)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第7回 図学演習(五角形、七角形、楕円形)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第8回 立体の製図演習1(三面図から2点透視図)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第9回 立体の製図演習2(2点透視図のバリエーション)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第10回 立体の製図演習3(分割と増殖その他の技法)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第11回 空間の表現演習(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第12回 さまざまな技法(アクソメ、アイソメ)(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第13回 透視図法のまとめ(講義、課題、フィート?ハ?ック) 第14回 風景画実習1(2点透視図・学内風景スケッチ)(各自演習) 第15回 風景画実習2(2点透視図仕上げ)(各自演習) 第16回 風景画実習3+講評										
(授業の方法) 各回授業の事後学習にはおよそ1時間程度を必要とし、課題への取り組みは指示された宛先に指定期日までに提出すること。										
テキスト・参考書		テキスト:椎名見早子『パース塾2実践編』(廣済堂出版) その他に随時資料を配付する								
授業時間外の学修		(事後学修)授業で学んだ技法を使って、授業終了後にノートまたはA4用紙に簡単なスケッチを行なう。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 修了製作(第14,15,16回の授業で作成したもの)【50%】、毎回提出される課題【30%】と授業への取り組み態度【20%】を総合評価する。 (成績評価の基準) 到達目標1:製図用具の正しい使い方を習得できたか 到達目標2:指定時間内に複雑な形状の物体を三面図で作図できるか 到達目標3:水平線と消失点の連関を把握し等間隔に並ぶ事物を正しく表現できているか								
備考		14、15、16回の計3回の授業時間を使って、修了製作(A3版の紙にモノクロまたは着色で1枚を製作し16回の時間内に提出する)を完成させる。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名			金工演習		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-221S		担当教員名	勝目 祥二				担当形態		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための選択科目(中学校・高等学校 美術) 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸											
この授業の基礎となる科目		塗装法演習			次に履修が望まれる科目			木工演習			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 演習を通して金属についての理解を深め、成形・加工機械および用具の使用方法等の基礎的なスキルを習得し、自身の制作の芸術表現を高めることが授業の目的です。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1;素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2;専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3;自らの思考をまとめ、作品を発表することができる。											
【授業の概要】											
金属材料の種類と特性等の基礎知識を学び、彫金技法や鋳造技法等による制作を通して用具の使用法を身につけ、金工技法による造形表現を学びます。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回 オリエンテーション(金属についての講義。安全作業及び手工具の種類と使い方の指導。) 第2回 金工作業の基礎練習「演習」 第3回 ガス型鋳造法による作品制作(原型製作)「演習」 第4回 ガス型鋳造法による作品制作(原型製作、仕上げ)「演習」 第5回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳型製作、前半)「演習」 第6回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳型製作、後半)「演習」 第7回 ガス型鋳造法による作品制作(鋳込み)「演習」 第8回 彫金による作品制作1(甲丸リング制作)「演習」 第9回 彫金による作品制作2(V字リング制作)「演習」 第10回 彫金による作品制作3(丸線リング制作)「演習」 第11回 彫金による作品制作4(平リング制作)仕上げ 「講評」「演習」「発表」 第12回 ガス型鋳造法による作品制作(安全作業及び電動工具、機械の種類と使い方の指導)「演習」「講義」 第13回 ガス型鋳造法による作品制作(荒仕上げ)「演習」 第14回 ガス型鋳造法による作品制作(中仕上げ)「演習」 第15回 ガス型鋳造法による作品制作(最終仕上げ)・最終講評会 「講評」「演習」「発表」											
(授業の方法) オムニバス形式											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		(事前学修)ありません。 (事後学修)制作工程や完成作品を写真撮影し、作品発表のためのレポートとしてまとめます。。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 金工技法習得への積極的な取り組み(50%)、提出作品(50%)。 (成績評価の基準) ・到達目標1;素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2;専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3;自らの思考を作品で表現できている。									
備考		指導者の指示に沿って、安全作業を遵守してください。 授業に出席する場合は必ず作業着、作業靴を着用してください。 材料費が3,500円程度必要となります。									
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名			写真(映像)演習			開講年次	カリキュラムにより 異なります。	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-122S		担当教員名		野田 尚之				担当形態		
【科目の位置付け】												
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)												
この授業の基礎となる科目						次に履修が望まれる科目			情報機能論			
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) カメラや機材の事を理解した上で、制作意図に忠実な作品撮影ができるようになる。												
(受講生の到達目標) ・到達目標1:カメラ等の機材の扱い方を理解することで、思った通りの芸術表現を実現することができる。 ・到達目標2:表現意図通りの撮影が出来るようになって、新たな表現の作品制作へ挑戦できるようになる。 ・到達目標3:制作のスケジュールを自己管理できる。												
【授業の概要】												
各自の作品制作をサポートする為に、写真を理解して活用できるようになる事が重要だという観点から実習に徹した授業を行います。写真自体での制作も視野に入れた実習を、尾道という特徴を活かしながら進めていきます。												
【授業計画と授業の方法】												
講 義 内 容												
(授業計画) 第1回 写真が写る原理を知ろう『講義』 第2回 デジタルカメラを使ってみよう『講義』 第3回 カメラやレンズの機能を理解しよう『講義』 第4回 大学の周り(久山田ロケ)で撮影してみよう(雨天の場合は「第5回」と入れ替え)プリントで作品提出『実習』 第5回 Adobe Lightroom Classicを使った現像処理のやり方『講義』 第6回 尾道の街を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第7回 尾道の街を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第8回 尾道の街を撮影したプリントで作品提出『講評』 第9回 尾道のお寺を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第10回 尾道のお寺を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第11回 尾道のお寺を撮影したプリントで作品提出『講評』 第12回 照明機材を使って静物ライティング①『実習』 第13回 照明機材を使って静物ライティング②『実習』 第14回 照明機材を使って人物ライティング①『実習』 第15回 照明機材を使って人物ライティング②『実習』 (第16回 久山田ロケ、人物、静物を撮影したプリントで作品提出『講評』)												
(授業の方法) 講評時には各自の作品テーマに沿ったプレゼンテーションをしていただきます。 また全体でのディスカッションを通して作品への理解度をより深める作業を行います。 学外での撮影は状況によりこのスケジュールよりも早めに実施することがあります。												
テキスト・参考書			『(解説DVD)世界一わかりやすいデジタルカメラと写真の教科書 ミラーレス編』 中井精也 著 インプレス									
授業時間外の学修			(事前学習) 各演習前の準備(カメラ等のバッテリーやメモリーカード含む)と制作テーマの考察を行ってください。 (事後学習) 撮影後は写真のセレクト～調整～現像～プリントを行なってください。 また複数日に分かれて同じテーマの撮影がある場合は、初日の撮影後に次回の撮影をどう行っていくかの考察をお願いします。									
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 座学を含め撮影技術への積極的な取り組み(50%) 撮影した写真をプリントし提出物にて評価する。(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:カメラ等の扱い方を習得し、表現しようと思った通りの作品制作ができている。 ・到達目標2:写真の色々な表現方法を身につけ、新たな表現に挑戦できるようになる。 ・到達目標3:スケジュール通りの制作作業を遂行し、講評に参加することができる。									
備考			デジタル一眼レフカメラ、若しくはミラーレスカメラでマニュアル撮影できるものを用意する。 最初の授業時にカメラの購入等に関する説明をします。 カメラを購入しなくても、既に持っている方や情報処理研究センターから借りる等でも対応可。 写真スタジオでミラーレスカメラ6台貸与可能。 カメラ用メディア(個人のSDカード)、データ移行用USBメモリ及び講評用インクジェット写真用紙が必要。 講評用プリンターインク代金として3,000円必要です。									
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		写真(映像)演習		開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード		A-SF-122S	担当教員名	野田 尚之				担当形態	
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)									
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目		情報機能論		
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) カメラや機材の事を理解した上で、制作意図に忠実な作品撮影ができるようになる。									
(受講生の到達目標) ・到達目標1:カメラ等の機材の扱い方を理解することで、思った通りの芸術表現を実現することができる。 ・到達目標2:表現意図通りの撮影が出来るようになって、新たな表現の作品制作へ挑戦できるようになる。 ・到達目標3:制作のスケジュールを自己管理できる。									
【授業の概要】									
各自の作品制作をサポートする為に、写真を理解して活用できるようになる事が重要だという観点から実習に徹した授業を行います。写真自体での制作も視野に入れた実習を、尾道という特徴を活かしながら進めていきます。									
【授業計画と授業の方法】									
講義内容									
(授業計画) 第1回 写真が写る原理を知ろう『講義』 第2回 デジタルカメラを使ってみよう『講義』 第3回 カメラやレンズの機能を理解しよう『講義』 第4回 大学の周り(久山田ロケ)で撮影してみよう(雨天の場合は「第5回」と入れ替え)プリントで作品提出『実習』 第5回 Adobe Lightroom Classicを使った現像処理のやり方『講義』 第6回 尾道の街を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第7回 尾道の街を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第8回 尾道の街を撮影したプリントで作品提出『講評』 第9回 尾道のお寺を撮影しよう①(雨天決行)『実習』 第10回 尾道のお寺を撮影しよう②(雨天決行)『実習』 第11回 尾道のお寺を撮影したプリントで作品提出『講評』 第12回 照明機材を使って静物ライティング①『実習』 第13回 照明機材を使って静物ライティング②『実習』 第14回 照明機材を使って人物ライティング①『実習』 第15回 照明機材を使って人物ライティング②『実習』 (第16回 久山田ロケ、人物、静物を撮影したプリントで作品提出『講評』)									
(授業の方法) 講評時には各自の作品テーマに沿ったプレゼンテーションをしていただきます。 また全体でのディスカッションを通して作品への理解度をより深める作業を行います。 学外での撮影は状況によりこのスケジュールよりも早めに実施することがあります。									
テキスト・参考書		『(解説DVD)世界一わかりやすいデジタルカメラと写真の教科書 ミラーレス編』 中井精也 著 インプレス							
授業時間外の学修		(事前学習) 各演習前の準備(カメラ等のバッテリーやメモリーカード含む)と制作テーマの考察を行ってください。 (事後学習) 撮影後は写真のセレクト～調整～現像～プリントを行なってください。 また複数日に分かれて同じテーマの撮影がある場合は、初日の撮影後に次回の撮影をどう行っていくかの考察をお願いします。							
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 座学を含め撮影技術への積極的な取り組み(50%) 撮影した写真をプリントし提出物にて評価する。(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:カメラ等の扱い方を習得し、表現しようと思った通りの作品制作ができています。 ・到達目標2:写真の色々な表現方法を身につけ、新たな表現に挑戦できるようになる。 ・到達目標3:スケジュール通りの制作作業を遂行し、講評に参加することができている。							
備考		デジタル一眼レフカメラ、若しくはミラーレスカメラでマニュアル撮影できるものを用意する。 最初の授業時にカメラの購入等に関する説明をします。 カメラを購入しなくても、既に持っている方や情報処理研究センターから借りる等でも対応可。 写真スタジオでミラーレスカメラ6台貸与可能。 カメラ用メディア(個人のSDカード)、データ移行用USBメモリ及び講評用インクジェット写真用紙が必要。 講評用プリンターインク代金として3,000円必要です。							
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	木工演習			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-123S		担当教員名	林 宏、松本 祐助				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目(中学校 美術)、教員の免許状取得のための選択科目(高等学校 美術) 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目		塗装法演習			
【授業の目的と到達目標】										
演習を通して木質材料の特性を理解し、加工のための機械、工具の使い方を学ぶことで、素材の特性を生かした作品制作を安全に行うことが授業の目的です。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;木工機械や工具の扱い方を学ぶことで、基礎的な芸術表現に活用することができる。 ・到達目標2;木質材料の特性を理解し、特性を活かした作品を制作することができる。 ・到達目標3;多様な木の表現と自身の作品との関係性より、感受性を高めることができる。										
【授業の概要】										
木質材料の基礎知識および木工制作における基礎技法について、制作を通して身につけます。簡単な図面の作成や塗装法についても講義を行います。										
【授業計画と授業の方法】講義内容										
① 額の制作、自身の作品を収めるための額の制作 サイズは5号未満 ? 最終的には自身の作品を入れて講評を行う。										
第1回 オリエンテーション 木質材料の基礎知識の講義 木工安全講習 「講義」 第2回「額の制作」自身の作品を収めるための額の制作ガイダンス スケッチ「演習」 第3回「額の制作」機械による製材 手作業による材料取り「演習」 第4回「額の制作」機械加工とノミなどを使った加工1「演習」 第5回「額の制作」機械加工とノミなどを使った加工2「演習」 第6回「額の制作」接着組み立て 「演習」 第7回「額の制作」仕上げ加工1「演習」 第8回「額の制作」仕上げ加工2 「演習」 第9回「額の制作」塗装 「演習」										
?② カッティングボードの制作 サイズは210×360程度?										
第10回「カッティングボード」ガイダンス スケッチ?「講義」 第11回「カッティングボード」機械による製材 手作業による材料取り?「演習」 第12回「カッティングボード」機械加工とノミなどを使った加工1「演習」 第13回「カッティングボード」機械加工とノミなどを使った加工2?「演習」 第14回「カッティングボード」仕上げ加工 塗装?「演習」 第15回「額」および「カッティングボード」 総講評 「発表」										
(授業の方法) 本演習授業では制作を始める前に木工安全講習の講義を行います。また普段の生活の中で使えるクラフト作品の制作を通じて、自身の生活を豊かなものにするねらいがあります。講評では各自が設定した自由なテーマをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションも行います。										
テキスト・参考書		使用しません。								
授業時間外の学修		(事前学習)演習前の制作計画と作業工程の確認をしてください。 (事後学習)演習後のまとめと次回の取り組みの計画をたててください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 工具の適切な扱い方の修得と制作への積極的な取り組み(70%)、作品評価(30%)。 詳しくは第1回のガイダンスで伝えます。 (成績評価の基準) ・到達目標1;木工機械や工具の扱い方を修得し、美しい作品を制作することができている。 ・到達目標2;制作スケジュールに合わせて作業を遂行し、講評に参加することができている。 ・到達目標3;講評時に自身の作品と組み合わせ、作品をプレゼンテーションできる。								
備考		指導者の指示に沿って、安全作業を遵守して下さい。必ず作業着、作業靴を着用して出席してください。材料費が3500円程度必要です。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名				塗装法演習		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード		A-SF-124S		担当教員名	林 宏				担当形態			
【科目の位置付け】												
教員の免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校 美術） 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・工芸												
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目		木工演習 金工演習					
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) 演習を通して塗料の特性を理解し、塗装法および用具の使い方など、基礎的なスキルを修得します。また様々な塗装の実例から、自身の制作の芸術表現を高めることが授業の目的です。												
(受講生の到達目標) ・到達目標1: 素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2: 専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3: 多様な塗装表現および表面処理に触れることで、感受性を養うことができる。												
【授業の概要】												
天然樹脂塗料（漆、シェラック、柿渋、各種オイル）、合成樹脂塗料の基礎知識、使用法について制作を通して身につける。また、金属塗装においては、いわゆる塗りの領域にとどまらず、化学反応、腐食、メッキなども含めた表面処理全般について学びます。												
【授業計画と授業の方法】												
講 義 内 容												
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 塗装の基礎知識の講義 各種塗装ガイダンス「講義」 第2回「木の板皿」素地調整「演習」 第3回「木の板皿」素地固め 木の染色「演習」 第4回「木の板皿」塗装下地「演習」 第5回「木の板皿」中塗り「演習」 第6回「木の板皿」研ぎ 上塗り「演習」 第7回「木の板皿」研ぎ 磨き「演習」 第8回「木の板皿」加飾 磨き「演習」 第9回「木の板皿」仕上げ 講評 「発表」 第10回 金属塗装演習 安全作業の指導、及び道具の種類と使い方 下地作り「演習」 第11回「金属板」ポー○ハップによる硫化仕上「演習」 第12回「金属板」煮込み着色「演習」 第13回「金属板」硫酸銅による緑青発色「演習」 第14回「金属板」電気メッキ「演習」 第15回 観察記録制作&仕上予備日「報告」												
(授業の方法) オムニバス形式												
テキスト・参考書		ありません。										
授業時間外の学修		(事前学修)ありません。 (事後学修)制作した作品や工程を写真撮影し、観察記録作成のための資料としてまとめます。										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 塗装法習得への積極的な取り組み(50%)、観察記録のレポートと提出物(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1: 素材の特性を理解し、基礎的な技術を活用して制作することができる。 ・到達目標2: 専門分野の表現技術を習得し、制作に活用することができる。 ・到達目標3: 観察記録がよくまとめられている。										
備考		指導者の指示に沿って、安全作業を遵守してください。 授業に出席する場合は必ず作業着、作業靴を着用すること。 材料費が3500円程度必要です。										
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	壁画技法演習			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-222S		担当教員名	菅原 智子				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古代より伝わる壁画技法の構造を知り、壁画技法を用いて基本的な制作ができるようになる。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:壁画技法の構造を理解することで絵画の成り立ちについて考えることができる。 ・到達目標2:壁画技法を習得し、それを用いて自分なりの表現ができるようになる。 ・到達目標3:壁画技法の特性を理解し、今後の表現の可能性について考えることができる。										
【授業の概要】										
絵画の起源と歴史を知った上で壁画技法を習得するために、講義も含めた実習中心の授業を行います。 モザイクでは古代ローマ時代に多く作られた大理石モザイクをパネルを用いて、オリジナル原画で1点完成させます。 フレスコでは基本的なブオンフレスコの技法をパネルを用いて、オリジナル原画または模写で1点完成させます。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 第1回 モザイク画概説 モザイクの支持体制作『講義・実習』 第2回 下地塗り 石材の準備『実習』 第3回 道具と材料の説明 石割り モザイク作品の下絵制作『実習』 第4回 制作:下絵制作続き 転写 制作(石の固着)開始『実習』 第5回 制作:全体の配色を石材の色と照らし合わせ、先ず背景などから始めて材料に慣れる『実習』 第6回 制作:徐々に主要部分に入る『実習』 第7回 制作:石の大きさや目地の流れを意識しながら制作を進める『実習』 第8回 制作:全体の調和を確認しながら進める『実習』 第9回 制作:モザイク作品完成『実習』 第10回 フレスコ画概説 フレスコの支持体制作 モルタル練り『講義・実習』 第11回 制作:下絵制作 カルトーネ(転写用下絵)制作『実習』 第12回 制作:下地塗り 試作『実習』 第13回 制作:中間層塗り 試作『実習』 第14回 制作:描画層塗り 描画『実習』 第15回 フレスコ作品完成 片付け 講評 採点『実習・講評』										
(授業の方法) 制作の手順を全体で一斉に説明した後、各自個人の制作に入ります。 講評時には制作後の感想、作品のプレゼンテーションを発表していただきます。 授業の進行状況により予定が変更することもあります。										
テキスト・参考書		プリント配布								
授業時間外の学修		(事前学修) 壁画についての情報収集をできる範囲でしておいてください。 (事後学修) 各自制作の進度により、作品完成までの時間配分を考慮し、必要に応じて授業時間外(昼休み、授業開始前など)の制作を行ってください。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 提出作品の内容(完成度や独創性)(70%) 制作への積極的な取り組み(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1:壁画技法の構造を理解している。 ・到達目標2:壁画技法を習得し、自分なりの表現で作品を完成させている。 ・到達目標3:壁画技法の特性を理解して、今後の表現の可能性について考えることができています。								
備考		汚れてもいい服装と動きやすい靴(サンダル不可)で参加してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	テンペラ画技法演習			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-223S		担当教員名	赤木 範陸				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 絵画は物理的には支持体と絵の具により成り立ち、絵の具は顔料と結合材の違いにより、異なる視覚効果を付与されることになる。この絵の具が重層的に塗り重ねられた際の物理的、視覚的特質を理解し、各自が自らの絵画制作に応用する力を習得できることが望ましい。 (受講生の到達目標) 到達目標 1; テンペラ画表現の基礎的な技術と知識を学び、素材の特性を知ることができる。 ?到達目標 2; テンペラ画の制作技術を修得し、課題制作に活用することができる。 ?到達目標 3; 制作スケジュールを自己管理することができる。										
【授業の概要】										
ヨーロッパ中世末期に成立した古典絵画技法から絵画の物理的構造を理解し、顔料が如何なるメディウムで溶かれ、絵の具として用いられたかを知り、どのように描かれたかをプロセスによる制作を通して探ることで、材料と技法が生み出している重層構造の視覚的効果を経験し、絵画理解を深める。 油彩画以前の絵画技法であるテンペラ技法演習では、エマルジョンキャンヴァスを自製し、テンペラで絵の具を練り、モチーフを観察しながら制作する。										
【授業計画と授業の方法】講義内容										
(授業計画) 第 1回 オリエンテーション(テンペラ画の歴史の概要、手順の説明等)(講義)(演習) 第 2回 F15号木枠の生麻布張り、前膠塗り(演習) 第 3回 エマルジョン地塗り溶液を作成、前日に前膠塗りを施した生麻布への地塗り(演習) 第 4回 エマルジョンキャンヴァスに素描(描画用具は木炭、鉛筆等)(演習) 第 5回 卵テンペラメディウム作製、単色(バーントシエナ等)のテンペラ絵具による下層描き(演習) 第 6回 卵テンペラの下層描き完成(演習) 第 7回 着色樹脂によるインプリマトゥーラ(演習) 第 8回 白色テンペラ絵の具による白色モデリング(明部のみを描く)(演習) 第 9回 白色モデリングの完成、白色テンペラ絵の具による薄白掛け(演習) 第10回 ラズール層(ここでは着色樹脂を使う)を施す(演習) 第11回 テンペラ絵の具による上層描き1(ローカルトーンの描きいれ)(演習) 第 12回 テンペラ絵の具による上層描き2(ローカルトーンの描きいれ)(演習) 第13回 テンペラ絵の具による上層描き3(ディテール描きいれ)(演習) 第14回 テンペラ絵の具による上層描き4(作品全体の調整)(演習) 第15回 作品講評(発表) (授業の方法) 本演習は、講義と実制作で構成されています。 初回にガイダンスを行い、2回目以降の課題制作では工程ごとに画材や制作方法を説明しながら制作を進めていきます。										
テキスト・参考書	オリジナルテキスト マックス・デルナー「絵画技術体系」美術出版社									
授業時間外の学修	事前学修 課題の内容と制作工程を確認し、必要な道具と資料を準備する。 事後学修 期間内に終わるよう各自で制作を進めておく。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法)?制作態度(30%)、プレゼンテーション(10%)、作品評価(60%)。 (?成績評価の基準) ?到達目標 1; テンペラ画表現の基礎的な技術と知識を学び、本演習を通じて素材の特性を知ることができている。 ?到達目標 2; テンペラ画の制作技術を修得し、課題制作に活用することができている。 ?到達目標 3; 本演習において、制作スケジュールを自己管理することができている。									
備考	テキストは事前に必ず読み疑問点を把握しておく事。授業で何かをしてくれる事を待っているだけでは何も得られない。自ら深究する態度が必要である。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	版画制作演習			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-SF-224S		担当教員名	武雄 文子				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) ・直接手で描く絵画とは違う版画のプロセスを学び、シルクスクリーン(孔版)、銅版(凹版)という二つの版画技法それぞれの特性を理解し、平面作品を制作できる技術を修得する。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:版画の歴史や版画の特性を理解し、制作を行うことができる。 ・到達目標2:自身の表現に適した素材や技法について幅広く考察し、可能性を広げることができる。 ・到達目標3:版画の基礎的な技法や概念を修得することで、自身の分野へ応用し、様々な表現ができるようになる。										
【授業の概要】										
・版画技法の中でシルクスクリーンと銅版画を学びます。 ・直接手で描く絵画とは違う版画のプロセス、版を通した様々な表現方法、また複数のエディションができることなどを学び、特性を理解して自身の表現方法の広がりを模索します。 ・紙以外の支持体にも刷ることで、素材による見え方の違い、版画の特性を学びます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 「版画について」 導入 シルクスクリーンについての説明、第1課題説明 下絵の作成『講義・実習』 第2回 ポジフィルム(原稿)の作成『実習』 第3回 製版、調色『実習』 第4回 紙への印刷『実習』 第5回 布への印刷・解版『実習』 第6回 銅版画についての説明 第2課題(ドライポイント)説明 下絵作成『講義・実習』 第7回 描画、刷り『実習』 第8回 第3課題(エッチング・アクアチント・ソフトグラウンド)説明 下絵、描画『実習』 第9回 描画『実習』 第10回 刷り『実習』 第11回 第4課題説明 下絵の制作『講義・実習』 第12回 描画『実習』 第13回 試し刷り、ブラッシュアップ『実習』 第14回 本刷り『実習』 第15回 本刷り/講評『実習・合評』										
(授業の方法) すべて版画工房で実施します。講評会では完成した作品を観賞し、フィードバックを行います。										
テキスト・参考書		教員が作成、または蔵書から随時抜粋しプリント配布								
授業時間外の学修		(事前学修) どのような版画作品があるかを調べる。下絵や版計画の作成。 (事後学修) 授業で示したことをメモをとり、事後、プロセスなどを復習し学習する。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 作品制作への取り組み方、授業態度(50%) 作品の完成度(50%) (成績評価の基準) ・到達目標1:版画の歴史や版画の特性を理解し、それらを活かした制作を行うことができている。 ・到達目標2:自身の表現に適した素材や技法について幅広く考察し、自身で選択することで可能性を広げることができる。 ・到達目標3:版画の基礎的な技法や理論を学ぶことで、自身の分野へ応用する技術や視点を会得し、それらの技術、理論、視点を提示することができる。								
備考		・第一回のオリエンテーションで抽選を行うので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・展覧会鑑賞、画集やインターネットによる版画情報の収集と作品鑑賞に努める。 ・材料費として実習費7,000円程度が必要。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名		版画制作演習		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期	単位数	2単位
科目コード		A-SF-224S		担当教員名	藤田 紗衣			担当形態	
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)									
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】									
授業の目的 シルクスクリーン(孔版)、銅版(凹版)という異なる技法の「版画」について、それぞれの特性を理解し、平面作品を制作できる技術を修得する。									
受講生の到達目標 ・版画の歴史や原理を理解するとともに版画の基礎的技術を学び実践することができる。 ・作品についてのディスカッションを積極的に行うことができる。 ・版画の基礎的な技法や概念を自分の専門分野へと応用することができる。									
【授業の概要】									
・版となる素材とそれを扱う様々な技法を体験しながら、どのように平面のイメージに展開させるかを学ぶ。 ・シルクスクリーン(孔版)、銅版(凹版)という異なる技法の「版画」について、それぞれの特性を理解し、平面作品を制作する。 ・版画の持つ「間接性」「複数性」について理解し、その可能性を探る。 ・手描きやパソコンを使用した表現を版画と掛け合わせ、新たな表現方法を探る。									
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容									
第1回 講義「版画について」 シルクスクリーンについての説明、第一課題(2色のイメージを紙と布へ印刷)説明 下絵の作成 [講義・演習] 第2回 ポジフィルム(原稿)の作成 [演習] 第3回 製版、調色 [演習] 第4回 紙への印刷 [演習] 第5回 布への印刷・解版 [演習] 第6回 第二課題(3色のイメージを紙or布に印刷)説明 下絵、原稿の作成 [講義・演習] 第7回 製版、調色 [演習] 第8回 印刷 [演習] 第9回 印刷、解版 [演習] 第10回 銅版画についての説明 課題説明 銅板とエンビ板でのドライポイントのための下絵とプレートマークの作成 [講義・演習] 第11回 プレートマーク作成、製版 [演習] 第12回 製版、刷り[演習] 第13回 エッチング 製版作業 [演習] 第14回 エッチング 製版作業、刷り [演習] 第15回 刷り/講評 [演習・ディスカッション]									
テキスト・参考書		教員が作成、または蔵書から随時抜粋しプリント配布							
授業時間外の学修		授業で示した書籍・参考作品の参照 下絵や版計画の作成							
成績評価の方法と基準		作品制作への取り組み方・ディスカッションの参加度・作品の完成度							
備考		・展覧会鑑賞、画集やインターネットによる版画情報の収集と作品鑑賞に努めること。 ・定員を15名程度とする。履修希望者は「抽選登録」をすること。履修者希望が大きく定員を超える場合は、短期留学生、高学年の履修者を優先的に許可することがある。 ・材料費として実習費7,000円程度が必要。 ・作業の進行状況などにより授業スケジュールや課題内容を一部変更することがある。							
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	デッサン基礎実習			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード	A-FS-101P		担当教員名	小野 環、中村 譲、林 宏				担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目				油画実習1 デザイン実習1 日本画実習1			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目標) 各自の志望コースにおける実習につながる基礎力を身につけることを目標とします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1; 描画・表現技術を修得し、制作に活用することができる。 ・到達目標2; 自らの表現の問題を分析し課題を発見することができる。 ・到達目標3; 対象や空間を客観的に観察することができる。										
【授業の概要】										
表現の基礎となる観察力や造形力を養う。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 共通課題 第1回:【共通課題】現場で描く／ガイダンス「講義」「実習」 第2回:【共通課題】現場で描く／支持体・描画材の準備「実習」 第3回:【共通課題】現場で描く／取材・学内散策「実習」 第4回:【共通課題】現場で描く／視点を探る「実習」 第5回:【共通課題】現場で描く／制作開始「実習」 第6回:【共通課題】現場で描く／制作の継続「実習」 第7回:【共通課題】現場で描く／制作の展開「実習」 第8回:【共通課題】現場で描く／中間講評「発表」 第9回:【共通課題】現場で描く／振り返り「実習」 第10回:【共通課題】現場で描く／制作の再スタート「実習」 第11回:【共通課題】現場で描く／制作の継続、観察「実習」 第12回:【共通課題】現場で描く／制作の継続 描画の工夫「実習」 第13回:【共通課題】現場で描く／完成「実習」 第14回:【共通課題】現場で描く／制作全体の振り返り「実習」 第15回:【共通課題】現場で描く／講評「発表」 選択課題: 日本画 第16回:【日本画】静物制作／ガイダンス、構図を考える「講義」「実習」 第17回:【日本画】静物制作／空間、質感、物の形を把握する「実習」 第18回:【日本画】静物制作／全体バランスを掴み描き込む「実習」 第19回:【日本画】静物制作／完成、講評「実習」 第20回:【日本画】剥製制作／プロポーションを掴む「実習」 第21回:【日本画】剥製制作／質感を表現する「実習」 第22回:【日本画】剥製制作／描き込みによるリアル感「実習」 第23回:【日本画】剥製制作／完成、講評「発表」 第24回:【日本画】古典模写／鳥獣戯画絵巻について「講義」「実習」 第25回:【日本画】古典模写／画材の把握、準備「実習」 第26回:【日本画】古典模写／場面の選択、構図の決定「実習」 第27回:【日本画】古典模写／線の違いを把握する「実習」 第28回:【日本画】古典模写／墨の濃さの違いを把握する「実習」 第29回:【日本画】古典模写／全体の雰囲気をつかむ「実習」 第30回:【日本画】古典模写／全体の微調整、学生同士で比較「実習」 選択課題: 油画 第16回:【油画】ドローイングによる探究／ガイダンス「講義」 第17回:【油画】ドローイングによる探究／リサーチ「実習」 第18回:【油画】ドローイングによる探究／グループワーク「実習」 第19回:【油画】ドローイングによる探究／ダンスドローイング「実習」 第20回:【油画】ドローイングによる探究／身体ワークショップ「実習」 第21回:【油画】ドローイングによる探究／言葉からの展開「実習」 第22回:【油画】ドローイングによる探究／作品のまとめ「実習」 第23回:【油画】ドローイングによる探究／講評「発表」「講義」 第24回:【油画】人物表現／ガイダンス「講義」 第25回:【油画】人物表現／ドローイング「実習」 第26回:【油画】人物表現／描画素材、支持体の準備「実習」 第27回:【油画】人物表現／人物の構造、空間との関係を探る「実習」 第28回:【油画】人物表現／全体のバランスを見直す「実習」 第29回:【油画】人物表現／仕上げ「実習」 第30回:【油画】人物表現／講評「発表」 選択課題: デザイン 第16回:【デザイン】ストップモーション／オリエンテーション「講義」 第17回:【デザイン】ストップモーション／参考作品鑑賞「講義」 第18回:【デザイン】ストップモーション／アプリケーションの使い方「講義」 第19回:【デザイン】ストップモーション／アイデア出し「実習」 第20回:【デザイン】ストップモーション／動きの試作「実習」 第21回:【デザイン】ストップモーション／動きの検証「実習」 第22回:【デザイン】ストップモーション／撮影計画「実習」 第23回:【デザイン】ストップモーション／撮影(素材探索)「実習」 第24回:【デザイン】ストップモーション／撮影(構図の検証)「実習」 第25回:【デザイン】ストップモーション／撮影(動きの検証)「実習」 第26回:【デザイン】ストップモーション／編集(撮影素材を並べる)「実習」 第27回:【デザイン】ストップモーション／編集(カット順序の検証)「実習」 第28回:【デザイン】ストップモーション／編集(時間軸の調整)「実習」 第29回:【デザイン】ストップモーション／最終仕上げ「実習」 第30回:【デザイン】ストップモーション／講評「発表」 (授業の方法) 第1回から第15回までは共通課題に取り組み、美術学科全教員による講評を行います。第16回以降は日本画、油画、デザインの3コースに分かれて、それぞれのコースの課題を行います。										
テキスト・参考書	特に使用しません。									
授業時間外の学修	ありません。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 課題に対する積極的な取り組み(40%)、提出作品の造形力(30%)、表現技術の到達度(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1; 描画・表現技術を修得し、制作に活用することができる。 ・到達目標2; 自らの表現の問題を分析し課題を発見することができる。 ・到達目標3; 対象や空間を客観的に観察することができる。									
備考	各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。									
担当教員の実務経験の有無	○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		構成実習		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	2単位
科目コード		A-FS-102P		担当教員名		林 宏、中村 譲、小野 環			担当形態	
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			日本画実習1 油画実習1 デザイン実習1			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 各自が設定したテーマについて基礎的な知識や技術を活用して作品を制作することができ、主体的に芸術表現への理解を深めることを目標とします。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:各種画材の特性を理解し基礎的な技術を活用して作品を制作することができる。 到達目標2:課題のテーマを理解し制作プロセスを通してアイデアを展開することができる。 到達目標3:自身の芸術表現について主体的に探求することができる。										
【授業の概要】										
1年前期の総合基礎実習で各コースの課題を体験したのち、自分の適性を考慮して前期終了時にコース選択をします。、後期からそれぞれのコースに分かれて、コースのカリキュラムに沿った課題を行います。基礎的な技術や各自の表現方法を活かしながら、身近な素材を使って造形表現や構成力を養う課題の制作を行います。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回 共通課題「自画像／スケッチを重ねる」「講義」「実習」 第2回 共通課題「自画像／資料収集」「実習」 第3回 共通課題「自画像／構成を考える」「実習」 第4回 共通課題「自画像／表現手法の工夫」「実習」 第5回 共通課題「自画像／実制作」「実習」 第6回 共通課題「自画像／講評」「発表」 ◆第7回以降は「日本画」「油画」「デザイン」の選択課題 日本画 第7回 「下図制作演習 (50号制作想定)／ガイダンス」「講義」「実習」 第8回 「下図制作演習 (50号制作想定)／モチーフの設定 (取材1)」「実習」 第9回 「下図制作演習 (50号制作想定)／モチーフの設定 (取材2)」「実習」 第10回 「下図制作演習 (50号制作想定)／習作作成 (エスキース)」「実習」 第11回 「下図制作演習 (50号制作想定)／習作作成 (画面構成)」「実習」 第12回 「下図制作演習 (50号制作想定)／習作作成 (画面配色)」「実習」 第13回 「下図制作演習 (50号制作想定)／習作作成 (描込みと全体感)」「実習」 第14回 「下図制作演習 (50号制作想定)／完成に向けた調整」「実習」 第15回 「下図制作演習 (50号制作想定)／講評」「発表」 油画 第7回 「コラージュからの展開／ガイダンス」「講義」「実習」 第8回 「コラージュからの展開／構想、アイデアスケッチ」「実習」 第9回 「コラージュからの展開／コラージュ素材収集・支持体準備」「実習」 第10回 「コラージュからの展開／コラージュ1枚目制作開始 複数並行して制作」「実習」 第11回 「コラージュからの展開／コラージュ2枚目制作開始」「実習」 第12回 「コラージュからの展開／コラージュ3枚目制作開始 」「実習」 第13回 「コラージュからの展開／制作の見直し」「実習」 第14回 「コラージュからの展開／完成」「実習」 第15回 「コラージュからの展開／講評」「発表」 デザイン 第7回 「ロゴデザイン／オリエンテーション、実例の紹介・リサーチ」「講義」 第8回 「ロゴデザイン／アイデア出し、ラフ案制作」「実習」 第9回 「ロゴデザイン／実制作-コンセプト・造形・彩色・レイアウトの検討」「実習」 第10回 「ロゴデザイン／作品プレゼンテーションと講評」「発表」 第11回 「立体デザイン／オリエンテーション・素材、用具の説明及び安全講習」「講義」 第12回 「立体デザイン／アイデアスケッチ・製材・モック制作・検討」「実習」 第13回 「立体デザイン／実制作・材料取り・切削加工」「実習」 第14回 「立体デザイン／実制作・仕上げ・塗装」「実習」 第15回 「立体デザイン／作品プレゼンテーションと講評」「発表」										
テキスト・参考書		様々な芸術作品の参考資料を必要に応じて提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) さまざまな素材を扱う課題に対する積極的な取り組み (40%)、提出作品の造形力 (30%)、表現技術の到達度 (30%) (成績評価の基準) 到達目標1:画材の特性を理解し、基礎的な技術を用いて制作した作品を講評会に提出できているか。 到達目標2:課題のテーマをもとに展開したアイデアを客観的に確認し、制作に結びつけているか。 到達目標3:提出作品において、独自の視点をもって主体的に造形表現ができているか。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名			彫刻		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード		A-FS-103P		担当教員名	秋山 隆				担当形態		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・彫刻											
この授業の基礎となる科目				次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 塑造・木彫制作を通して、対象物の構造や動きを捉える観察力と基礎的な造形力を段階的に身に付けることができるようになる。 (受講生の到達目標) ・到達目標1:使用する道具に慣れることにより、制作形態に適した道具の選択をすることができる。 ・到達目標2:素材の特性を理解することで、様々な芸術表現をすることができるようになる。 ・到達目標3:制作の時間配分を思考できる。											
【授業の概要】											
【塑造】-胸像の制作 はじめにクロッキー及びデッサンを行い、制作する部位を様々な方向から観察し、構造・奥行き・動き・量を捉え、次に、クロッキーを参考に心棒を組み、粘土づけをしていく。粘土づけの際は対象をよく観察し、表面ばかりを追うのではなく、内部構造を意識した捉え方を身につける。 【木彫】-乾物を彫る(模刻) 各自が気に入った乾物を選定し、制作する対象を様々な方向から観察しながらデッサンをおこなう。木材(樟 板材)の特性・道具の使用方法を理解しながら彫り出す。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回:【塑造】課題説明、クロッキー「実習」 第2回:【塑造】素描、クロッキー、心棒説明「実習」 第3回:【塑造】心棒組み「実習」 第4回:【塑造】粘土練り、粘土(特性)についての説明「実習」 第5回:【塑造】粘土粗付け(素材に慣れる)「実習」 第6回:【塑造】粘土粗付け(量を意識)「実習」 第7回:【塑造】制作 粘土付け(頭部の対称性)「実習」 第8回:【塑造】制作 粘土付け(各部の位置と比率の確認)「実習」 第9回:【塑造】制作 粘土付け(前後左右バランス確認・仕上げ)「実習」 第10回:【塑造】作品提出「講評」 第11回:【木彫】課題説明、デッサン「実習」 第12回:【木彫】道具説明、製材「実習」 第13回:【木彫】製材「実習」 第14回:【木彫】製材した木材にデッサン「実習」 第15回:【木彫】制作 木取り「実習」 第16回:【木彫】制作 面取り(荒取り)「実習」 第17回:【木彫】制作 小造り「実習」 第18回:【木彫】制作 仕上げ(細部表現)「実習」 第19回:【木彫】仕上げ(全体のバランス確認、仕上げ)「実習」 第20回:【木彫】作品提出「講評」											
(授業の方法) 全体人数を2グループに分け、「木彫」・「塑造」実習をおこなっていただきます。 講評時には、制作した作品についてそれぞれの所感を述べてもらい、それに沿った意見交換、講評をおこないます。											
テキスト・参考書		使用しない。									
授業時間外の学修		(事前学修) 塑造:人体骨格のプリントを配布しますので、参考にしながら実習に活かしてください。 木彫:貸与する道具等を必要に応じて調整(鑿・彫刻刀の刃こぼれ)を申し出てください。 (事後学修) 実習時間内に指摘された箇所を修正できるよう、考察をおこなってください。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習中の取り組み姿勢(40%)、授業内容の理解度(30%)などを基本とし、提出作品(30%)の内容で評価します。 (成績評価の基準) 到達目標1:表面的なものだけに捉われず、基本構造を理解して制作ができている。 到達目標2:素材特性を活かし、柔軟な発想のもと制作に取り組めるようになる。 到達目標3:長期制作になるため、各自が決めたスケジュールに沿った制作をおこない講評にのぞめている。									
備考		彫刻実習に必要な道具類は貸与しますので、デッサン道具、作業着(汚れても良いもの)は各自準備してください。									
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	総合基礎実習		開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード	A-FS-104P		担当教員名	中村 譲、小野 環、林 宏			担当形態		
【科目の位置付け】									
この授業の基礎となる科目			デッサン基礎実習 構成実習 彫刻			次に履修が望まれる科目		油画実習1 日本画実習1 デザイン実習1	
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 各コースの素材の特性を知り基礎的な制作を行った上で、コースの特色や美に対する考え方を理解します。そして、自分に合った表現技術、専門分野を自覚し志望コースを明確にするのが目的です。 (受講生の到達目標) 到達目標1;いろいろな美や芸術の本質、美術の考え方を知ることができている。 到達目標2;素材の特性を知り基礎的な技術を活用して制作することができる。 到達目標3;専門分野の表現技術を習得し、自分に合った制作を見つけることができる。									
【授業の概要】									
油画、日本画、デザインの各課題を履修し、自己の資質と方向性を吟味します。 1年前期で各コースの課題を体験したのち、自分の適性を考慮して前期終了時に暫定的にコース選択をします。 後期からそれぞれのコースに分かれて、コースのカリキュラムに沿った課題を行い、基礎的な技術や各自の表現方法を活かしながら、各分野の素材を使って制作をします。									
【授業計画と授業の方法】 講義内容									
前期 油画コース 第1回「油画:大型静物油彩／ガイダンス」「講義」「実習」 第2回「油画:大型静物油彩／ワークショップ1 油絵具について」「講義」「実習」 第3回「油画:大型静物油彩／ワークショップ2 視点を探す」「講義」「実習」 第4回「油画:大型静物油彩／ワークショップ3 マチエールについて」「講義」「実習」 第5回「油画:大型静物／ワークショップ4 ドローイングで検討する」「講義」「実習」 第6回「油画:大型静物／油彩制作開始」「実習」 第7回「油画:大型静物／油彩制作 モチーフとの対話」「実習」 第8回「油画:大型静物人／油彩制作 画面との対話」「実習」 第9回「油画:大型静物／油彩制作 完成へ向けて」「実習」 第10回「油画:大型静物油彩／講評」「発表」 日本画コース 第1回「日本画:自由モチーフによる静物制作」／ガイダンス、自由表現を心がけたエスキース作成」講義」「実習」 第2回「日本画:自由モチーフによる静物制作／モチーフのデッサン、本紙張込み説明」「実習」 第3回「日本画:自由モチーフによる静物制作／デッサンを基に画面構成」「実習」 第4回「日本画:自由モチーフによる静物制作／日本画材料の説明」「実習」 第5回「日本画:自由モチーフによる静物制作／墨を用いた骨描き、下描き」「実習」 第6回「日本画:自由モチーフによる静物制作／描き込み、地塗り、下塗りを中心に」実習」 第7回「日本画:自由モチーフによる静物制作／描き込み、本塗り、実際の彩色を中心に」実習」 第8回「日本画:自由モチーフによる静物制作／描き込み、更にイメージに近づける」「実習」 第9回「日本画:自由モチーフによる静物制作／描き込み、仕上げに向けた調整、完成」「実習」 第10回「日本画:自由モチーフによる静物制作／講評」「発表」 デザインコース 第1回「デザイン:尾道発見/尾道の特徴を知る」「講義」「実習」 第2回「デザイン:尾道発見/尾道の街を巡る」「フィールドワーク」 第3回「デザイン:尾道発見/リサーチしたことをまとめる」「ディスカッション」「発表」 第4回「デザイン:尾道発見/テーマを決定する」「実習」 第5回「デザイン:尾道発見/構想を練るラフ制作」「実習」 第6回「デザイン:尾道発見/バリエーションの検討」「実習」 第7回「デザイン:尾道発見/デザイン最終形の検討」「実習」 第8回「デザイン:尾道発見/作品制作」「実習」 第9回「デザイン:尾道発見/作品のプレゼンテーション」「発表」 第10回「デザイン:尾道発見/作品の検証」「講評」 後期 油画コース 第1回「部屋からの発見／ガイダンス」「講義」「実習」 第2回「部屋からの発見／視点を探る」「実習」 第3回「部屋からの発見／物の観察」「実習」 第4回「部屋からの発見／空間の観察」「実習」 第5回「部屋からの発見／現象の観察」「実習」 第6回「部屋からの発見／作品の検討」「実習」 第7回「部屋からの発見／作品の選択」「実習」 第8回「部屋からの発見／講評」「発表」 日本画コース 第1回「植物制作(百合)／ガイダンス」「講義」「実習」 第2回「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、モチーフの配置」「実習」 第3回「植物制作(百合)／デッサンとエスキース、画面の配色」「実習」 第4回「植物制作(百合)／デッサン完成」「実習」 第5回「植物制作(百合)／画面構成の決定」「実習」 第6回「植物制作(百合)／デッサンから線や調子の抽出」実習」 第7回「植物制作(百合)／本紙に骨描き」実習」 第8回「植物制作(百合)／下塗りとして効果的な彩色」実習」 第9回「植物制作(百合)／描き込み、質感の意識」実習」 第10回「植物制作(百合)／描き込み、配色の意識」実習」 第11回「植物制作(百合)／描き込み、部分の完成度」実習」 第12回「植物制作(百合)／描き込み、全体バランスの意識」実習」 第13回「植物制作(百合)／描き込み、更にイメージに近づける」実習」 第14回「植物制作(百合)／描き込み、完成に向けた調整、完成」実習」 第15回「植物制作(百合)／講評」「発表」 デザインコース 第1回「シルエット構成／古典から広くシルエットを学ぶ」「講義」 第2回「シルエット構成／構想を練る・ラフ制作・表現の検証」実習」 第3回「シルエット構成／作品制作」実習」 第4回「シルエット構成／作品プレゼンテーションと講評」「発表」 第5回「立体造形／オリエンテーション・イメージを形にする・作品鑑賞」講義」 第6回「立体造形／アイデア出し・エスキース制作」実習」 第7回「立体造形／実制作・効果チェック」実習」 第8回「立体造形／実制作・修正」実習」 第9回「立体造形／実制作・最終チェック」実習」 第10回「立体造形／作品プレゼンテーションと講評」「発表」									
(授業の方法) 前期は各コースの課題それぞれ10回を3コース分30回を行います。後期は日本画、油画、デザインの3コースに分かれて、それぞれのコースの課題を行います。									
テキスト・参考書			使用しません。						
授業時間外の学修			ありません。						
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) さまざまな素材を扱う課題に対する積極的な取り組み(40%)、提出作品の造形力(30%)、表現技術の到達度(30%) (成績評価の基準) 到達目標1;いろいろな美や芸術の本質、美術の考え方を知っている。 到達目標2;素材の特性を知り基礎的な技術を活用して制作できている。 到達目標3;専門分野の表現技術を習得し、自分に合った制作を見つけれられている。						
備考			各コース課題の目的に沿って研究、制作を行います。						
担当教員の実務経験の有無			○	実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画													
授業科目名			日本画実習1		開講年次		2年	開講年度学期		2026年度前期、2026年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SJ-201P		担当教員名		中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子					担当形態		
【科目の位置付け】													
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)													
この授業の基礎となる科目			総合基礎実習、構成実習、デッサン基礎実習、彫刻実習			次に履修が望まれる科目			日本画実習2				
【授業の目的と到達目標】													
(授業の目的) 人体デッサンや風景スケッチ、動物写生等を通して日本画の基礎となる技術を活用し制作に結びつけます。また箔や裏打ちの材料研究を行い、日本画の基礎的な技術の幅を広げ客観的に観察し、課題を発見できるようにします。													
(受講生の到達目標) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識を理解することができる。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を修得し、表現技術につながるようにすることができる。 ・到達目標3;自身の作品についての客観的に観察することができる。													
【授業の概要】													
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期は静物、動物、風景のテーマで制作を行います。後期は自画像(絹本)で、日本画の素材と技術を体験し、コンクール形式の風景制作課題では自身の到達度を相対評価を行います。年度末には初めての自由課題制作を行い、2、3年生の合同講評会に参加します。													
【授業計画と授業の方法】 講義内容													
第1回:【静物制作】モチーフセット、エスキースによる構図検討「講義」「実習」 第2回:【静物制作】デッサン、小下図、大下図、彩色開始「実習」 第3回:【静物制作】描き込み「実習」 第4回:【静物制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第5回:【動物スケッチ】クロッキー「実習」 第6回:【動物スケッチ】デッサン／風景スケッチ「実習」 第7回:【人体デッサン】クロッキー、観察による素描、提出「実習」 第8回:【風景制作Ⅰ】取材、スケッチ、小下図、大下図「実習」 第9回:【風景制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第10回:【風景制作Ⅰ】描き込み「実習」 第11回:【風景制作Ⅰ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第12回:【動物制作】スケッチ、エスキース、小下図、大下図「実習」 第13回:【動物制作】骨描き、下塗り「実習」 第14回:【動物制作】描き込み「実習」 第15回:【動物制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第16回:【自画像(絹本)制作】課題説明、自画像デッサン「講義」「実習」 第17回:【自画像(絹本)制作】工程説明、下準備、骨描き、描き込み「実習」 第18回:【自画像(絹本)制作】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第19回:【人体デッサン／裏打ち講義】 第20回:【風景制作Ⅱ】(クラス内コンクール)50号 風景制作Ⅰからの展開、取材、準備等「実習」 第21回:【風景制作Ⅱ】骨描き、(彩色)序盤、下塗り等「実習」 第22回:【風景制作Ⅱ】(彩色)中盤、描き込み「実習」 第23回:【風景制作Ⅱ】(彩色)終盤、仕上げ、順位公表、講評「実習」「発表」 第24回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図「実習」 第25回:【人物制作Ⅰ／箔講義】下塗り、描き込み「講義」「実習」 第26回:【人物制作Ⅰ】描き込み「実習」 第27回:【人物制作Ⅰ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第28回:【自由制作】取材、表現の素材選択、準備等「実習」 第29回:【自由制作】下塗り、描き込み「実習」 第30回:【自由制作】仕上げ 2・3年生合同講評会「実習」「発表」 ※《動物スケッチ》は6月中旬から下旬に福山動物園や阿佐動物園にて、また《風景スケッチ》では5月中旬から下旬に一泊二日でスケッチ旅行(行き先／広島・岡山県内)《風景制作Ⅰ》では広島市立大学と合同授業を実施する予定。 (授業の方法) 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれの個性や問題点について話し合う機会を設け研究します。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。													
テキスト・参考書			使用しません。										
授業時間外の学修			ありません。										
成績評価の方法と基準			(成績評価の方法) 実習への取り組み(30%)と、提出作品による表現技術の達成度(70%)を総合的に評価する。 (成績評価の基準) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識の理解をもとに作品が制作できている。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を活かした表現技術で制作できている。 ・到達目標3;自身の作品について客観的に観察し、具体的に理解することができる。										
備考			積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集などの資料を必要に応じて提示する。										
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	日本画実習2			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期	単位数	14単位
科目コード	A-SJ-301P		担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態	
【科目の位置付け】									
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画(映像メディア表現を含む)									
この授業の基礎となる科目	日本画実習1		次に履修が望まれる科目				日本画実習3 卒業制作		
【授業の目的と到達目標】									
(授業の目的) 日本画実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに日本画材料の特性を理解し、幅広い視野で物事を捉え、主体的に考え表現の可能性の探求を目指します。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識をさらに理解することができる。 ・到達目標2;日本画の素材を知り基礎的な技法を修得し、幅広い視野で物事を捉え、さらなる表現技術につながるようにすることができる。 ・到達目標3;作品について主体的に表現を考え、制作することができる。									
【授業の概要】									
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期では風景と人物制作課題とともに古典模写を行い、日本画の知識を深めます。後期には人物と自由制作、そしてコンクール形式の自由制作課題を行い、自身の到達度を相対評価していきます。									
【授業計画と授業の方法】									
講 義 内 容									
(授業計画) 第1回:【古典模写】宋元画の研究(素材、描画法)、下準備「講義」「実習」 第2回:【古典模写】<上げ写し>表現研究、裏打ち、パネル張り込み「実習」 第3回:【古典模写】<彩色>描画法の研究「実習」 第4回:【古典模写】<彩色>仕上げ、提出「実習」「発表」 第5回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第6回:【人体デッサン】観察による表現、提出「実習」 第7回:【風景制作】取材、スケッチ、小下図、大下図「実習」 第8回:【風景制作】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第9回:【風景制作】描き込み「実習」 第10回:【風景制作】仕上げ、講評「実習」「発表」 第11回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第12回:【人物制作Ⅰ】デッサン、小下図、大下図「実習」 第13回:【人物制作Ⅰ】画材準備、骨描き、下塗り「実習」 第14回:【人物制作Ⅰ】描き込み「実習」 第15回:【人物制作Ⅰ】描き込み、仕上げ、講評「実習」「発表」 第16回:【人物制作Ⅱ】人物制作Ⅰからの展開 構想、取材、デッサン、小下図等下準備「実習」 第17回:【人物制作Ⅱ】大下図、地塗り「実習」 第18回:【人物制作Ⅱ】描き込み、構成や形態の見直し「実習」 第19回:【人物制作Ⅱ】描き込み、仕上げ「実習」「発表」 第20回:【人物制作Ⅱ】仕上げ、講評「実習」「発表」 第21回:【人体デッサン】観察による素描Ⅰ「実習」 第22回:【人体デッサン】観察による素描Ⅱ「実習」 第23回:【人体デッサン】観察による素描Ⅲ、提出「実習」 第24回:【自由制作Ⅰ】(クラス内コンクール)50号 取材、準備等「実習」 第25回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)序盤「実習」 第26回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)中盤「実習」 第27回:【自由制作Ⅰ】(自由表現)終盤、仕上げ、順位公表、講評「実習」 第28回:【自由制作Ⅱ】取材、表現の素材選択、準備等「実習」 第29回:【自由制作Ⅱ】下塗り、描き込み「実習」 第30回:【自由制作Ⅱ】仕上げ 2・3年生合同講評会「実習」「発表」 (授業の方法) 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれの個性や問題点について話し合う機会を設け研究します。また平日の実習時間には教員が見回りをを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。									
テキスト・参考書	使用しません。								
授業時間外の学修	ありません。								
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による理解度・到達度(70%)を総合的に評価する。 (成績評価の基準) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識をさらに理解し制作できている。 ・到達目標2;日本画の素材を生かした技法を用いて幅広い視野に立ち、表現技術の向上につながっている。 ・到達目標3;作品について主体的に表現を考え、制作することができる。								
備考	積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集等の参考資料を必要に応じて提示します。								
担当教員の実務経験の有無	○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		日本画実習3		開講年次		4年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	10単位
科目コード		A-SJ-401P		担当教員名		中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子			担当形態		
【科目の位置付け】											
教員の免許状取得のための必修科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）											
この授業の基礎となる科目		日本画実習2		次に履修が望まれる科目				卒業制作			
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 日本画実習Ⅰ・Ⅱでの研究成果を基に、個性あるテーマや表現を、卒業制作や将来を視野に入れて表現できるようにすることが目的です。造形力や構成力、完成度を高め、自分の考えをまとめて発表できるようにします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識を深く理解することができる。 ・到達目標2;日本画の素材を深く理解し技法に応用し、幅広い視野で物事を捉え、さらに向上した表現技術につながるよう ることができる。 ・到達目標3;自らの適性を理解し将来像が描けるように作品について主体的に表現を考え、制作することができる。											
【授業の概要】											
授業計画1回分を同一週内で実施し、前期は人物デッサン、古典模写、人物制作50号、自由制作50～100号で制作します。後期は自画像制作15号と卒業制作のための補助的な研究を行います。											
【授業計画と授業の方法】 講義内容											
(授業計画) 第1回:【人体デッサン】クロッキー「実習」 第2回:【人物制作】取材、クロッキー、エスキース「実習」 第3回:【人物制作】スケッチ、小下図、大下図「実習」 第4回:【人物制作】画材と描画法の研究「実習」 第5回:【人物制作】技法の研究「実習」 第6回:【人物制作】表現の研究 講評「実習」「発表」 第7回:【自由制作】取材、クロッキー、エスキース「実習」 第8回:【自由制作】小下図、大下図「実習」 第9回:【自由制作】制作工程の研究「実習」 第10回:【自由制作】地塗り、下塗り「実習」 第11回:【自由制作】画材と描画法の研究「実習」 第12回:【自由制作】中間講評、課題の洗い出し「実習」「発表」 第13回:【自由制作】技法の研究「実習」 第14回:【自由制作】表現の追求「実習」 第15回:【自由制作】仕上げ 講評「実習」「発表」 第16回:【自画像制作】クロッキー、エスキース「実習」 第17回:【自画像制作】自画像デッサン「実習」 第18回:【自画像制作】小下図、大下図「実習」 第19回:【自画像制作】技法研究「実習」 第20回:【自画像制作】表現研究「実習」 第21回:【自画像制作】地塗り、下塗り「実習」 第22回:【自画像制作】大まかな描込み「実習」 第23回:【自画像制作】細部の描込み「実習」 第24回:【自画像制作】問題点解決「実習」 第25回:【自画像制作】仕上げ【卒業制作の補助研究】客観的意見の聴取、課題の洗い出し「実習」 第26回:【自画像制作】額装【卒業制作の補助研究】課題の克服「実習」 第27回:【自画像制作】一次提出、講評会【卒業制作の補助研究】一次提出、講評会、課題の整理「実習」「講義」 第28回:【卒業制作の補助研究】撮影「実習」 第29回:【卒業制作の補助研究】展示計画「実習」 第30回:【卒業制作の補助研究】後期講評、最終提出「実習」「講義」 (授業の方法) 前後期を通して、課題の概要を説明した後、その課題の到達すべき点について説明します。前期は作品の構想、下描き、制作と段階を踏み、最後に講評会を行います。その際、それぞれの個性や問題点について各自が具体的に理解できているか話し合う機会を設け研究します。後期は卒業制作の補助研究において作品の構想段階、下描き段階、制作、完成にむけて自分の考えをまとめて発表できるようにしていきます。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習への取り組み姿勢(30%)と、提出作品による造形力・表現技術の達成度(70%)を総合的に評価する。 ・到達目標1;日本画における考え方や歴史、知識を深く理解し制作できている。 ・到達目標2;日本画の素材を深く理解し技法に応用して制作し、幅広い視野で物事を捉え、さらに向上した表現技術につながっている。 ・到達目標3;卒業制作の補助研究を通して自らの適性を理解し、将来像が描けるように作品について主体的に表現を考え制作し、自分の考えをまとめて発表することができる。									
備考		積極的に取材や作品鑑賞をすること。 画集等の参考資料を必要に応じて提示します。									
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		油画実習1		開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SO-211P		担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未				担当形態	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目			油画実習2			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 制作を通じ、絵画表現に関する基礎的な技術や素材の特性を学び、自身の興味・関心に対する理解を深めることで主体的に制作を行なっていくための礎とします。各課題の講評、ディスカッション時には、制作動機やプロセスについて各自が発表を行い、主体的に表現していく姿勢を育む機会を作ります。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;絵画表現の基礎的な技術を学び、制作体験を通じて素材の特性を知ることができる。 ・到達目標2;自身の表現にとって必要な専門分野の技術を活かし、表現することができる。 ・到達目標3;制作動機や方法について主体的に考え、表現することができる。										
【授業の概要】										
近隣のフィールドを活かした課題や各教員が担当する課題など、油彩を中心に様々なメディアでの表現を通じて、基礎的な技術・知識を習得すると同時に、自身の感覚や資質に対する理解を深めていきます。また、並行して自主制作での実験を繰り返しながら自らの制作の方向性を模索していきます。適宜、面談やディスカッションの機会を作ります。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:【自主制作】油画実習についてのガイダンス、制作フローについて「講義」「実習」 第2回:【キャリア形成】リサーチ手法を学ぶ(稲川)「講義」「実習」 第3回:【キャリア形成】リサーチ成果をまとめる(稲川)「実習」「発表」 第4回:【自主制作】取材・資料収集、描画素材・支持体準備「実習」 第5回:【自主制作】取材・資料収集、描画素材・支持体準備「実習」 第6回:【課題制作】リサーチからの展開、レクチャー、実測図制作(小野)「講義」「実習」 第7回:【課題制作】リサーチからの展開、レクチャー、実測図制作(小野)「講義」「実習」 第8回:【自主制作】ドローイング「実習」 第9回:【下地実習】下地実習(橋野)「実習」 第10回:【下地実習】下地実習(橋野)「実習」 第11回:【課題制作】油彩:観葉植物、ドローイング、構想(橋野)「講義」「実習」 第12回:【課題制作】油彩:観葉植物、構図、色彩、表現手法を探る(橋野)「実習」 第13回:【課題制作】油彩:観葉植物、油彩制作(橋野)「実習」 第14回:【課題制作】油彩:観葉植物、講評(橋野)「発表」 第15回:【自主制作】前期の振り返り「実習」 第16回:【課題制作】場所のリサーチ、フィールドワーク(小野)「講義」「実習」、【ゼミ】アーティスト講演会／レクチャー(西村)「講義」 第17回:【課題制作】場所で作る、制作「実習」(小野)「発表」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第18回:【フィールドワーク】美術館見学等「実習」 第19回:【自主制作】リサーチ、ドローイング「実習」「発表」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第20回:【自主制作】プロトタイプ制作、制作における実験「実習」 第21回:【自主制作】作品制作、面談、テーマの見直し「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第22回:【自主制作】プレゼンテーション、ディスカッション「発表」 第23回:【自主制作】作品制作、作品の比較検討「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第24回:【自主制作】作品制作、制作の展開「実習」 第25回:【自主制作】ドローイング、面談「実習」「発表」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第26回:【自主制作】作品制作、制作の振り返り「実習」 第27回:【自主制作】作品制作、完成「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー(西村)「講義」 第28回:【自主制作】学内展示、展示準備「実習」 第29回:【自主制作】学内展示、作品展示作業「実習」 第30回:【自主制作】学内展示、講評「発表」										
(授業の方法) 初回授業時にコース全体のガイダンスを行い通年での授業の流れを説明した後、各課題開始時にそれぞれの担当教員が課題説明、課題終了時に講評会、面談等を行い、学修ポートフォリオなどをを用いてそれぞれの取り組みを振り返ります。年度途中には、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けます。学年最後に、通年の「自主制作」で制作した作品を展示し、自身の作品を多角的に検討する機会として講評会を行います。										
※ 実習期間中には、ゲストスピーカー(外部講師)によるレクチャー、ワークショップなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。										
テキスト・参考書		課題ごとに参照資料を提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作への積極的な取り組みと基礎的な技術の修得度(40%)、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容(60%) (成績評価の基準) ・到達目標1;絵画表現の基礎的な技術を学び、制作体験を通じて素材の特性を知ることができる。 ・到達目標2;自身の表現にとって必要な専門分野の技術を活かし、表現することができる。 ・到達目標3;主体的に制作動機や方法について考え、表現することができる。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		油画実習2		開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	14単位
科目コード		A-SO-311P		担当教員名		小野 環、稲川 豊、橘野 仁史、西村 有未			担当形態	
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		油画実習1		次に履修が望まれる科目			油画実習3 卒業制作			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 自らの特性に合ったテーマを表現するため、自ら課題を立てて、実験を繰り返しつつ自主制作を行っていきます。年度末に、制作した作品を大学美術館で進級制作展として展示します。また、講評会や面談、ディスカッションでは他学生や教員と対話を行い、自らの制作について多角的に検討する機会とします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1；油画実習1の課題を通して修得した基礎的な知識や技術を展開することができる。 ・到達目標2；主体的に自分のテーマを見つけ、表現することができる。 ・到達目標3；プレゼンテーションや進級制作展などの機会に、自分の考えをまとめて発表できる。										
【授業の概要】										
各教員が担当する課題やゼミ、自主制作（進級制作）等を通じ、自己の表現を多角的に模索していきます。 大学美術館での作品展示は、作品の組み合わせや作品配置、空間との関係性など展示方法について考え、実践する機会となります。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
授業計画 第1回：【課題制作】キャリア形成／レクチャー（稲川）「講義」「実習」 第2回：【課題制作】キャリア形成／マッピング（稲川）「講義」「実習」 第3回：【課題制作】キャリア形成／ワークショップ（稲川）「講義」「実習」 第4回：【課題制作】キャリア形成／動画視聴（稲川）「講義」「実習」 第5回：【課題制作】キャリア形成／まとめ（稲川）「報告」 第6回：【自主制作】計画「面談」、【ゼミ】アクリル絵具講習会／レクチャー（橘野）「講義」 第7回：【自主制作】テーマの確定「実習」、【ゼミ】油絵具講習会／レクチャー（橘野）「講義」 第8回：【自主制作】リサーチ「実習」、【ゼミ】支持体制作演習／レクチャー（橘野）「講義」 第9回：【自主制作】資料等の収集「実習」、【ゼミ】支持体制作演習／麻布張り（橘野）「実習」 第10回：【自主制作】描画素材、支持体の準備「実習」、【ゼミ】支持体制作演習／膠引き（橘野）「実習」 第11回：【自主制作】様々な描画素材を試す「実習」、【ゼミ】支持体制作演習／白亜地塗り（橘野）「実習」 第12回：【自主制作】手法を学ぶ「実習」、【ゼミ】支持体制作演習／下地塗り（橘野）「実習」 第13回：【進級制作】説明会、担当決め「講義」 第14回：【自主制作】制作記録の作成「報告」 第15回：【自主制作】プレゼンディスカッション「発表」 第16回：【進級制作】グループワーク「実習」、【ゼミ】アーティスト講演会／レクチャー（西村）「講義」 第17回：【自主制作】追加の取材、資料収集「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第18回：【自主制作】進捗確認「面談」 第19回：【自主制作】作品制作 支持体の準備「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第20回：【自主制作】作品制作 開始「実習」、【ゼミ】ダンスドローイング／静と動（西村）「実習」 第21回：【自主制作】作品制作 展開「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第22回：【自主制作】作品制作 制作の見直し「実習」、【ゼミ】ダンスドローイング／身体 のワークショップ（西村）「実習」 第23回：【自主制作】作品制作 作品の修正「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第24回：【自主制作】作品制作 方向性の整理「実習」、【絵画総合演習】アーティスト講演会／レクチャー（全教員）「講義」 第25回：【自主制作】作品制作 作品の調整「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第26回：【自主制作】進捗確認「面談」 第27回：【自主制作】作品制作 仕上げ「実習」、【ゼミ】現代美術史／レクチャー（西村）「講義」 第28回：【進級制作展】搬入、展示レクチャー「実習」 第29回：【進級制作展】大学美術館展示「実習」 第30回：【進級制作展】講評、搬出「発表」 ※1 自主制作の回は、他学年の課題やゼミに参加することができます。 ※2 ゲストスピーカー（外部講師）によるレクチャー、ワークショップの講師、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。										
(授業の方法) 初回授業時に通年での授業の流れを説明した後、各課題開始時にそれぞれの担当教員がガイダンスを、課題終了時に講評会、面談等を行い、それぞれの取り組みを振り返ります。年度途中には、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けます。学年最後に、展覧会作りと作品展示を経験する機会として大学美術館で進級制作展を開催し、自身の作品を多角的に検討する機会として講評会を行います。 ※ 実習期間中には、ゲストスピーカー（外部講師）によるレクチャー、ワークショップ、ゼミなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。										
テキスト・参考書		課題ごとに参照資料を提示します。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み（40％）、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容（60％） (受講生の到達目標) ・到達目標1；油画実習1の課題を通して修得した基礎的な知識や技術を展開することができる。 ・到達目標2；主体的に自分のテーマを見つけ、表現することができる。 ・到達目標3；プレゼンテーションや進級制作展などの機会に、自分の考えをまとめて発表することができる。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名		油画実習3		開講年次		4年	開講年度学期		2026年度前期、2026年度後期		単位数	10単位
科目コード		A-SO-411P		担当教員名		小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未					担当形態	
【科目の位置付け】												
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・絵画（映像メディア表現を含む）												
この授業の基礎となる科目		油画実習1・2		次に履修が望まれる科目								
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) 油画実習2までの経験を生かしつつ、自らの表現上の課題を分析し、制作を主体的に発展させることが目的としています。面談やディスカッションを通じて、制作動機や方法についても思索を深め、考えをまとめていきます。												
(受講生の到達目標) ・到達目標1;制作を通じ、自らの適性を理解し、将来像を描くことができる。 ・到達目標2;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標3;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。												
【授業の概要】												
卒業制作を充実させるために、各自が様々な制作上の実験を行いながら制作を進めていきます。スタジオ内での試作、資料収集、複数作品の同時進行などを通じて制作プロセスを深化させます。												
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容										
(授業計画) 第1回:【作品制作】ガイダンス「講義」 第2回:【作品制作】自らの興味に沿ったテーマの模索「実習」 第3回:【作品制作】研究計画書作成「実習」 第4回:【作品制作】研究内容の検討「実習」 第5回:【作品制作】研究計画書の修正「実習」、「面談」〈1-1〉 第6回:【作品制作】研究計画書の確定「実習」 第7回:【作品制作】テーマに関連した取材「実習」 第8回:【作品制作】テーマに関連した資料収集「実習」、「面談」〈1-2〉 第9回:【作品制作】テーマについて多角的に探る「実習」 第10回:【作品制作】多様な素材、手法を試す「実習」 第11回:【作品制作】描画素材、支持体の準備「実習」 第12回:【作品制作】制作:ドローイング「実習」、「面談」〈2-1〉 第13回:【作品制作】制作:イメージの生成「実習」 第14回:【作品制作】制作:イメージの展開「実習」 第15回:【作品制作】制作:作品制作「実習」、「面談」〈2-2〉 第16回:【作品制作】作品制作に関わる記録、まとめ「実習」、「面談」〈3-1〉 第17回:【作品制作】プレゼンテーション、ディスカッション「発表」 第18回:【作品制作】制作の進捗状況および作品内容の検証「実習」 第19回:【作品制作】検証結果に基づいた研究計画の変更「実習」 第20回:【作品制作】検証結果に基づいた取材、資料収集「実習」、「面談」〈3-2〉 第21回:【作品制作】描画素材、支持体の追加・変更「実習」 第22回:【作品制作】制作:作品内容の変更「実習」 第23回:【作品制作】制作:ドローイング「実習」 第24回:【作品制作】制作:イメージの生成「実習」、「面談」〈4-1〉 第25回:【作品制作】制作:イメージの展開「実習」 第26回:【作品制作】制作:作品制作「実習」 第27回:【作品制作】プレゼンテーション:作品のテーマ、内容について「発表」 第28回:【作品制作】作品のテーマ、内容についての確認と検証「実習」、「面談」〈4-2〉 第29回:【作品制作】作品制作に関わる記録・まとめ「実習」 第30回:【作品制作】実習全体の振り返り「発表」												
(授業の方法) 初回授業時に授業概要を説明した後、各学生が研究計画書を作成し、それをもとに教員と面談を行います。 テーマを試作を通じて模索し、通年で制作を継続します。年度途中に、学年を超えた作品プレゼンテーション、ディスカッションの機会を設けるほか、担当教員4名とのクォーター制面談を年8回実施し、自身の制作を振り返る機会とします。 ※実習期間中には、ゲストスピーカー（外部講師）によるレクチャー、ワークショップ、自主ゼミなどを予定しています。講師名、日時、内容などの詳細はteamsやメールでお知らせします。												
テキスト・参考書		様々な参考資料を必要に応じて提示します。										
授業時間外の学修		ありません。										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み（60％）、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容（40％） (受講生の到達目標) ・到達目標1;制作を通じ、自らの適性を理解し、将来像を描くことができている。 ・到達目標2;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標3;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。										
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容									

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン実習1		開講年次		2年	開講年度学期		2026年度前期、2026年度後期		単位数	12単位
科目コード		A-SD-221P		担当教員名		林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝田 祥二、井村 和寛				担当形態		
【科目の位置付け】												
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)												
この授業の基礎となる科目		デッサン基礎実習 構成実習 彫刻 総合基礎実習		次に履修が望まれる科目				デザイン実習2				
【授業の目的と到達目標】												
(授業の目的) それぞれの専門分野に対する理解を深めながら、作品を制作するための基礎的な知識や技術、素材の特性を知り制作に結びつけることを目的としています。また各課題の講評時には、自身の作品についてのコンセプトやアイデアを人に伝える練習を行います。												
(受講生の到達目標) ・到達目標1:各専門分野における素材の特性や基礎的な知識を理解し、制作に活用することができる。 ・到達目標2:各専門分野の基礎的な技術を修得し、主体的に制作に活用することができる。 ・到達目標3:作品についての制作コンセプトをまとめて発表することができる。												
【授業の概要】												
前期は選択課題を通して、自身の興味関心がどの領域にあるかを見極める期間とします。 後期からグラフィックデザイン、アドバタイジング、イラストレーション、アニメーション、映像デザイン、造形デザイン、クラフトデザインの領域から一つを選択し課題制作を進めます。それぞれの基礎課題を通して、新たな表現や技術を修得します。またリサーチを通して、デザインと実社会との基本的な関係性を学んでいきます。												
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容										
(授業計画) 第1回:【選択課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「実習」 第2回:【選択課題制作1】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第3回:【選択課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第4回:【選択課題制作2】課題説明、構想と試作「実習」 第5回:【選択課題制作2】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第6回:【選択課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第7回:【選択課題制作3】課題説明、構想と試作「実習」 第8回:【選択課題制作3】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第9回:【選択課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第10回:【選択課題制作4】課題説明、構想と試作「実習」 第11回:【選択課題制作4】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第12回:【選択課題制作4】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第13回:【選択課題制作5】課題説明、構想と試作「実習」 第14回:【選択課題制作5】ラフデザイン、リサーチ「実習」 第15回:【選択課題制作5】プロトタイプ制作から完成へ、プレゼンテーション、前期全体講評「発表」 第16回:【基礎課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「実習」 第17回:【基礎課題制作1】ラフデザイン「実習」 第18回:【基礎課題制作1】プロタイプ制作から完成へ「実習」 第19回:【基礎課題制作2】課題説明、構想と試作「実習」 第20回:【基礎課題制作2】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第21回:【基礎課題制作2】プロトタイプ制作「ディスカッション」 第22回:【基礎課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第23回:【基礎課題制作3】課題説明、構想と試作「実習」 第24回:【基礎課題制作3】ラフデザイン、リサーチ「ディスカッション」 第25回:【基礎課題制作3】プロトタイプ制作、フィードバック「ディスカッション」 第26回:【基礎課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第27回:【基礎課題制作4】課題説明、構想と試作「実習」 第28回:【基礎課題制作4】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第29回:【基礎課題制作4】プロタイプ制作から完成へ「実習」 第30回:【基礎課題制作4】プレゼンテーション、後期全体講評「発表」												
(授業の方法) 前期は各領域の課題から興味のある課題を選択します。 後期は前期での取り組みを踏まえて、自分の適性や興味をもとに所属領域を選択し、基礎課題を通してより専門的な知識や技術を学んでいきます。												
テキスト・参考書		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。										
授業時間外の学修		(事前学修)選択した領域の動向を調査すること。 (事後学修)学修ポートフォリオにまとめること。										
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習課題への積極的な取り組みと基礎的な技術の修得度(40%)、提出作品の完成度(60%) (成績評価の基準) ・到達目標1:提出作品において、素材の特性や各領域の基礎的な知識を修得できているか。 ・到達目標2:提出作品において、各領域の基礎的な技術を用いた制作ができているか。 ・到達目標3:提出作品についてのプレゼンテーションにおいて、自身の言葉でわかりやすく説明ができているか。										
備考												
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名		デザイン実習2		開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	14単位
科目コード		A-SD-321P		担当教員名		林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝目 祥二、井村 和寛		担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術） 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン（映像メディア表現を含む）										
この授業の基礎となる科目		デザイン実習1		次に履修が望まれる科目			デザイン実習3			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 各領域の応用課題への取り組みを通して、高度な知識や技術を修得することが目的です。 併せて、地域社会のリサーチを通してデザイン制作を行い、企画力・表現力・プレゼンテーション能力を修得していきます。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1: デザイン実習1の基礎課題を通して修得した知識や技術を応用課題に活かすことができる。 ・到達目標2: 各自のテーマに沿ってリサーチを行い、それをもとに制作することができる。 ・到達目標3: 自身の作品を客観的な視点で捉え、コンセプトを他者に伝わるようにプレゼンテーションをすることができる。										
【授業の概要】										
デザイン実習1を基盤として、前期は領域ごとに出题される応用課題の制作を行い、より専門的かつ高度な知識や技術を修得していきます。 後期は地域プレゼンテーション課題において、地域のリサーチをしながら課題制作し、学外での展示・発表を行い、デザインと実社会との実践的な関係性を学んでいきます。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 第1回:【応用課題制作1】オリエンテーション、課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第2回:【応用課題制作1】ラフデザイン「実習」 第3回:【応用課題制作1】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第4回:【応用課題制作2】課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第5回:【応用課題制作2】ラフデザイン、リサーチ、素材の検証「実習」 第6回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作、ディスカッション「実習」 第7回:【応用課題制作2】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第8回:【応用課題制作3】課題説明、構想と試作「講義」「実習」 第9回:【応用課題制作3】ラフデザイン、リサーチ、ディスカッション「実習」 第10回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作、ディスカッション、フィードバック「実習」 第11回:【応用課題制作3】プロトタイプ制作から完成へ「実習」 第12回:【応用課題制作3】マーケティングリサーチ「フィールドワーク」 第13回:【応用課題制作3】リサーチを元にしたブラッシュアップ「実習」 第14回:【応用課題制作3】プレゼンテーション資料の作成「実習」 第15回:【応用課題制作3】プレゼンテーション、前期全体講評「発表」 第16回:【地域プレゼンテーション課題】オリエンテーション、リサーチ「講義」「フィールドワーク」 第17回:【地域プレゼンテーション課題】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第18回:【地域プレゼンテーション課題】テーマの発見「実習」 第19回:【地域プレゼンテーション課題】計画の立案、素材の検討「実習」 第20回:【地域プレゼンテーション課題】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第21回:【地域プレゼンテーション課題】ラフデザイン(1)をもとにしたリサーチ「実習」 第22回:【地域プレゼンテーション課題】リサーチを反映したラフデザイン(2)の制作「実習」 第23回:【地域プレゼンテーション課題】ラフデザインからプロトタイプへ「実習」 第24回:【地域プレゼンテーション課題】プロトタイプの検証「実習」 第25回:【地域プレゼンテーション課題】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第26回:【地域プレゼンテーション課題】仕上げ、ディスカッション「実習」「グループディスカッション」 第27回:【地域プレゼンテーション課題】仕上げ、ディスカッションのフィードバック「実習」 第28回:【地域プレゼンテーション課題】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第29回:【地域プレゼンテーション課題】プレゼンテーション資料作成「実習」 第30回:【地域プレゼンテーション課題】学内プレゼンテーション、講評「発表」										
(授業の方法) 前期は2年後期に選択した領域の応用課題を行います。 後期は地域プレゼンテーション課題において、各自が選んだテーマに沿ってリサーチを行い、デザインの力で地域の問題を解決する制作を行います。また最終的には学外での展示・発表を行います。										
テキスト・参考書		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。								
授業時間外の学修		(事前学修)選択した領域の動向を調査すること。 (事後学修)学修ポートフォリオにまとめること。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 各課題における制作プロセスを含む実習への積極的な取り組みと、デザインの専門知識や技術の修得度(30%)、提出作品の完成度(70%) (成績評価の基準) ・到達目標1:これまでに獲得した基礎的な知識や技術を活かして、応用課題に取り組むことができているか。 ・到達目標2:自身のテーマに沿ってリサーチを行い、それをもとに制作することができるか。 ・到達目標3:自身の作品を客観的な視点で捉え、コンセプトを他者に伝わるようにプレゼンテーションをすることができるか。								
備考		後期は主体性をこれまでよりも強く求められる課題となるため、制作スケジュールには留意して取り組むこと。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画										
授業科目名	デザイン実習3			開講年次	4年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	10単位
科目コード	A-SD-421P	担当教員名	林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝目 祥二、井村 和寛					担当形態		
【科目の位置付け】										
教員の免許状取得のための選択科目 科目区分・・・教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術) 施行規則に定める科目区分又は事項等・・・デザイン(映像メディア表現を含む)										
この授業の基礎となる科目		デザイン実習2				次に履修が望まれる科目		卒業制作		
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン実習2で修得した高度な専門知識や技術を展開する自身の研究テーマを設定し、発展させることが目的です。 さらに、制作プロセスを自身で計画することで主体的に制作に取り組み、卒業制作に向けて、より専門的なデザイン展開を行えるようにします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:これまで修得した高度な専門知識や技術から自身の研究テーマを設定し、発展することができる。 ・到達目標2:研究テーマについてのリサーチや情報の整理と、制作プロセスの計画ができる。 ・到達目標3:主体的に制作に取り組み、専門的なデザイン展開をすることができる。										
【授業の概要】										
デザイン実習2で修得した高度な専門知識や技術を展開する自身の研究テーマを設定し、発展させていきます。 さらに、制作プロセスを自身で計画することで主体的に制作に取り組み、卒業制作に向けて、より専門的なデザイン展開を行なっています。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:【専門領域課題】オリエンテーション、事前リサーチ「講義」「実習」 第2回:【専門領域課題】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第3回:【専門領域課題】リサーチ「フィールドワーク」「実習」 第4回:【専門領域課題】計画の立案、素材の検討「グループディスカッション」「実習」 第5回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第6回:【専門領域課題】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ「実習」 第7回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)の制作「実習」 第8回:【専門領域課題】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ「実習」 第9回:【専門領域課題】プロトタイプ(1)の制作「実習」 第10回:【専門領域課題】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ「実習」 第11回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作「実習」 第12回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第13回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の制作、検証結果の反映「実習」 第14回:【専門領域課題】プロトタイプ(2)の仕上げ、プレゼンテーション資料作成「実習」 第15回:【専門領域課題】プレゼンテーション、講評「発表」 第16回:【自主制作】オリエンテーション、課題の整理、テーマの模索「講義」「実習」 第17回:【自主制作】テーマの決定、素材の検討、リサーチ「実習」 第18回:【自主制作】ラフデザインの制作「実習」 第19回:【自主制作】ラフデザインの制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第20回:【自主制作】プロトタイプの制作、検証結果の反映「実習」 第21回:【自主制作】プロトタイプの制作、ブラッシュアップ「実習」 第22回:【自主制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第23回:【自主制作】仕上げ、検証「実習」「グループディスカッション」 第24回:【自主制作】仕上げ、検証結果の反映「実習」 第25回:【自主制作】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第26回:【自主制作】プレゼンテーション資料作成「実習」 第27回:【自主制作】プレゼンテーション、講評「発表」 第28回:【卒業制作の補助研究】撮影「実習」 第29回:【卒業制作の補助研究】展示計画「実習」 第30回:【卒業制作の補助研究】学内展示「発表」										
(授業の方法) 自ら設定したテーマをもとに担当教員との定期的なディスカッションを行ないながら制作を進めていきます。制作プロセスにおいてはラフ制作からプロトタイプの制作とブラッシュアップまで、自らスケジュールの管理を行い制作を進めていきます。また領域内でのグループディスカッションを行います。										
テキスト・参考書	授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。									
授業時間外の学修	(事前学修)選択した領域の動向を調査すること。 (事後学修)学修ポートフォリオにまとめること。									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 自身が設定した研究テーマへの積極的な取り組みと、デザインの専門知識や技術の修得度(20%)、提出作品の完成度(80%) (成績評価の基準) ・到達目標1:これまで修得した高度な専門知識や技術から自身の研究テーマを設定し、発展することができるか。 ・到達目標2:研究テーマについてのリサーチや情報の整理と、制作プロセスの計画ができていくか。 ・到達目標3:主体的に制作に取り組み、専門的なデザイン展開をすることができるか。									
備考	デザイン実習3の制作と並行して卒業制作の計画を立てること。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	古美術研究(演習)			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード			担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		美学 西洋美術史1・2 テンペラ画技法演習 壁画技法演習		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古今東西の多様な美術作品やその背後にある環境に直に触れることで、美術に対する知見を広げ、関心を持った作品、作家などの研究を進めて制作に活かすことを目的としています。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;異なる文化圏の多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができる。 ・到達目標2;事前学習で得られた海外の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3;幅広い鑑賞体験で得た内容を自身の制作につなげて考え、役立てることができる。										
【授業の概要】										
ヨーロッパの各都市を巡り、美術館、博物館など美術作品を中心に実地視察、研究を行う。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 第1回:【事前ガイダンス】事前ガイダンス「講義」 第2回:【実地視察】(ローマ)国立近代美術館「演習」 第3回:【実地視察】(ローマ)ヴァチカン美術館、システィーナ礼拝堂、サン・ピエトロ寺院「演習」 第4回:【実地視察】(フィレンツェ)リッカルディ宮、メディチ家礼拝堂、サンタクロチェ教会「演習」 第5回:【実地視察】(フィレンツェ)ウフィツィ美術館、ストロツィ宮「演習」 第6回:【実地視察】(フィレンツェ)アカデミア美術館、サン・マルコ教会「演習」 第7回:【実地視察】(フィレンツェ)マリノ・マリニ美術館、ラ・スコーベラ博物館「演習」 第8回:【実地視察】(パリ)ルーブル美術館、オランジュリー美術館「演習」 第9回:【実地視察】(パリ)オルセー美術館、ロダン美術館、マイヨール美術館「演習」 第10回:【実地視察】(パリ)マルモッタン美術館、パリ市立美術館「演習」 第11回:【実地視察】(パリ)ボンビドゥ・センター、ピカソ美術館「演習」 第12回:【実地視察】(パリ)ギメ美術館、グラン・パレ、モロー美術館「演習」 第13回:【実地視察】(パリ)自然史博物館、ケ・ブランリー博物館「演習」 第14回:【実地視察】(パリ)ルイ・ヴィトン美術館、ギャラリー「演習」 第15回:【レポート】レポート作成「報告」										
(授業の方法) 事前学修では西洋美術史の流れに沿って、訪問予定地にある作品や建築、歴史について学びます。その後実際にイタリア、フランスを巡り、多彩な作品に触れることによって古代から近現代までの西洋美術についての理解を深めます。実地視察終了後、各自が演習で視察した作品などについて考察し、レポートとしてまとめ、提出します。 ※実地視察の実施や訪問国については、国際情勢等を踏まえて判断します。 実地視察中止の場合は、代替課題をteams等により配信します。										
テキスト・参考書		事前ガイダンスで参照資料を提示します。								
授業時間外の学修		事前学修(訪問先の美術館や収蔵作品を調べておく)								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 事前ガイダンスと現地視察への取り組み姿勢(70%)、レポート課題の内容(30%)を評価の基準とする。 (成績評価の基準) ・到達目標1;異なる文化圏の多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができる。 ・到達目標2;事前学習で得られた海外の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3;幅広い鑑賞体験で得た内容を自身の制作につなげて考え、役立てることができる。								
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。								
担当教員の実務経験の有無			○		実務経験の具体的内容					

尾道市立大学授業計画

授業科目名	古美術研究(演習)			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード		担当教員名	林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝目 祥二、井村 和寛				担当形態			
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目	デザイン実習1 日本美術史1、2		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古典絵画・彫刻・建築等、実地に視察・研究することで日本美術の歴史に関する知識を修得することが目的です。 多様な芸術表現に触れ、感受性を養い、情報をリサーチして整理することを学び、そこで得た知識を現在のデザイン制作に活かします。										
(受講生の到達目標) ・到達目標1:多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かすことができる。 ・到達目標2:事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3:現地調査やフィールドワークを通して、自らの視点で日本のデザインについての発見をまとめることができる。										
【授業の概要】										
事前学習の講義では仏像や壁画など日本の歴史の中の美について学びます。また実際に奈良、京都、大阪を巡り、現地演習を通して歴史の中で培われたデザインを学ぶことで、自身の作品制作のための見識と知識の幅を広げます。										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第1回:オリエンテーション「講義」 第2回:事前学習1 仏像彫刻「講義」 第3回:事前学習2 絵巻物・障壁画「講義」 第4回:現地演習1 国立民族学博物館「フィールドワーク」 第5回:現地演習2 京都国立博物館「フィールドワーク」 第6回:現地演習3 興福寺、新薬師寺、長谷寺「フィールドワーク」 第7回:現地演習4 室生寺「フィールドワーク」 第8回:現地演習5 東大寺大仏殿「フィールドワーク」 第9回:現地演習6 唐招提寺、薬師寺「フィールドワーク」 第10回:現地演習7 奈良文化財研究所「フィールドワーク」 第11回:現地演習8 角屋もてなしの文化美術館「フィールドワーク」 第12回:課題制作1 現地調査「フィールドワーク」「演習」 第13回:課題制作2 資料整理「演習」 第14回:課題制作3 本制作「演習」 第15回:課題制作4 仕上げ、提出「演習」										
(授業の方法) 事前学習では日本の仏像や壁画における美術様式の時代による変遷や特徴を、様々な資料やスライドをもとに多角的に学びます。その後実際に奈良、京都、大阪を巡り、歴史の中にあるデザインと美の関係についての理解を深めます。現地調査やフィールドワークを行い、日本独自の美術様式についてデザインの視点から得た新たな気づきを、所属領域ごとの課題として提出してもらいます。 ※事前学習や現地演習の内容は変更する場合があります。										
テキスト・参考書	古美術研究演習の手引きを作成し、持参します。									
授業時間外の学修	事前に拝観先、現地調査の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。 (事前学修)講義前に講義内容についてリサーチ (事後学修)所属領域ごとの課題制作									
成績評価の方法と基準	(成績評価の方法) 日本の美術についての理解度と事前学修レポートの成績(20%)、現地演習でのフィールドワーク(50%)、所属領域の課題提出(30%) (成績評価の基準) ・到達目標1:古代からの多様な日本の美術表現に触れ、自らの制作に活かすことができているか。 ・到達目標2:事前学習において日本独自の美術表現についての理解をレポートにまとめることができているか。 ・到達目標3:現地フィールドワークへ参加し、日本の美術とデザインについての新たな視点を獲得し、所属領域ごとの課題ができているか。									
備考	古美術研究のしおりや事前学習で配布されるプリントなどを使用します。									
担当教員の実務経験の有無	○	実務経験の具体的内容								

尾道市立大学授業計画

授業科目名	古美術研究(演習)			開講年次	3年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	4単位
科目コード		担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子					担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		日本画実習1 日本画実習2 日本美術史1、2		次に履修が望まれる科目			日本画実習3			
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 古典絵画・彫刻・建築等、実地に視察・研究することで日本美術の歴史に関する知識を修得することが目的です。多様な芸術表現に触れ、感受性を養い、情報をリサーチして整理することを学び、そこで得た知識を現在の創作に活かします。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かすことができる。 ・到達目標2;事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができる。 ・到達目標3;現地調査やフィールドワークを通して、日本美術の歴史から美や芸術の本質を学び、自己の表現の可能性を探ることができる。										
【授業の概要】										
事前学習として、日本の古典絵画や仏像などの彫刻作品について学びます。その後実際に奈良から京都へと研究旅行を行い、旅行中に2度の現地講義を受講して、古美術への見識と知識を深めていきます。										
【授業計画と授業の方法】 講 義 内 容										
(授業計画) 講義、実習(現地でのスケッチ等) 《期間》 11月上旬～中旬 8泊9日 《行き先》 奈良 興福寺、飛鳥周辺(高松塚古墳、キトラ古墳、石舞台、飛鳥寺、橘寺、岡寺)、秋篠寺、薬師寺、当麻寺、室生寺、聖林寺、安倍文殊院、法隆寺、中宮寺、法輪寺、法起寺、東大寺(大仏殿、戒壇院、俊乗堂、法華堂、東大寺ミュージアム)、正倉院、新薬師寺、唐招提寺、薬師寺、安産寺、信貴山朝護孫子寺、奈良国立博物館など 「演習」 京都 南禅寺(金地院、大方丈)、養源院、三十三間堂、智積院、大徳寺(孤蓬庵、真珠庵、大方丈)、相国寺(承天閣美術館)、妙心寺(隣華院)、 広隆寺、教王護国寺、平等院、(株)ナカガワ胡粉絵具、醍醐寺、法界寺、京都国立博物館など 「演習」 ※拝観先の都合により変更になる場合あり。 《事前講義》 7月中 2コマ「講義」 非常勤講師 村上 かれん、荒木 泰恵 (授業の方法) 事前学習では日本の仏像や壁画における美術様式の時代による変遷や特徴を、様々な資料やスライドをもとに多角的に学びます。その後実際に奈良、京都を巡り、歴史的な日本の美についての理解を深めます。現地調査やスケッチなどのフィールドワークを通して表現者の観点から見た感想や意見を現地で意見交換します。										
テキスト・参考書		古美術研究演習の手引きを作成し、持参します。								
授業時間外の学修		事前に特別拝観先、現地調査の見学先などの情報収集を行ない、必要に応じて見学先の予約等を行なっておくこと。 (事前学修)講義前に講義内容についてリサーチ								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 古美術研究事前学内講義のレポート(20%)、現地講義と研究旅行への取り組み姿勢(80%)を重視し、評価の基準とする。 (成績評価の基準) ・到達目標1;多様な芸術表現に触れ感受性を養うとともに、幅広い視野で物事を捉え自身の制作に活かしている。 ・到達目標2;事前学習で得られた仏像や壁画など日本の美術や文化についてのリサーチや情報を整理しまとめることができている。 ・到達目標3;現地調査やフィールドワークを通して、日本美術の歴史から美や芸術の本質を学び、自己の表現の可能性を探ることができる。								
備考		事前に拝観先、自由研究日の見学先などの情報収集を行なっておくこと。 科目ナンバリング:A-SJ-302S								
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	卒業制作		開講年次	4年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期	単位数	10単位					
科目コード		担当教員名	小野 環、稲川 豊、橋野 仁史、西村 有未			担当形態							
【科目の位置付け】													
この授業の基礎となる科目									油画実習1・2	次に履修が望まれる科目			
【授業の目的と到達目標】													
(授業の目的) 学部4年間の集大成として作品を制作し、卒業制作展で4年間の成果を社会に向けて発表することが授業の目的です。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標2;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。 ・到達目標3;卒業制作のプロセスを通じて芸術表現と社会との関わりについての理解を深めることができる。													
【授業の概要】													
油画実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して身につけた造形力を生かして、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組みます。 研究計画書(年間の制作フレーム)および卒業制作プラン(後期の制作・展示計画)を適切に運用しながら、制作過程で生じる変化や発見を柔軟に取り込み、作品が自らの言葉として立ち上がるプロセスを重視します。													
【授業計画と授業の方法】													
講 義 内 容													
第1回:【卒業制作】オリエンテーション、制作方針の共有「講義」「実習」 第2回:【卒業制作】テーマ摸索、興味・背景の整理「実習」 第3回:【卒業制作】リサーチ(文献・作品・社会背景)「実習」 第4回:【卒業制作】研究計画書の作成「実習」 第5回:【卒業制作】研究計画書の共有・面談(1-1)「発表」 第6回:【卒業制作】研究計画書の更新「実習」 第7回:【卒業制作】取材(フィールドワーク)「実習」 第8回:【卒業制作】資料収集(画像・文献・素材)「実習」、面談(1-2) 第9回:【卒業制作】ドローイング・試作(イメージ展開)「実習」 第10回:【卒業制作】素材の検討、技法の試行「実習」 第11回:【卒業制作】素材準備・小制作(複数案の生成)「実習」、面談(2-1) 第12回:【卒業制作】制作開始(複数制作ライン)「実習」 第13回:【卒業制作】制作:イメージ側面の検討「実習」 第14回:【卒業制作】制作:素材側面の検討「実習」 第15回:【卒業制作】制作:行為・プロセス側面の検討「実習」、面談(2-2) 第16回:【卒業制作】制作記録の整理、前期振り返り「実習」、面談(3-1) 第17回:【卒業制作】プレゼンテーション、ディスカッション「発表」 第18回:【卒業制作】制作の検証(作品群の見立て)「実習」 第19回:【卒業制作】追加取材・資料収集「実習」、面談(3-2) 第20回:【卒業制作】複数作品の制作(展開・深化)「実習」 第21回:【卒業制作】制作:イメージ再検討「実習」 第22回:【卒業制作】制作:素材再検討「実習」 第23回:【卒業制作】制作:行為・プロセス再検討「実習」「グループディスカッション」 第24回:【卒業制作】面談・意見交換(4-1)展示構成の検討「発表」、面談(4-1) 第25回:【卒業制作】作品の発展・統合「実習」 第26回:【卒業制作】作品の見極め(構成比較)「実習」 第27回:【卒業制作】卒展に向けたプレゼン資料作成「実習」 第28回:【卒業制作】ポートフォリオ作成(撮影・編集)「実習」、面談(4-2) 第29回:【卒業制作】ポートフォリオ作成(総まとめ)「実習」 第30回:【卒業制作】学内展示・卒業制作展準備「発表」													
(授業の方法) 学生自らが制作テーマを定め、卒業制作作品の制作を行います。 油画コース担当教員4名によるクォーター制面談を年間8回実施し、多角的な視点から制作内容や制作フローについて検討を行います。 研究計画書・卒業制作プランは制作の進行状況に応じて適宜見直しながら運用し、スタジオでの試行や変化を作品へと反映していきます。 卒業制作展では作品を社会に向けて発表し、ギャラリートークでは自身の作品についてプレゼンテーションを行います。													
テキスト・参考書		随時、参照資料を提示します。											
授業時間外の学修		ありません。											
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 制作プロセスを含む実習への積極的な取り組み(20%)、自らの制作動機を踏まえた提出作品の内容(80%)。 (成績評価の基準) ・到達目標1;自らの制作について主体的に考え、表現することができる。 ・到達目標2;プレゼンテーションの機会などで作品制作における自分の考えをまとめて発表することができる。 ・到達目標3;卒業制作及び卒業制作展における展示経験などを通じて芸術表現と社会との関わりについての理解を深めることができる。											
備考		各課題のオリエンテーションで課題のねらいや条件などの詳しい説明があります。時間に遅れないように必ず出席してください。											
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容										

尾道市立大学授業計画

授業科目名		卒業制作		開講年次		4年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	10単位
科目コード				担当教員名		林 宏、黒田 教裕、伊藤 麻子、西原 美彩、勝目 祥二、井村 和寛			担当形態		
【科目の位置付け】											
この授業の基礎となる科目		デザイン実習3		次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】											
(授業の目的) 学部4年間の集大成として自身の設定したテーマで作品を制作し、卒業制作展で社会に向けて発表することが授業の目的です。											
(受講生の到達目標) ・到達目標1: 自ら設定したテーマについてリサーチや情報の整理に基づく制作プロセスを経た上で、ブラッシュアップを重ね作品の質を高めることができる。 ・到達目標2: 制作プロセスを自身で計画し、最終講評への提出と卒業制作展で作品を展示することができる。 ・到達目標3: 自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができる。											
【授業の概要】											
デザイン実習1・2・3で学んできたことを踏まえ、各自の研究テーマを掘り下げて卒業制作に取り組みます。また領域ごとのグループディスカッションを通して、自身の作品についての客観的な視点を獲得するようにします。 卒業前までに自身のデザインワークをまとめたポートフォリオを提出してもらいます。											
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容									
(授業計画) 第1回:【卒業制作】オリエンテーション、事前リサーチ「講義」「実習」 第2回:【卒業制作】ブレインストーミング「グループディスカッション」 第3回:【卒業制作】リサーチ「フィールドワーク」 第4回:【卒業制作】ディスカッション、計画の立案、素材の検討「グループディスカッション」「実習」 第5回:【卒業制作】テーマの決定「実習」 第6回:【卒業制作】ラフデザイン(1)の制作「実習」 第7回:【卒業制作】ラフデザイン(1)のブラッシュアップ「実習」 第8回:【卒業制作】ラフデザイン(2)の制作「実習」 第9回:【卒業制作】ラフデザイン(2)からプロトタイプへ「実習」 第10回:【卒業制作】プロトタイプ(1)の制作「実習」 第11回:【卒業制作】プロトタイプ(1)のブラッシュアップ「実習」 第12回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作「実習」 第13回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第14回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の制作、検証結果の反映「実習」 第15回:【卒業制作】プロトタイプ(2)の仕上げ、中間プレゼンテーション資料作成「実習」 第16回:【卒業制作】中間プレゼンテーション、中間チェック「発表」 第17回:【卒業制作】中間チェックを踏まえたディスカッション「グループディスカッション」 第18回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作「実習」 第19回:【卒業制作】ラフデザイン(3)の制作、検証「実習」「グループディスカッション」 第20回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、検証結果の反映「実習」 第21回:【卒業制作】プロトタイプ(3)の制作、ブラッシュアップ「実習」 第22回:【卒業制作】仕上げ工程の立案、素材の再検討「実習」 第23回:【卒業制作】仕上げ、検証「実習」「グループディスカッション」 第24回:【卒業制作】仕上げ、検証結果の反映「実習」 第25回:【卒業制作】仕上げ、ブラッシュアップ「実習」 第26回:【卒業制作】最終プレゼンテーション資料作成「実習」 第27回:【卒業制作】最終プレゼンテーション、講評「発表」 第28回:【卒業制作】講評、採点「発表」 第29回:【卒業制作】講評を踏まえたブラッシュアップ「実習」 第30回:【卒業制作】学内展示「発表」											
(授業の方法) 担当教員との定期的なミーティングやグループディスカッションを通して自ら設定したテーマを掘り下げながら制作していきます。学内展示では自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションします。 学外展示では広報や図録制作など、卒業制作に関わる各担当を決め協働して作品展示を行います。ギャラリートークでは自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションし、社会に向けて作品を発表します。											
テキスト・参考書		使用しません。									
授業時間外の学修		ありません。									
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 作品制作に対する姿勢や制作過程でのリサーチや情報整理(20%)、提出作品の完成度をふまえて総合的に判断します。(80%) (成績評価の基準) ・到達目標1: 自ら設定したテーマについてリサーチや情報の整理に基づく制作プロセスを経た上で、ブラッシュアップを重ね作品の質を高めることができるか。 ・到達目標2: 制作プロセスを自身で計画し、最終講評への提出と卒業制作展で作品を展示することができるか。 ・到達目標3: 自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができているか。									
備考		授業の中で参照すべき資料を適宜紹介します。 本学および他の美術系大学の卒業制作や、さまざまな展覧会を観て研究しておくこと。									
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名		卒業制作		開講年次	4年	開講年度学期	2026年度前期、2026年度後期		単位数	10単位
科目コード			担当教員名	中村 譲、鈴木 恵麻、山梨 千果子				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		日本画実習3		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) 学部在学中に学んだ自らの芸術表現の問題や課題を把握し、自己の集大成を発表し、最終講評会に提出することが目的です。 大画面での制作スケジュールを組み立て、自分の考えをまとめて作品の完成度を追求していきます。 (受講生の到達目標) ・到達目標1;自らの芸術表現の問題を分析し、課題を発見して制作に活かすことができる。 ・到達目標2;制作スケジュールに基づき自己管理を行い、卒業制作展に作品を展示することができる。 ・到達目標3;自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができる。										
【授業の概要】										
学部4年間の集大成として、これまで積み重ねてきた研究成果をテーマを自由に制作し、卒業制作に取り組みます。										
【授業計画と授業の方法】		講 義 内 容								
(授業計画) 卒業制作 変形120号(1550×1939mm)～150号 第1回 【卒業制作】ガイダンス、取材「講義」「実習」 第2回 【卒業制作】取材、テーマの検討「実習」 第3回 【卒業制作】取材、素材収集、支持体や画材の検討「実習」 第4回 【卒業制作】小下図制作「実習」 第5回 【卒業制作】小下図研究会「講義」「実習」「発表」 第6回 【卒業制作】支持体準備、パネル下処理、制作スケジュールの組立「実習」 第7回 【卒業制作】支持体準備、ドーサ引き「実習」 第8回 【卒業制作】大下図制作、素材や構成の再検討「実習」 第9回 【卒業制作】大下図制作、取材の追加「実習」 第10回 【卒業制作】大下図研究会「講義」「実習」「発表」 第11回 【卒業制作】研究会を踏まえた大下図のブラッシュアップ、本紙の貼り込み「実習」 第12回 【卒業制作】本紙ヘトレース、構成等の吟味「実習」 第13回 【卒業制作】骨描き「実習」 第14回 【卒業制作】下塗り「実習」 第15回 【卒業制作】下地の積み重ね「実習」 第16回 【卒業制作】制作、制作スケジュールの振り返り「実習」 第17回 【卒業制作】制作 【自画像制作】支持体準備、取材「実習」 第18回 【卒業制作】制作 【自画像制作】下図制作「実習」 第19回 【卒業制作】額縁の検討、発注、制作「実習」 第20回 【卒業制作】進捗の把握と今後の展開について検討 【自画像制作】トレースから下地制作「実習」 第21回 【卒業制作】検討内容の反映 【自画像制作】制作「実習」 第22回 【卒業制作】仕上げを見据えた内容の充実 【自画像制作】制作「実習」 第23回 【卒業制作】本画研究会「講義」「実習」「発表」 第24回 【卒業制作】作品の発展について検討「実習」 第25回 【卒業制作】仕上げ 【自画像制作】仕上げ「実習」 第26回 【卒業制作】仕上げ、額の取付「実習」 第27回 【卒業制作】一次提出「講義」「実習」「発表」 第28回 【卒業制作】撮影「実習」 第29回 【卒業制作】展示計画「実習」 第30回 【卒業制作】提出「発表」 9月に小下図研究会を行う 10月に大下図研究会を行う 12月に本画研究会を行う (授業の方法) 教員との定期的な研究会を通して作品を完成させていきます。また平日の実習時間には教員が見回りを行い、学生にその場でアドバイスや指導を行います。学外展示では卒業制作に関わる各担当を決め協働して作品展示を行います。また広報や図録制作など、社会に向けて作品を発表し、ギャラリートークでは自身の作品についてのコンセプトをわかりやすくプレゼンテーションします。										
テキスト・参考書		画集等の参考資料を必要に応じて提示する。								
授業時間外の学修		ありません。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 実習の取り組みと、提出作品による理解度・到達度を点数化し評価する。 (成績評価の基準) ・到達目標1;自らの芸術表現の問題を分析し課題を発見し、制作に活かしている。 ・到達目標2;制作スケジュールに基づき自己管理を行い、卒業制作展に作品を提出することができている。 ・到達目標3;自身の作品内容について、発表および質疑応答に答えることができている。								
備考		十分な計画・取材・準備等を行うこと。 画集等の参考資料を必要に応じて提示する。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	文化財保存学概論			開講年次	1年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-RC-101L		担当教員名	山田 祐子				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目		博物館学入門		次に履修が望まれる科目						
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) さまざまな環境におかれた文化財の損傷、劣化やその対策について知り、文化財の保存・修復を行う際の基本的な考え方を述べるができるようになる。										
(受講生の到達目標) 到達目標1:日本の「文化財」の定義について説明することができる。 到達目標2:文化財作品を見る際に、作品の構造や素材といった切り口から捉えることができる。 到達目標3:文化財作品を見る際に、作品の損傷状態や保存環境の問題に気づくことができる。										
【授業の概要】										
文化財保護法制定までの流れとその内容を通して、日本における文化財保護の歴史および文化財の定義や概念について学ぶ。また、文化財を劣化させるさまざまな要因について具体例を交えて紹介し、文化財を保存する上で必要な保存環境について学ぶ。さらに、日本の文化財の形態や構造を知り、作品修復に使用される材料や道具に触れることで日本文化や文化財を構築する材料への理解を深める。作品調査や修復材料を用いた演習を通して作品の構造や素材への理解を深める。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画) 第1回:「文化財保護法」 ー「文化財保護法」制定までの歴史的背景と法律の内容についてー(講義) 第2回:保存環境1 ー文化財の劣化要因のうち、温湿度と光が作品に与える影響についてー(講義) 第3回:保存環境2 ー文化財の劣化要因のうち、大気汚染と生物被害が作品に与える影響についてー(講義) 第4回:絵画の構造 ー日本絵画の技法と材料、構造についてー(講義) 第5回:装こう文化財の形態・構造 ー掛軸、屏風、冊子に代表される日本の絵画作品の装丁ー(講義) 第6回:装こう文化財の形態・構造 ーそれぞれの装丁の特徴と構造ー(講義) ー掛軸作品を用いた掛け下ろしの取り扱い演習ー(演習) 第7回:装こう文化財の修復に使用される材料 ー掛軸、屏風、冊子などの作品の修復に用いる紙、絹ー(講義) 第8回:装こう文化財の修復に使用される材料 ー掛軸、屏風、冊子などの作品の修復に用いる接着剤(糊、膠、フノリなど)ー(講義) 第9回:作品調査 ー文化財を修復するにあたってどのような調査を行い、どのように判断するのかについてー(講義) 第10回:作品調査 ー傷んだ掛軸作品を観察し、損傷の診断を行う(実践的な学習として、実際の作品を観察しながら調査カルテを作成するグループワークを行う)ー(演習) 第11回:修復素材調査 ー修復に用いる素材を使った演習。素材の観察を通してそれぞれの違いを知るー(演習) 第12回:修復事例紹介 ー実際の修復現場ではどのような処置を行なっているのかについて、事例を通して紹介ー(講義) 第13回:予防保存 ー日常的な作品管理についてー(講義) 第14回:糊炊き ー文化財の修復に使用する小麦でんぷん糊を作る、使うー(演習) 第15回:文化財レスキュー ー自然災害等で被災した文化財を救うための活動についてー(講義)										
(授業の方法) パワーポイントでの講義を中心とし、動画なども用いて説明を行います。 演習では実際の掛軸作品や修復材料を用いて、作品取扱いの練習や損傷した作品の状態観察、修復材料の調整(糊を作って使う、など)を行います。										
テキスト・参考書		教科書は使用せず、必要に応じてプリント配布								
授業時間外の学修		受講前および受講後に美術館、博物館のような文化財を扱う施設等への自主見学								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 授業・演習への参加態度(50%) 課題レポート(50%) (成績評価の基準) 到達目標1:日本の「文化財」の定義を理解し、説明することができる。 到達目標2:文化財作品の構造や素材に興味関心を持ち、そのような切り口から作品を捉えることができる。 到達目標3:文化財作品のおかれた状況に気を配り、損傷状態や保存環境の問題に気づくことができる。								
備考		この授業の基礎となる科目として「博物館学入門」が望まれるが、受講経験がなくてもよい								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						

尾道市立大学授業計画

授業科目名	情報機能論			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度後期		単位数	2単位
科目コード	A-RC-201L		担当教員名	西原 美彩				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目			次に履修が望まれる科目							
【授業の目的と到達目標】										
(授業の目的) デザイン分野の様々な領域で活躍するクリエイターによる講義を通して、自らの創作活動における課題や将来への道筋を見出していくことがこの授業の目的となります										
(受講生の到達目標) ・到達目標1;コメントシートに自分の制作領域との関連について述べるができる。 ・到達目標2;幅広いデザイン分野についての情報や新たな気づきを得ることができる。 ・到達目標3;自身にとっての「情報」とは何か、またそれがどのように機能していくのか、自身の視点で論述することができる。										
【授業の概要】										
この授業はデザイン分野の様々な領域で活動している講師陣によるオムニバス講義から「情報」と「機能」を多角的に捉え直し、自身の活動へのヒントを獲得していきます。										
【オムニバス担当教員】 今氏亮二、加藤芳夫、佐古百美、玉木明、野田尚之、弥中敏和										
(今氏):広義に捉えた「編集」と、そこから生まれるデザインの可能性を考察する (加藤):会社の表現(商品ブランド/パッケージデザイン)と個人の表現(アートワーク)複線のクリエイティブな生き方について考える (佐古):イラストレーションの担う役割について、主に絵本を中心に考える (玉木):デザインにおける重要な能力は、実践力とともに実践する以前の読解力である。本講では、デザインを「いかに読み」、「いかに実践する」かを考察する (野田):色々な広告表現について考察する・最新の映像世界を体感する (弥中):ヒトにとって「情報とは」「機能とは」なにかを考え、デザインを行うための思考的基盤づくりとする										
【授業計画と授業の方法】 講義内容										
(授業計画) 第 1回 (西原):オリエンテーション「講義」 第 2回 (今氏):カタチを作るための編集工学入門「講義」 第 3回 (今氏):編集から生まれるデザインの可能性「講義」 第 4回 (加藤):デザインは手から始まるワークショップ 記憶のカタチからブランド・パッケージデザインを考える「実習」「講義」 第 5回 (加藤):人生とデザイン 複線の生き方とクリエイティブライフ「講義」 第 6回 (佐古):イラストレーションの仕事の多様性と仕事の進め方について「講義」 第 7回 (佐古):出版(主に児童書、絵本)の現状と未来、絵本の本質について考える「講義」 第 8回 (玉木):デザインの読み描き① デザインの読み方「講義」 第 9回 (玉木):デザインの読み描き② デザインの描き方「講義」 第10回 (西原):映像と音の関係について「講義」 第11回 (西原):伝わる意識と感じる無意識「講義」 第12回 (野田):自らが仕事で制作した広告写真やコマーシャル映像を見せながら、実際の広告の世界を体感する「講義」 第13回 (野田):作家として制作した写真や映像、Webコンテンツを見せながら、最新の映像世界やその展開方法について考える「講義」 第14回 (弥中):ヒトが情報や機能を求める背景「講義」 第15回 (弥中):デザインがなすべきこと「講義」										
(授業方法) この授業はデザイン分野において実務経験を有する6名の外部講師と、常勤教員によるオムニバス形式で実施します。 各講師は2回の講義を行います。順番が変わる場合があるので、第1回のオリエンテーションで概要と講師紹介をします。 オムニバス担当教員:今氏 亮二、加藤 芳夫、佐古 百美、玉木 明、野田 尚之、弥中 敏和(敬称略、五十音順)										
毎回の授業後に、Teamsを通じて授業内容への考察や質問や意見を記述する『コメントシート』を提出してもらいます。 Teamsが参照できる端末(スマートフォンやタブレット、PCなど)を準備してください。										
また、この授業の総括として『期末レポート』を期末試験に相当するものとして提出してもらいます。										
テキスト・参考書		講義中に参照すべき資料を適宜紹介します。								
授業時間外の学修		オリエンテーション時、各教員の専門領域を伝えるので、担当教員の業務領域を調べ、質問事項を持って出席してください。 授業後は興味がある情報の分野についてリサーチを行い、期末レポートのためにまとめるようにしてください。 (事前学修)授業に関するリサーチ (事後学修)毎回の授業後にコメントシート作成								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) コメントシート(60%)、期末レポート(40%) (成績評価の基準) ・到達目標1;コメントシートに自分の制作領域との関連について述べるができるか。 ・到達目標2;幅広いデザイン分野についての情報や新たな気づきを得ることができるか。 ・到達目標3;自身にとっての「情報」とは何か、またそれがどのように機能していくのか、自身の視点で論述することができるか。								
備考										
担当教員の実務経験の有無		○	実務経験の具体的内容							

尾道市立大学授業計画

授業科目名	編集とデザイン			開講年次	2年	開講年度学期	2026年度前期		単位数	2単位
科目コード	A-RC-224L/G-HU-224L		担当教員名	伊藤 麻子、小畑 拓也				担当形態		
【科目の位置付け】										
この授業の基礎となる科目					次に履修が望まれる科目					
【授業の目的と到達目標】										
エディトリアルデザインの制作プロセス(企画立案→サムネール作成→取材→執筆→レイアウト→校正)を理解すること。文字の可読性や視認性、誘目性などを考慮しながら、その他の構成要素(写真・イラストレーション・表・地図など)との関係性を理解し、美しく読みやすい、魅力的なレイアウトとは何かを学ぶこと。また、WEB サイトやSNSといったメディアとの比較も視野に入れて、将来的に様々なメディアに携わる「編集とデザイン」の基礎を獲得することが授業の目的です。										
・到達目標1;情報の整理やリサーチすることができ、自分の考えを言語化し書くことができる。 ・到達目標2;多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができ、芸術表現の基礎的なスキルを習得することができる。 ・到達目標3;芸術表現と社会との関わりを理解することができ、知識や情報を得ることができる。										
【授業の概要】										
文章表現のルール、取材・調査と記事、校正の重要性などの編集必須項目から基礎を学びます。また情報を伝達する雑誌などを例として、デザインの専門家の解説を交えながら、文章・画像・図などを組み合わせた美しく読みやすい誌面づくりや、効果的なページ構成への理解を深めます。加えて第一線で活躍している、デザイナーなどをゲストスピーカーとして招き、オムニバス形式でエディトリアルデザインの現状と今後の可能性を探ります。										
【授業計画と授業の方法】										
講義内容										
(授業計画) 第1回 伊藤・小畑:オリエンテーション(授業概要について)「講義」 第2回 小畑:文章表現のルール1(言葉づかいのいろいろ)「講義」 第3回 小畑:文章表現のルール2(文章の組み立て)「講義」 第4回 小畑:文章表現のルール3(禁則処理・約物の使い方)「講義」 第5回 小畑:取材・調査と記事1(取材・調査の手順)「講義」 第6回 小畑:取材・調査と記事2(編集と注釈)「講義」 第7回 小畑:取材・調査と記事3(見出しと物語性)「講義」 第8回 小畑:校正の重要性「講義」 第9回 伊藤・非常勤講師(平林):誌面デザインと広告デザインの解説と魅力の紹介「講義」 第10回 非常勤講師(平林):ブックカバーデザインの解説と魅力の紹介「講義」 第11回 非常勤講師(大悟法):自身のブックデザイン解説「講義」 第12回 非常勤講師(大悟法):書籍・雑誌に見るデザインの流行「講義」 第13回 非常勤講師(岩井):フォントデザインについて「講義」 第14回 非常勤講師(植松):オンスクリーンメディアのデザイン「講義」 第15回 モリサワ:文字セミナー「講義」										
テキスト・参考書		配布資料による								
授業時間外の学修		(事前学修)日頃から編集された本・雑誌などに目を通して編集というもののへの関心を持つようにする。 小畑:2回目の授業以降、前回の授業で提示されたキーワードの辞書・事典による定義・解説を整理しておくこと。 (事後学修)授業を通じて知り得た内容を実際の生活の中からも見つけ出し確認する。 小畑:授業内容を整理して、毎回の小レポートに取り組むこと。 小畑担当部分の各回の事前・事後学習(講義内容の整理と講義で提示されたキーワードをもとにした情報収集)にはおよそ1時間が必要です。								
成績評価の方法と基準		(成績評価の方法) 前半(小畑)授業への取組み意欲・態度(50%)＋実技要素を含んだ小レポート(50%) 後半(伊藤)授業への取組み意欲・態度(小レポートを含む)(40%)＋期末レポート(60%) (成績評価の基準) ・到達目標1;情報の整理やリサーチすることができ、レポートにおいて自分の考えを言語化し書くことができているか。 ・到達目標2;多様な芸術表現に触れ感受性を養うことができ、芸術表現の基礎的なスキルを習得することができているか。 ・到達目標3;芸術表現と社会との関わりを理解することができ、知識や情報をレポートにおいて自身の言葉でまとめることができているか。								
備考		自分の興味の範疇でよいので編集された雑誌などを研究し、構成や文章表現を学ぶこと。 文字(タイポグラフィ)と図版(写真)との関係もページをめくりながら眺めてみよう。 小畑担当分について、課題提示と提出は大学ポータルサイト、授業時間外の質疑応答はMicrosoft Teams上で行うので、PC等のデバイス・ネットワーク環境を整えておくこと。 また、毎回授業内容を確認・整理して実践するための小レポートを課す。 第9回～第15回はゲストによる講義、オムニバス授業、小レポートを課す回もある。								
担当教員の実務経験の有無		○		実務経験の具体的内容						